

新しい「まじめ」の模索

同人会でテーマを話し合ったとき、高校の先生から「生徒たちはまじめではないが、ふまじめでもない」という声が上がった。「生徒たちは言われればそれなりにやるが、言われないと何もしようとしない」「言われた通りにするという意味では、まじめなように思える。しかし、形式的なまじめさだけで、心がこもっていないような気持ちがある」と言う。

そうすると「まじめ」の内容が問題になる。素直に言うことを聞くのを「まじめ」というなら、今の生徒もまじめなのであろう。しかし、だらんとしているだけで自分からは何かしようとしない、そうした無気力さをどう評価したらよいのか。表面的なまじめさはともあれ、心の中から何かをしようという気持ちに欠けるのをどう考えたらよいのか。古めかしい立身を志す必要性はないし、従順でなくともよい。しかし、自分で設定した目標に向かって、自分なりの努力を重ねてほしい。それが新しい「まじめ」ではないだろうか。

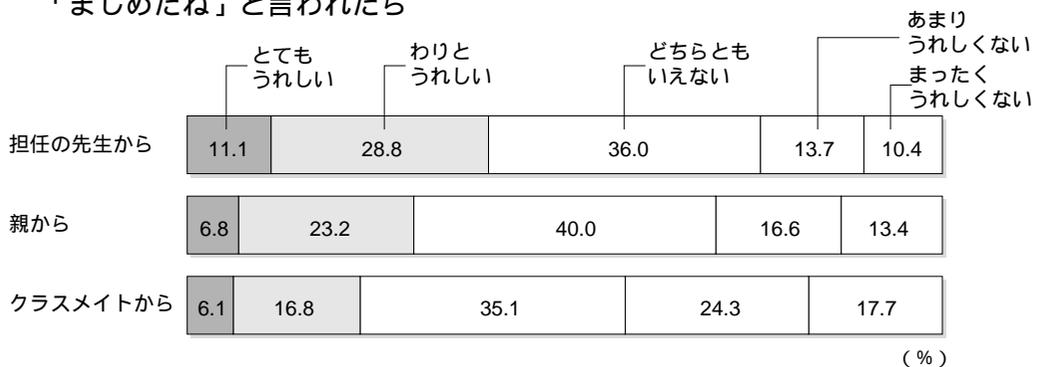
調査概要

対象	青森・秋田・東京の公立・私立高校4校の1～3年生
時期	2001年10月～11月
方法	学校通しによる質問紙調査
サンプル数	1,355名（男子621名・女子734名、1年675名・2年400名・3年280名）

TOPIC 1 「まじめ」と言われて

(⇒p.18)

「まじめだね」と言われたら



「まじめ」と言われることはイヤでもないが、特にうれしいということもない。高校生にとって、「まじめ」は魅力に乏しい言葉なのであろうか。

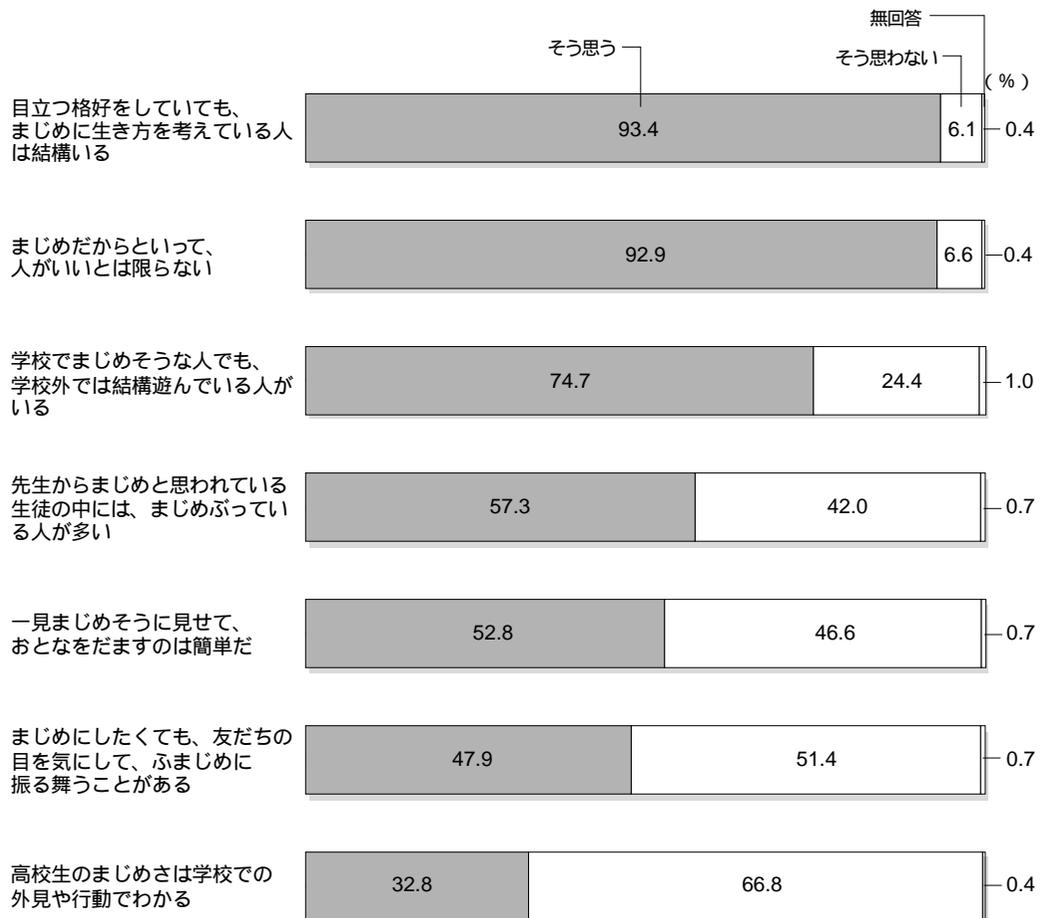
TOPIC

2

「まじめ」と外見

(⇒p.38)

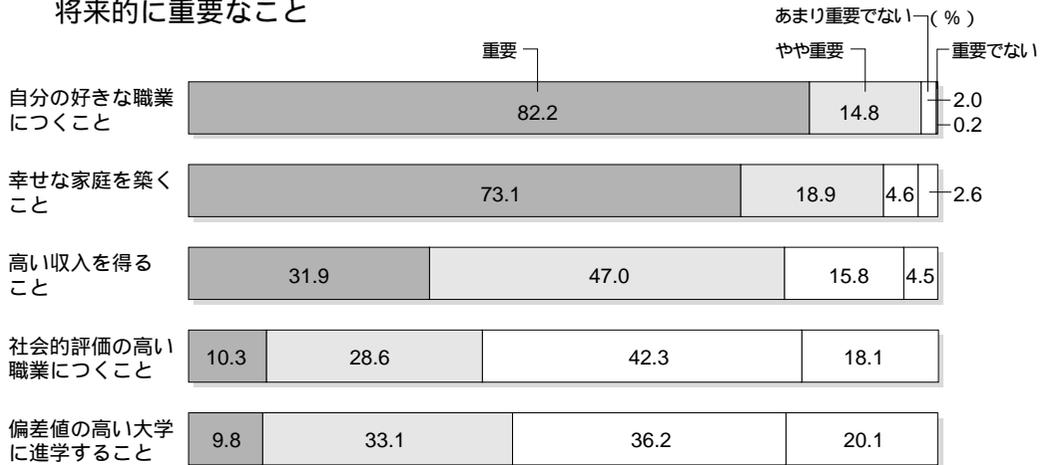
まじめと外見



図が示すように、目立つ格好をしている生徒がふまじめとは言えないし、まじめだからといって、人がいいということもない。それに学校ではまじめでも、他の生活ではまじめ人間ではない場合も多い。外見に惑わされないでほしいと高校生は考えている。

TOPIC 3 これまでの「まじめさ」 (⇒p.24)

将来的に重要なこと



社会的評価の高い職業につきたいから、難関大学への進学を目指して勉強に励む。これまでの高校生の「まじめさ」には、少なからずそうした背景があった。しかし、現在、そうした思いを抱く生徒は少数派になり始めている。

TOPIC 4 学校での「まじめさ」の背景 (⇒p.17)

今の勉強が将来役に立つか × 自分が大事に思うもの

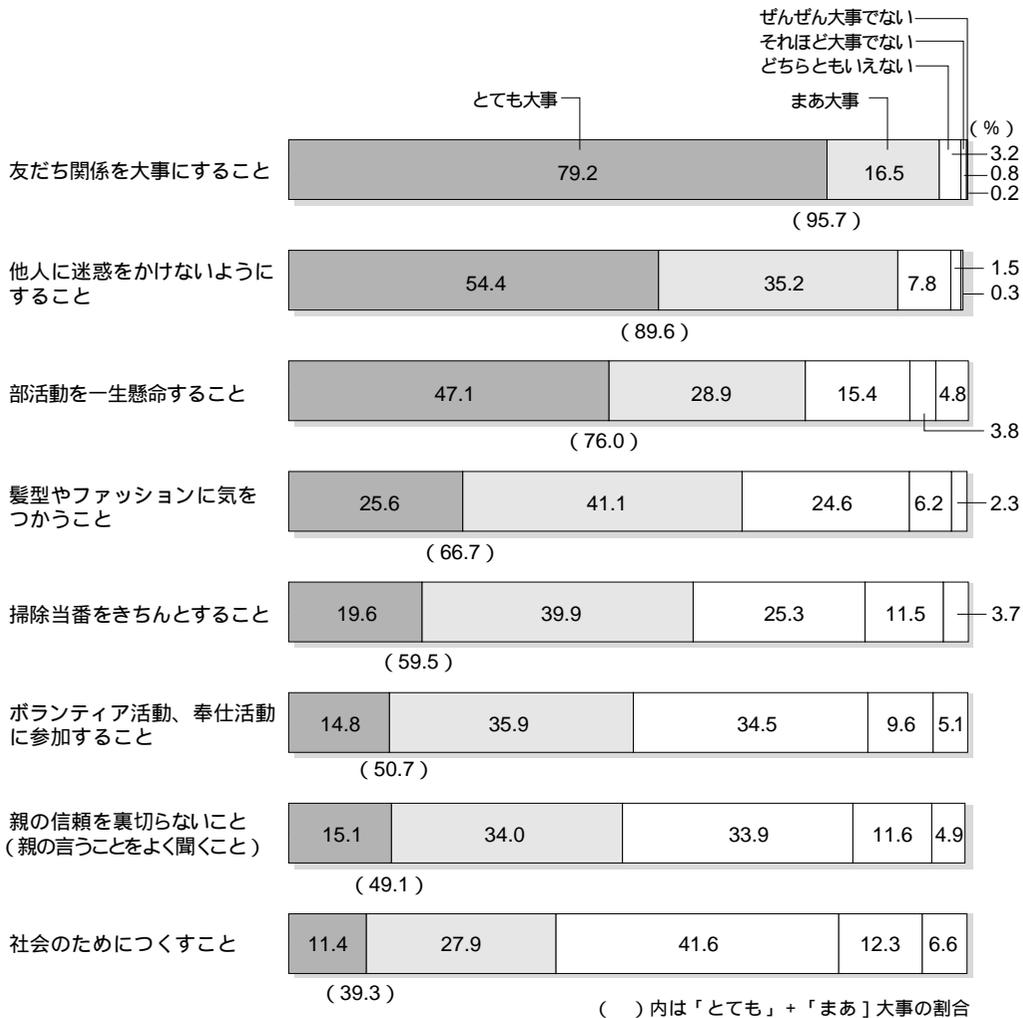
大事に思う対象	今、学校で勉強していることは、あなたにとって将来役に立つか (%)			
	大いに役に立つと思う	かなり役に立つと思う	あまり役に立たないと思う	ぜんぜん役に立たないと思う
学校に毎日行くこと	71.3	> 55.6	> 36.7	> 24.4
学校に遅刻しないこと	55.6	> 39.0	> 27.0	> 21.8
まじめに授業を聞くこと	65.7	> 39.4	> 25.4	> 16.7
勉強をすること	66.7	> 35.2	> 23.8	> 23.1

「とても大事」の割合

「今、学校で勉強していることは将来役に立つこと」と信じている生徒は、「毎日学校へ行くこと」「学校に遅刻しないこと」「まじめに授業を聞くこと」「勉強をすること」などを大切にし、学校でまじめな行動を取る。

TOPIC 5 自分中心に まじめな高校生 (⇒p.19)

大事に思うもの



生徒たちが最も大事だと思うものは「友だち関係」である。「他人に迷惑をかけないようにすること」も大事だと考えているが、この「他人」は自分の周囲の友だちや仲間であり、一般的な社会ではない。自分中心にまじめな高校生の姿がみられる。

TOPIC

6

「まじめ」を肯定する生徒と
否定する生徒との違い

まじめさを肯定する生徒と否定する生徒の態度 (⇒ p.34)

	(%)	
	肯定的	否定的
校則を守ること	58.6	39.5
親の信頼を裏切らないこと(親の言うことをよく聞くこと)	56.4	41.2
社会のためにつくすこと	46.2	31.6
勉強をすること	82.3	68.8
部活動を一生懸命すること	80.6	70.7
学校に遅刻しないこと	82.3	72.4
髪型やファッションに気をつかうこと	62.6	71.8
まじめに授業を聞くこと	84.6	76.1
ボランティア活動、奉仕活動に参加すること	54.6	46.3
掃除当番をきちんとすること	63.1	55.1
学校に毎日行くこと	88.5	80.7
読書をすること	63.5	56.6
他人に迷惑をかけないようにすること	92.9	87.3
アルバイトを一生懸命すること	30.0	35.1
流行に遅れないようにすること	37.6	40.4
塾、予備校に通うこと	12.1	9.6
異性とつきあうこと	61.9	62.9
友だち関係を大事にすること	96.1	95.4

「とても」+「まあ」大事の割合

まじめさの数量化 類 (⇒ p.30)

質問項目	軸
(-)好きな言葉・はい	- 2.979
肯定的 人間にとって大切なことである・はい	- 1.334
融通がきかなくて、堅苦しい・いいえ	- 1.175
素朴さ、正直さ、誠実さを感じる・はい	- 1.033
どこかうそっぽいイメージがある・はい	1.063
否定的 人間にとって大切なことである・いいえ	1.166
素朴さ、正直さ、誠実さを感じる・いいえ	2.131
(+)努力、一生懸命にする・いいえ	2.792

「まじめ」の価値を肯定する生徒は、校則を守り、部活動に取り組み、まじめに授業を聞いている割合が大きい。換言するなら、授業をさぼり、遅刻する生徒は努力することの価値そのものを信じていないように思える。

TOPIC

7

まじめさの底流

(⇨p.43)

誠実さ × 道徳心

(列%)

		自分をごまかさない(自分に誠実に生きる)		
		とても大切	やや大切	大切でない
道徳心を持つ	とても大切	51.1	22.1	16.2
	やや大切	38.1	59.1	46.5
	大切でない	10.8	18.8	37.4
将来、社会に役立つ ような人間になる	とても大切	39.4	18.6	12.1
	やや大切	36.4	49.8	32.3
	大切でない	24.2	31.6	55.6

<大切でない>は「あまり大切でない」+「ぜんぜん大切でない」。無回答を除いた割合

道徳心を持ち、将来、社会に役立つような人間になることはとても大切だと思っている生徒は、誠実に生きようとしている。つまり、誠実に生きるためにはそれなりの人生観を持つことが重要になる。

まとめ

まじめさの再生は可能か

見かけとまじめさを分けてほしい

生徒たちは「まじめと外見を分けてほしい」、そして「授業中のまじめを過信しないでほしい」と願っている。奇抜な格好をしていても、本当はまじめな生徒が少なくないし、それとは逆に授業中は神妙な態度をとっていながら、先生の知らないところで、結構、悪さをしている生徒もいる。だから、見かけだけでまじめかどうかを判断しないでほしいという。

生き方を育てよう

高い大きな望みでなくてもよい。自分なりのゴールを設定させる。そして、ゴールへ到る道筋を考えさせる。そうすれば、自ずと生徒はゴールを目指すのではないか。生徒たちのまじめさが欠けるように思えるのは、生徒たちが生きる目標を設定できないでいるからではないか。変動が激しく、未来が不透明な時代だけに、過去や現在にとらわれることなく、それぞれの生徒が思い切って自分の人生を設計してほしいと思った。

はじめに

「まじめさ」の崩れと模索

「まじめさ」のモデル

「まじめ」という言葉で誰の生き方を連想するだろうか。少し前の時代なら、二宮金次郎を思い起こす人が多だろう。第二次世界大戦まで、小学校には、背中に薪を背負い、読書をする金次郎の銅像が校庭に安置されていたし、「手本は二宮金次郎」という唱歌もあった。戦後に、金次郎は国家主義の教育のシンボルとみなされ、多くの学校で金次郎像は撤去された。

金次郎の生涯を洗ってみると、住民の立場から地域の改善運動を展開した優れた篤志家で、国家主義とのかかわりは冤罪に近い。そうした史実はともあれ、金次郎には金次郎的なイメージが作られ、一種の理想像が形成される。

その他にも、かつての子どもたちが好んだ伝記には、野口英世やシュバイツァー、キュリー夫人など、まじめに生きた人たちの人生が描かれていた。そうした伝記を読んで、子どもは自分もそう生きようと思う。伝記は、いわば、子どもが生きるための導きの星的な役割を果たしていた。

金次郎に象徴される伝記の主人公たちは、「まじめな生き方」を具現化しているが、思い起こしてみると、そうした人物はいくつかの共通な特性を備えているのに気づく。

志を抱いて = 「青雲の志を抱いて」という言葉があった。将来に夢を賭け、夢に向かってがんばる。「仰げば尊し」の一節「身をたて、名をあげ」、つまり、立身出世を望む態度がまじめさの基底に横たわっている。

禁欲的に = 「蛍の光」の一節、「蛍の光、窓の雪」は禁欲を象徴している。もちろん、昔でも蛍の光や窓の雪を頼りに本を読むなどできるはずもないが、それでも志を果たすまでがまんをして、禁欲的な態度で貫くことが求められた。

体制に従順に = 禁欲が示すように、多くの場合、恵まれた環境ではないが、逆境を恨むこと

なく、反抗せずに、与えられた環境の中で努力する態度が大事だった。

「まじめさ」の土壌が崩れる

本モノグラフは、高校生の「まじめさ」を考えようとしている。もちろん、その前提として、生徒のまじめさの崩れが念頭にあった。しかし、考えてみれば、無理もない。まじめさを支えた3つの要素がいずれも弱まり、まじめさの土壌が崩れた印象を受ける。

達成目標の喪失 = 政治の世界での腐敗が連日のように報じられている。その一方で、大手企業の倒産やリストラに歯止めがかからない。一流大学を卒業し、まじめに大手企業に勤めていても、倒産に巻き込まれることもある。そうした状態では、どうすれば身を立てることができるか、ゴールを見つけにくいのが実状であろう。

豊かな社会の中で = 不況が続いている。といっても、今日の食に困ることは少ない。特に現在の不況は中高年者に厳しく、若者の場合、パートに不自由しない。それだけに、高校生は何千円程度のことをがまんすることは少ない。禁欲的とは無縁の状況である。

体制に無関係で = 情報化社会を迎えると、変化が激しさを増し、伝統的な価値観が揺らぎ始める。近隣社会が崩れ、家庭のあり方も変容する。そうした状態では、体制という絆が緩み、個人として自由に生きる幅が広がってくる。

したがって、社会的な達成を目指して禁欲的に努力するという意味での「まじめさ」が希薄なことは確かであろう。それと同時に、実をいうと、これまで「まじめさ」の対極に「ふまじめさ」があった。「ふまじめさ」とは、「まじめさ」とは逆に、目標を立てようとせず、気の向くままに、がまんすることもなく、反抗的な態度をとる逸脱的な行為を意味した。

そして、ここで問題になるのは、「まじめさ」

が減ったといっても、それは「ふまじめさ」へ移行したわけではないという事実であろう。努力する態度は薄れたが、かといって、積極的に怠けたり反発するわけではない。

新しい「まじめさ」の模索

そうした意味では、「まじめ - ふまじめ」の軸が機能しなくなったのであろう。実際に、同人会でテーマを話し合ったとき、高校の先生から「生徒たちはまじめではないが、ふまじめでもない」という声が上がった。生徒たちは「言われればそれなりにやるが、言われないと何もしようとしない」という。言われた通りにするという意味では、まじめのように思えるが、でも、形式的なまじめさだけで、心がこもっていないような気持ちがす

るともいう。

そうすると、「まじめさ」の内容が問題になる。素直にいうことを聞くのをまじめというなら、今の生徒もまじめなのであろう。しかし、だらんとしているだけで、自分から何かしようとしなない。そうした無気力さをどう評価したらよいのか。表面的なまじめさはともあれ、心の中から何かをしようという気持ちに欠けるのをどう考えたらよいのか。古めかしい立身を志す必要性はないし、従順でなくともよい。でも、自分で設定した目標に向かって、自分なりの努力を重ねてほしい。それが、新しいまじめさなのではないだろうか。

本レポートはそうした問題意識から分析を進めたものだが、このデータをどう考えるか、もう少しゆっくりと時間をかけて考えてみたいと思った。



第1章

調査の意図と調査対象の特質

1. 調査の意図

若者の特権と言えば、おとなへの反発や反抗であろう。若者はおとなからの伝統的規範や世俗的原理の押しつけに対し反発し、時に傷ついた者同士で徒党を組みサブカルチャーを作りそれにコミットすることでおとなに対抗してきた。

井上俊は青年期の特徴として離脱文化をあげ、俗原理から聖の方向への離脱（まじめ）と遊の方向への離脱（遊戯）があるとした。1960年代半ばまでは青年の離脱は聖（まじめ）の方向が主だったのに対して、1960年代の後半からは遊び（遊戯）の方向への離脱が主になっていった。若者は遊びの立場から、聖（まじめ）が俗と結びつき墮落していくのを告発し、聖（まじめ）の価値は下がり、それ以降「まじめ」の価値は地に落ちた（井上俊『遊びの社会学』世界思想社1977年）。

1991年に日本青少年研究所所長千石保は『「まじめ」の崩壊』（サイマル出版会）を書き、「<まじめ>を拒否し、<ノリ>に興ずる若者たちは、日本の明日を担えるのか」と警告した。

バブルが弾け不況期に入り、若者たちは様変わりをはじめた。2001年に千石保は、『新エゴイズムの若者たち』（PHP研究所）を書き、若者たちの間で奇抜な若者文化を残しながらも、そこから一歩抜け出した新しい自己主張をする「新まじめ」主義が台頭してきているとした。

教育現場からは、豊かな社会の中で生徒たちの「消費主義」「わがまま」「無規範性」は止まるところを知らないという声もある一方、「近頃の生徒はまじめになった」「まじめに授業に取り組むようになった」「教師の言いつけを素直に聞くようになった」という声も聞こえてくる。それは「表面的な取り繕いがうまくなった」だけで、不まじめな生徒の本質は変わらないという見方もある。

このような生徒たちの、消費主義、わがまま、

まじめ主義、規範意識をめぐる状況はどのようになっているのであろうか。経済不況期の現在、現代の高校生の中に、バブルの時期に崩壊した「まじめ主義」は、再び復活しているのであろうか。まじめに努力して、厳しい将来に備えようという気持ちが出てきているのであろうか。

今回4校の高校生に対して、まじめ及びまじめをめぐる事柄に関してアンケート調査を実施した。

質問の構成は、下記のようにになっている（（ ）内は設問番号）。

属性（1） 友人関係（2～3） 規範意識（4～5） 授業中の態度（6～7） 勉強の意味（8） 充実感を感じる時（9） 大事に思っていること（10） 大切なこと（11） まじめについてのイメージ・意見（12～16） 自分とは（17） 人生観（18） 将来像（19） 親と比べて（20） 社会観（21～22） 部活動（23） 成績（24） 進路希望（25） 高校生活満足度（26）

2. 調査対象の特質

調査対象校の特徴を記せば、下記のごとくである。

A校 - 東北地方の県立高校。男女共学。1学年8クラス（普通科7クラス）。創立100年を越える伝統校。

B校 - 東北地方の県立高校。男女共学。1学年8クラス（普通科のみ）。創立は昭和50年代。

C校 - 東京都にある都立高校。男女共学。1学年8クラス（普通科のみ）。創立は昭和40年代。

D校 - 東京都にある私立高校。男女共学。1学年11クラス（普通科のみ）。創立は昭和30年代。生徒の回答から、各学校の特質を探ると、表1-1のようになる。

高校間格差で言えば、大学進学希望率からみて「中の上」、ないし「上の下」に属する学校が調査

対象校といえよう。部活動加入率はどこも6割を超えているが、都立のC校の運動部加入率が際立って高い。学校満足度は、東京の2校が東北の2校より高い。

今回の調査対象校と回答者数の内訳を表1-2に示した。全体で1,355名が対象。男子621名(45.8%)、女子734名(54.2%)である。1年生675

名(49.8%)、2年生400名(29.5%)、3年生280名(20.7%)である。

B校とC校は性別及び学年がバランスよく回答が得られているが、A校は1年生だけで、D校は2年生が多くサンプルも少ないという偏りもみられる。分析の際、この点を考慮した。

表1-1 調査対象校の特質

	4年制大学 (入るのが難しい +普通程度)	卒業後の進路希望			高校生活 満足度 (とても+かなり +やや)	部活動 加入率	運動部 加入率 (熱心+不熱心)	文化部 加入率 (熱心+不熱心)
		短大	専門・専修学校	就職				
A校	70.8	2.6	7.5	6.8	83.8	69.2	51.0	18.2
B校	65.7	5.7	15.7	5.5	79.7	64.7	49.0	15.7
C校	82.4	0.0	2.4	0.3	96.3	87.1	74.6	12.5
D校	91.4	0.0	0.0	0.0	94.3	71.4	45.7	25.7

表1-2 調査対象者数(全体、性別、学年別)

	全体	性別		学年		
		男子	女子	1年	2年	3年
A校	308	158	150	308	0	0
B校	715	302	413	249	259	207
C校	296	151	145	110	113	73
D校	36	10	26	8	28	0
合計	1,355	621	734	675	400	280

第2章

学校生活でのまじめさ

「今どきの高校生に“まじめ”は受けない」、よくいわれる言い方である。あるいは、「マジ」という言葉は、若者たちの間では、人を揶揄する言い方としてよく使われている。確かに、今の高校生にとって、「まじめ」という言葉はあまり受けのよい言葉ではないようだ。

そこで、この章では、高校生の学校生活を中心に、今の高校生は学校生活では「まじめ」なのかどうか、また学校生活で「まじめ」であるならば、どのような「まじめさ」を見せているのか、探ってみたい。

1. 授業中「まじめ」な高校生

1) 基本的にはまじめな授業中

授業中の様子を尋ねた調査結果によると、結構まじめに授業に取り組んでいる高校生の姿が浮かんでくる。

表2-1をみてみよう。アンケートの結果によると、「授業中、ノートをきちんと取る」という問いに対し、「よくある」+「ときどきある」の肯定的な回答は92.5%に達しており、またその中で

表2-1 授業中の態度・様子

	よくある	ときどきある	あまりない	ぜんぜんない
授業中、ノートをきちんと取る	72.1	20.4	5.7	1.7
	92.5			
いねむりをする	25.1	46.9	17.4	10.3
	72.0			
友だちとおしゃべりをする	17.0	52.5	21.1	9.3
	69.5			
宿題や別の教科や受験の勉強をする	10.3	43.2	29.3	16.9
	53.5			
携帯電話・PHSで話したり、メール交換をしたりする	11.2	28.6	25.4	34.7
	39.8			
友だちに渡すメモや手紙を書く	4.0	17.3	28.9	49.4
	21.3			
マンガや雑誌、小説を読んだりする	4.7	14.4	22.0	58.7
			80.7	
テープ、CD、MDなどで音楽を聴く	2.5	3.0	7.9	86.5
			94.4	
教室を立ち歩く	1.2	3.2	15.4	80.1
			95.5	

も「よくある」は72.1%とかなり高い率を示している。また、表2 - 2からもわかるように、今自分が大事に思うものを尋ねたアンケート結果でも、「とても大事」+「まあ大事」の肯定的な回答は、「まじめに授業を聞くこと」が80.7%、「勉強をすること」が75.7%であった。これらの回答結果からも、高校生が授業や勉強を大事なものと考えていることがわかる。

一方、授業中に非常識な行動をする生徒の比率は、全般的にかなり低い。表2 - 1によると、授業中の非常識な行動に対する否定的な回答（「あまりない」+「ぜんぜんない」）は、「教室を立ち歩く」が95.5%、「テープ、CD、MDなどで音楽を聴く」が94.4%、また「マンガや雑誌、小説を読んだりする」が80.7%であった。おしなべて、授業中に非常識な行動をとる生徒の比率はかなり低いことがわかる。

今の高校生は、基本的には授業や勉強を大事なものと考え、ノートをきちんと取り、まじめに授業を受けているのではないか。

2) 授業中の「おしゃべり」や「いねむり」 しかし、生徒たちのまじめさを額面通りには受

け取れないように思う。「授業中に私語が多い」、最近学校でよく聞かれる言葉である。また、授業中の「いねむり」や「内職」、これらも昔からみられる教室風景である。生徒たちの実態はどのようなだろうか。

アンケートの結果によると、授業中におしゃべりをする生徒はかなり多い。表2 - 1からわかるように、授業中に「友だちとおしゃべりをする」と回答した者は、「よくある」が17.0%、「ときどきある」が52.5%で、肯定的回答の合計は69.5%であった。

また表2 - 1によると、授業中に「いねむりをする」と回答した生徒は72.0%（「よくある」25.1%・「ときどきある」46.9%）であり、また「宿題や別の教科や受験の勉強をする」と回答した生徒は53.5%（「よくある」10.3%・「ときどきある」43.2%）であった。いねむりや内職、これらはどこの教室でもみられる風景であろう。しかし、4分の1の生徒がよく「いねむり」をし、さらに2分の1近くの生徒がときどき「いねむり」をするという結果は、結構高い数字といえよう。こらえ性のない今の高校生を表しているのだろうか。

表2 - 2 大事に思うもの（学校生活）

	(%)				
	とても大事	まあ大事	どちらとも いえない	それほど 大事でない	ぜんぜん 大事でない
まじめに授業を聞くこと	33.6	47.1	13.8	3.8	1.6
	80.7				
勉強をすること	31.5	44.2	17.0	5.2	1.7
	75.7				

2. 授業では、どんなふうに「まじめ」なのか？

1) 特徴のある授業には、熱心に取り組む生徒たち

ところで、生徒たちはどのように授業にまじめに取り組んでいるのであろうか。

図2-1は、「次のような授業のとき、あなたは熱心に授業に取り組めますか」という設問に対する回答を、まとめて図示したものである。図からわかるように、高校生たちは、自分の興味のある教科の授業（「はい」97.2%）、受験にかかわる教科の授業（「はい」83.6%）、熱心な先生の授業（「はい」81.1%）の順で、授業に対して熱心に取り組むと回答している。

ところで、これらの回答で特徴的なことは、全般的に「はい」と答えた生徒の割合がかなり高いという点である。数字をあげてみると、一番高い「自分の興味のある教科の授業」では97.2%、最も低い「やさしい先生の授業」でも67.4%であった。筆者は公立高校の教師であるが、高校現場における印象では、生徒たちの授業への熱心さは必ずしもそれほど高くないというのが実感である。しかし、高校生たちは、「興味もてる」授業や「熱心な先生」を求めているのであり、言い換えるならば、教師の授業に対する工夫や熱意が求められているとも言えるのではないか。

2) どのような生徒が授業に熱心に取り組むのか

ところで、どのような生徒がまじめに授業を受け、また熱心に授業に取り組もうとしているのか。クロス集計を用いて、高校生たちの授業に対する意味づけや、授業に対する満足度と、授業への取り組みとの関係を探ってみた。

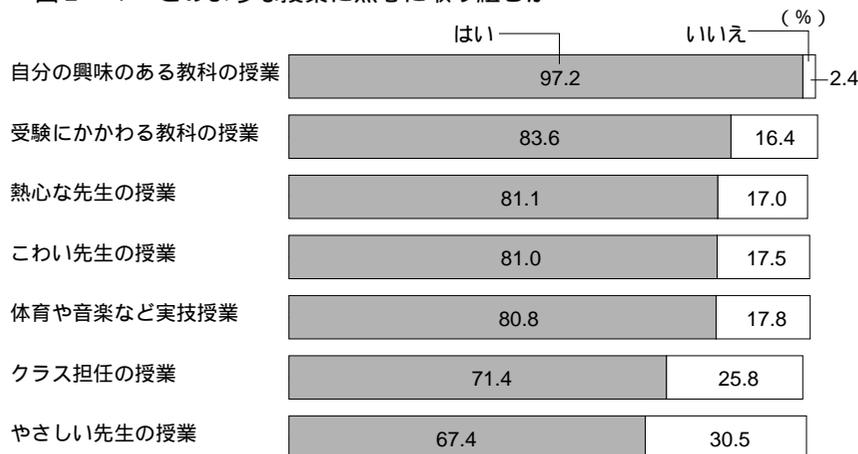
表2-3は、「今学校で勉強していることが、将来役に立つか」という質問項目と、「授業中の態度や様子」をクロスさせたものである。

この表2-3によると、授業中ノートをよく取っている生徒（「よくある」と回答した生徒）は、今の勉強が将来「大いに役に立つ」と思っている生徒では80.6%にもなるが、今の勉強が将来「ぜんぜん役に立たない」と思っている生徒では51.3%にすぎないということがわかる。また、授業中友だちとおしゃべりやいねむりがよくあると答えた生徒は、今の勉強が将来「ぜんぜん役に立たない」と思っている生徒に一番多いこともわかる。予想されることであるが、総じて、今の勉強が将来役に立つと思っている生徒は、まじめに授業に取り組んでいることがわかる。

次に表2-4は、「現在の高校の授業に満足しているか」という質問項目と、「どのような授業に熱心か」をクロスさせたものである。

この表2-4によると、たとえば「受験にかかわる教科の授業」に熱心に取り組んでいるのは、現在の授業に「とても満足している」生徒では

図2-1 どのような授業に熱心に取り組むか



89.3%、「とても不満である」と感じている生徒では62.0%であった。また、「やさしい先生の授業」に熱心に取り組んでいるのは、現在の授業に「とても満足している」生徒では82.4%、「とても不満である」と感じている生徒では51.9%であった。このように、現在の授業に満足している生徒ほど、熱心に授業に取り組んでいることがわかる。

ところで、この表からもう1つ特徴的にわかることは、生徒の授業に対する興味関心が、他の要因を超えて、授業に対し生徒を熱心に取り組ませる要因になっていることである。表2-4の「自分の興味のある教科の授業」の項目に着目してみよう。他の種類の授業では、授業への満足度が下

がると授業に対する熱心さも低下するが、「自分の興味のある教科の授業」においては、授業に対する満足度とほとんど関係なく、どの生徒も非常に高い熱心さを示していることがわかる。ちなみに、「自分の興味のある教科の授業」に熱心に取り組むと回答した生徒は、現在の授業に「とても満足している」生徒が96.5%であったが、「とても不満である」生徒でも92.6%であった。ここからわかるのは、生徒の授業に対する興味関心が、授業に対する満足度という要素を超えて、授業に対し生徒を熱心に取り組ませる大きな要因になっているということであろう。

表2-3 今の勉強が将来役に立つか × 授業中の態度・様子

(%)

授業中の態度・様子	どれくらいあるか	今、学校で勉強していることは、あなたにとって将来役に立つか			
		大いに役に立つと思う	かなり役に立つと思う	あまり役に立たないと思う	ぜんぜん役に立たないと思う
授業中、ノートをきちんと取る	よくある	<u>80.6</u>	> 76.6	> 69.8	> <u>51.3</u>
	ときどきある	10.2	19.5	22.2	26.9
友だちとおしゃべりする	よくある	18.5	> <u>14.6</u>	< 16.7	< <u>32.1</u>
	ときどきある	47.2	55.5	53.5	33.3
いねむりをする	よくある	27.8	> <u>19.4</u>	< 27.5	< <u>41.0</u>
	ときどきある	28.7	52.4	46.5	38.5

—— は最大値、---- は最小値

表2-4 現在の授業に満足しているか × どのような授業に熱心か

(%)

どのような授業か	熱心に取り組むか	あなたは、現在の高校の授業に満足しているか				
		とても満足している	かなり満足している	やや満足している	かなり不満である	とても不満である
自分の興味のある教科の授業	はい	96.5	< <u>99.5</u>	> 98.2	> 97.1	> <u>92.6</u>
	いいえ	3.5	0.5	1.8	2.9	7.4
受験にかかわる教科の授業	はい	<u>89.3</u>	> 88.5	> 87.0	> 77.8	> <u>62.0</u>
	いいえ	10.7	11.5	13.0	22.2	38.0
熱心な先生の授業	はい	88.2	< <u>90.9</u>	> 84.2	> 77.7	> <u>66.0</u>
	いいえ	11.8	9.1	15.8	22.3	34.0
やさしい先生の授業	はい	<u>82.4</u>	> 76.9	> 70.2	> 62.8	> <u>51.9</u>
	いいえ	17.6	23.1	29.8	37.2	48.1

—— は最大値、---- は最小値

3. 学校についてはまじめな高校生

1) 学校については、かなりまじめな姿勢を持っている

生徒たちの授業についての態度がわかったところで、次に、対象をもう少し広げて、学校生活全般にわたって生徒たちがどのようなことを大事に考えているかをみてみよう。

図2-2は、高校生に、学校生活を中心に、どのようなことを大事に思うか尋ねたものを一覧にした図である。学校に関する項目に絞って、具体的にみてみよう。「とても大事」+「まあ大事」という肯定的な回答の数字をあげてみると、「学校に毎日行くこと」84.7%、「まじめに授業を聞

くこと」80.7%、「学校に遅刻しないこと」77.6%、「勉強をすること」75.7%、「校則を守ること」49.8%であった。

これらの数値から、学校を勉強する場としてとらえ、それを大事にしようと考えている高校生の姿が見えてくる。このような学校や授業に対する高校生の姿勢は、彼らが勉強や学校を「まじめ」なものとしてとらえている現れといえるのではないか。

2) どのような生徒が学校を大事に思っているのか

ところで、どのような生徒が学校を大事に思っているのか。ここでもクロス集計を用いてもう少し考察してみよう。

図2-2 自分が大事に思うもの

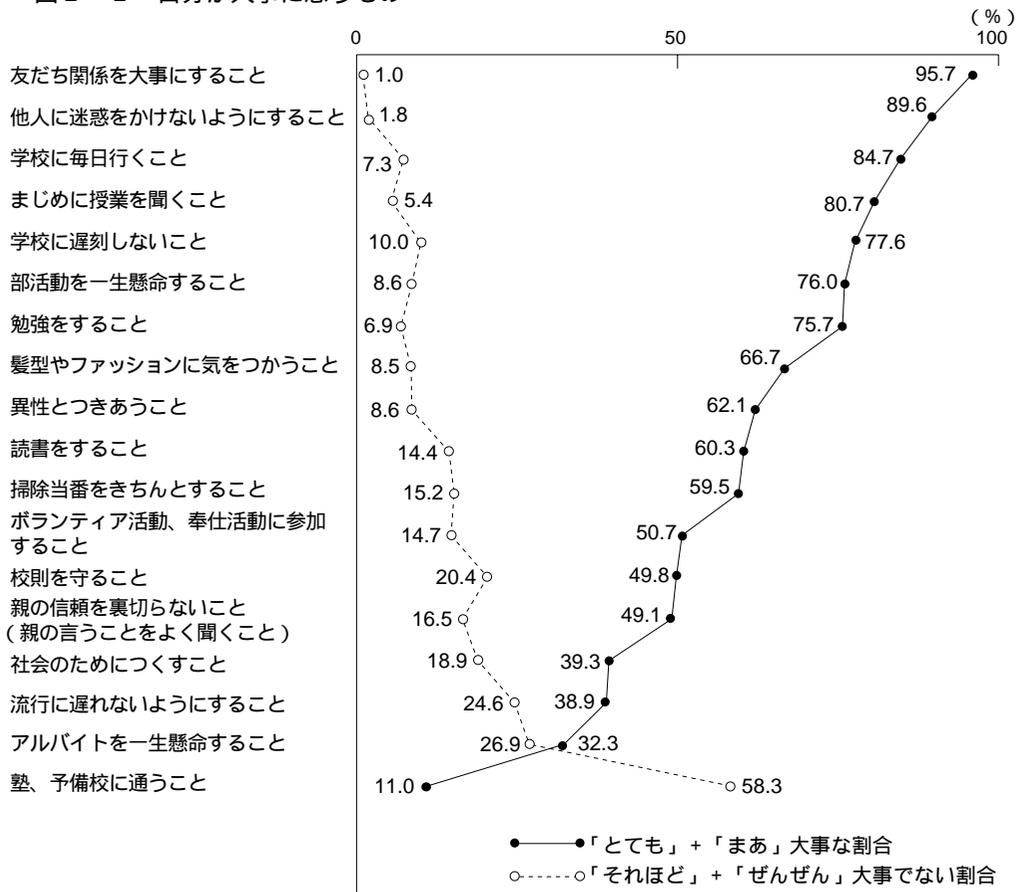


表2 - 5は、「今学校で勉強していることが将来役に立つか」という質問項目と、「自分が大事に思うもの」をクロスさせたものである。どれくらい大事に思うかについては、「とても大事」「まあ大事」の肯定的な回答と、その両者の合計が示してある。

この表によると、学校や勉強のどの項目においても、今の勉強が将来「役に立つ」と思っている生徒ほど、大事と思う数値が高くなっているのがわかる（「とても大事」および「とても大事」+「まあ大事」の合計の数字は、すべて左側にいくほど数値が大きくなっている）。このことから、今の勉強が将来「役に立つ」と思っている度合い

が高い生徒ほど、学校に関するいろいろなことを大事に思っているのがよくわかる。

次に表2 - 6は、「現在の高校に全体として満足しているか」という質問項目と、「自分が大事に思うもの」をクロスさせたものである。ここでも、どれくらい大事に思うかについては、「とても大事」「まあ大事」の肯定的な回答と、その両者の合計が示してある。

ここにおいても、表2 - 5と同じような傾向がみとれる。「現在の高校に全体として満足している」度合いが高い生徒ほど、学校に関するいろいろなことを大事に思っているのがわかる。

表2 - 5 今の勉強が将来役に立つか × 自分が大事に思うもの

大事に思う対象	どれくらい大事に思うか	今、学校で勉強していることは、あなたにとって将来役に立つか			
		大いに役に立つと思う	かなり役に立つと思う	あまり役に立たないと思う	ぜんぜん役に立たないと思う
学校に毎日行くこと	とても大事	<u>71.3</u>	> 55.6	> 36.7	> <u>24.4</u>
	まあ大事	23.1	35.1	44.8	39.7
	(小計)	(<u>94.4</u>)	> (90.7)	> (81.5)	> (<u>64.1</u>)
学校に遅刻しないこと	とても大事	<u>55.6</u>	> 39.0	> 27.0	> <u>21.8</u>
	まあ大事	31.5	44.2	47.0	35.9
	(小計)	(<u>87.1</u>)	> (83.2)	> (74.0)	> (<u>57.7</u>)
まじめに授業を聞くこと	とても大事	<u>65.7</u>	> 39.4	> 25.4	> <u>16.7</u>
	まあ大事	26.9	50.1	49.9	33.3
	(小計)	(<u>92.6</u>)	> (89.5)	> (75.3)	> (<u>50.0</u>)
勉強をすること	とても大事	<u>66.7</u>	> 35.2	> 23.8	> <u>23.1</u>
	まあ大事	23.1	51.9	44.7	23.1
	(小計)	(<u>89.8</u>)	> (87.1)	> (68.5)	> (<u>46.2</u>)

—— は最大値、---- は最小値

表2 - 6 現在の高校に全体として満足しているか × 自分が大事に思うもの

大事に思う対象	どれくらい大事に思うか	あなたは、現在の高校に全体として満足しているか				
		とても満足している	かなり満足している	やや満足している	かなり不満である	とても不満である
学校に毎日行くこと	とても大事	<u>65.7</u>	> 55.0	> 40.4	> 34.5	> <u>19.4</u>
	まあ大事	29.2	35.6	43.7	40.0	33.9
	(小計)	(<u>94.9</u>)	> (90.6)	> (84.1)	> (74.5)	> (<u>53.3</u>)
学校に遅刻しないこと	とても大事	<u>46.1</u>	> 33.9	> 31.4	> 29.7	> <u>25.8</u>
	まあ大事	37.1	47.5	46.4	44.1	19.4
	(小計)	(<u>83.2</u>)	> (81.4)	> (77.8)	> (73.8)	> (<u>45.2</u>)
まじめに授業を聞くこと	とても大事	<u>46.1</u>	> 40.3	> 28.6	> 26.2	> <u>22.6</u>
	まあ大事	38.8	45.0	52.5	47.6	32.3
	(小計)	(<u>84.9</u>)	< (85.3)	> (81.1)	> (73.8)	> (<u>54.9</u>)
勉強をすること	とても大事	<u>43.3</u>	> 37.0	> 28.5	> <u>20.0</u>	< 24.2
	まあ大事	43.3	44.3	48.2	37.2	30.6
	(小計)	(<u>86.6</u>)	> (81.3)	> (76.7)	> (57.2)	> (<u>54.8</u>)

—— は最大値、---- は最小値

4. 「まじめ」と言われたら

それでは高校生にとって、まじめさとはどういうものなのだろうか。表2-7は、担任、親、クラスメイトという高校生をとりまく3つの人間関係からの「まじめ」という言葉をかけられたとき、どのように受け止めているかをまとめたものである。全体では「とても+わりとうれしい」の数値が高いのは「担任の先生から」言われたときの39.9%、次いで「親から」言われたときの30.0%。「クラスメイトから」言われたときは22.9%である。男女別では女子が「クラスメイトから」言われたとき、17.9%と男子よりも10%以上も低い。

逆に「あまり+まったくうれしくない」が女子

の場合、「クラスメイトから」言われたとき、48.5%と約半分となっている。図2-3と図2-4は女子と男子をそれぞれ学年別に比較したものである。男子は「担任の先生から」と「クラスメイトから」で女子を上回り、女子は「親から」のときのみ男子を上回る。特に2年女子は「担任の先生から」よりも「親から」の「まじめ」をうれしく受け止め、「クラスメイトから」の「まじめ」は低いレベルである。

調査設問Q16では「まじめにやろうと思うのはどのようなときか」をフリーアンサーで聞いている。男子に「部活動」「勉強」「将来の進路」と具体的に答えている生徒が目立つのに対し、女子の場合は「自分の好きなこと」といった自分の世界にかかわる答えが目につく。

表2-7 人から「あなたはまじめだね」と言われたらどう思うか × 性・学年

		(%)					
		全体	男子	女子	1年	2年	3年
担任の先生から							
	とても+わりとうれしい	39.9	40.5	39.4	43.1	38.3	34.3
	あまり+まったくうれしくない	24.1	24.5	23.7	25.1	21.6	25.4
親から							
	とても+わりとうれしい	30.0	29.1	30.7	31.4	31.4	24.6
	あまり+まったくうれしくない	30.0	32.4	28.0	31.8	24.6	33.2
クラスメイトから							
	とても+わりとうれしい	22.9	28.8	17.9	25.9	19.6	20.3
	あまり+まったくうれしくない	42.0	34.5	48.5	43.6	41.1	39.7

図2-3 人から「あなたはまじめだね」と言われたらどう思うか × 女子・学年

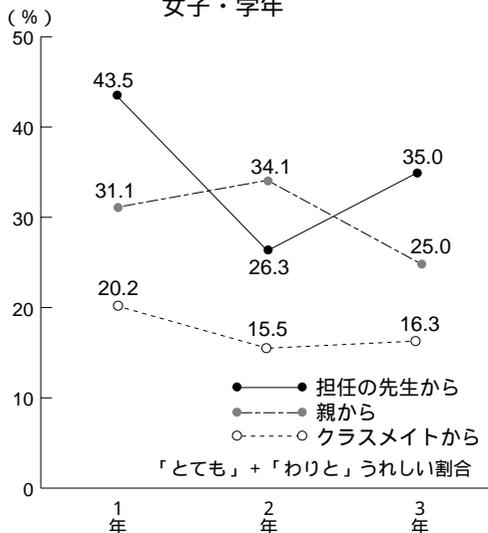
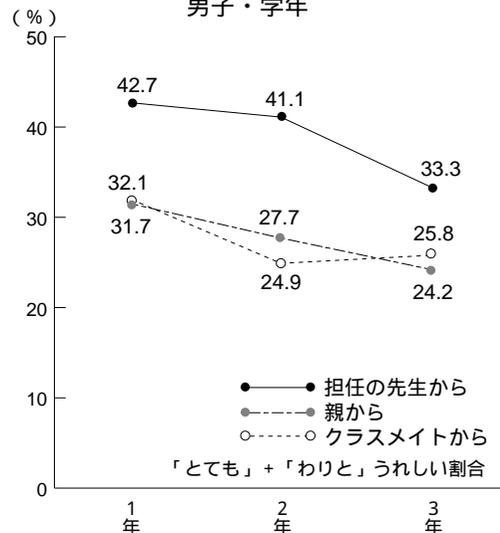


図2-4 人から「あなたはまじめだね」と言われたらどう思うか × 男子・学年



5. 自分中心にまじめな高校生

1) 自分中心的なまじめを見せる高校生

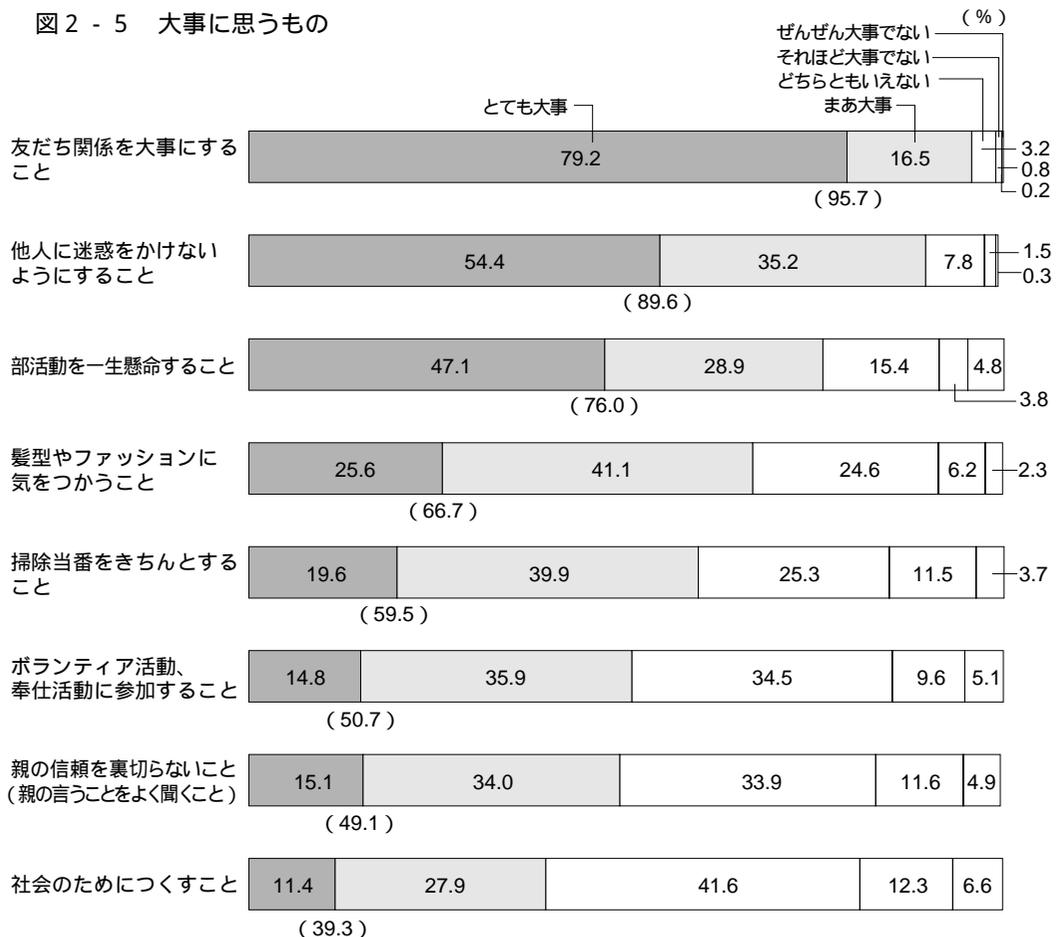
さて、高校での授業や学校生活を通して、高校生が学校生活を基本的にはまじめにとらえていることをみてきた。ところで、「まじめ」については、さまざまな見方、言い方がされている。まじめが「崩壊」した、あるいはまじめが「変容」しているという言い方もされる。また、まじめが「復権」しつつある、あるいは「新しい」まじめが生まれているという言い方もされる。ここでは、今の高校生の「まじめ」がどのようなものであるのか、少し考察してみたい。

図2-5は、高校生の日常生活に関してどれく

らい大事に思うかを尋ね、「とても大事」+「まあ大事」という肯定的な回答の多かった順に並べてみたものである。これを概観すると、今の高校生の「まじめ」が、自分中心的な「まじめ」という傾向を持っていることが見えてくる。

図2-5を具体的にみてみよう。一方で、自分のことや、自分を中心とすることを大事と思う割合は高い。たとえば、「とても大事」+「まあ大事」という肯定的な回答をみると、「友だち関係を大事にすること」95.7%、「部活動を一生懸命にすること」76.0%、「髪型やファッションに気をつかうこと」66.7%など、かなり高い数値があがっている。しかし他方、社会的なことや規則などについては、大事だと思う割合はそれほど高くない。たとえば同じく、「とても大事」+「まあ

図2-5 大事に思うもの



()内は「とても」+「まあ」大事の割合

大事」という肯定的な回答でみると、「掃除当番をきちんとすること」59.5%、「ボランティア活動、奉仕活動に参加すること」50.7%、「社会のためにつくすこと」39.3%など、それほど高い数値にはなっていない。

また、「他人に迷惑をかけないようにすること」を大事だと思う割合は、「とても大事」+「まあ大事」で89.6%と高率であるが、「掃除当番をきちんとすること」や「親の信頼を裏切らないこと」などを大事と思う比率は、それぞれ59.5%、49.1%とそれほど高くはない。この両者の差から考えると、この他人は社会やまわりの一般的な他人というより、自分を中心とした友だちや仲間のことを指していると考えの方が自然である。どうやら、自分を中心とした思いやりのようである。

2) 自由記述からの一考察

次に、自由記述の分析から、今の高校生の「まじめ」が、自分中心的な「まじめ」という傾向を持っていることを考察してみよう。

今回のアンケート調査では、「あなたがまじめにやろうと思うのは、どのようなときですか。自由に書いてください」という形式で、自由記述を求めた。記述のあったものの中からB校96名、C校91名を無作為で抽出し分析の対象とした。その際、男女のバランス、学年のバランスがとれるよう留意した。またB校、C校の2校を選んだのは、それぞれ1年生から3年生までバランスよく調査されていること、また一方が東北地方の公立校で、もう一方が東京の公立校であり、地域のバランスもとれると判断したからである（B・C校の特質についてはp.11表1-1、表1-2を参照）。

分析の仕方であるが、「まじめにやろうと思うとき」の内容を複数書いているものについては、それぞれの回答内容を別々に数えた。この結果、B校で96名134個の回答、C校で91名135個の回答となり、合計269個の回答を分析対象とすることにした。この269個の回答を分類して一覧表にしたものが、表2-8である。

表2-8からわかるように、高校生がまじめにやろうと思う対象は、第1位「自分の好きなこと、大事なこと、興味のあること」(28.6%)、第

2位「テスト、勉強、受験など」(24.9%)、第3位「部活動」(11.5%)となった。また全体的にみて、自分にかかわること、自分を中心としたことがほとんどで、他者とのかわりや社会的なことと考えられる「迷惑をかけるとき、ルール・規則、掃除など」、「人に頼まれたとき」、「ボランティア活動」の3つは、合計しても13.0%にすぎなかった。

このように、自由記述の分析からも、自分の好きなことは大事、学校や勉強は大事、他者とのかわりや社会的なことにはそれほど関心がないという、自分中心的に「まじめ」な高校生の姿がみてとれた。

今の高校生は「まじめ」なのだろうか。今高校生にとって、「まじめ」とはどのようなものなのだろうか。

筆者は教師歴25年の公立高校の教師である。今の学校現場での高校生をみていると、学力レベルの差による違いはあるが、一般的に勉強や試験に対しては、まじめに取り組むべきものだという考え方が見受けられる。また学校行事や部活動など、熱心にまじめに取り組む姿も多くみられる。たとえば、文化祭でクラス劇に挑戦して素晴らしい成果を上げたり、体育祭において応援や競技で若者らしいエネルギーを精一杯発揮したり、あるいはまた、3年間部活動を続け、素晴らしい高校生活を過ごしていく高校生もたくさん見受けられる。

しかし一方、「まじめ」の不足を痛感させられることも多い。一言でいえば、公共的な観念や社会性が低いということであろう。高校教師にとって、掃除をいかにさせるかというのはなかなかの難題であるし、全校集会や式での生徒たちは、まさに烏合の衆ではないかと思わされることも少なくない。普段のホームルームや生徒会活動なども、概して不活発である。また、社会一般への興味関心は、昔の高校生に比べてはるかに低いものと思われる。このような面では、「まじめ」は確かに薄れているのであろう。

以上本章の考察から、「学校についてはまじめな高校生」「自分中心にまじめな高校生」という像をとらえることができるのではないかと

表2 - 8 自由記述「あなたがまじめにやろうと思うのは、どのようなときか」の概観（一部抜粋）

項 目	合 計	B校	C校	記 述 例
自分の好きなこと、大事な こと、興味のあること	77 (28.6%)	42	35	・自分が好きなことをするとき ・自分の好きなこと熱中できることをやっているとき ・自分に興味があることをやる時 ・自分に興味のあること、とにかく自分のこと ・自分にとって大事なことをしているとき ・夢や目標など目指せるものができたとき ・気持ちがのっているとき ・自分で決定したことはまじめにやろうと思う ・自分で決めたことをするとき
テスト、勉強、受験など	67 (24.9%)	36	31	・テストが近づいてきたとき ・テストが返ってきて、点数が悪かったとき ・テストの点がやばそうするとき ・授業を受けるとき ・成績が下がったとき ・自分の得意教科などの授業を受けているとき ・受験勉強を始めようとするとき ・今は受験勉強 ・行きたい大学に入れるように今くらいはまじめにやろう
部活動	31 (11.5%)	9	22	・部活動をやっているとき ・部活動のとき ・部活動をするとき ・部活動などで自分が決めて取り組んだとき ・自分が1つのものに熱中しているとき（部活動など） ・「優勝」が目標の大会に出場するとき ・部活動で、本番間近のとき
迷惑をかけるとき、 ルール・規則、掃除など	23 (8.6%)	12	11	・自分がまじめにやらないとまわりに迷惑がかかるというとき ・人に迷惑がかかるおそれがあるとき ・ルールを守ること ・先生に注意されそうとき ・決められた何かがあるとき ・掃除
将来、進路、目標など	18 (6.7%)	10	8	・自分の将来がかかっているとき ・将来のことを考えたとき ・自分の将来のためになることをするとき ・自分の進路に向けて、それに必要なことを努力するとき ・自分の進路を決めること
みんなでやる時、 学校行事など	17 (6.3%)	6	11	・修学旅行についての話し合い ・みんなで何かするとき ・友だちとやれるとき ・クラスなど団体の物事を達成するとき ・学校行事 ・みんなで丸になって何かをやろうとしているとき
追い込まれたとき、 大事なとき	14 (5.2%)	11	3	・追い込まれたとき ・ここばかりは落とせないとき ・そろそろやらないとまずいと思ったとき ・大事な時期にさしかかるとき ・本当にやらなければならない状況におちいったとき
人に頼まれたとき	9 (3.3%)	4	5	・人に何か頼まれたとき ・重要な頼みごとをされたとき ・家の手伝いをしているとき ・信頼されているとき ・言われたことをするとき
ボランティア活動	3 (1.1%)	0	3	・ボランティア活動 ・困っている人がいるとき
その他	10 (3.7%)	4	6	・誰かに見られているとき ・あぶない物をあつかうとき ・自分のだらしなさに気づいたとき ・ふまじめになりすぎたとき ・いろいろなことを不安に思ったとき ・人生全部に対して ・他の人が、自分の感心することをやっているのを見たとき
	269	134	135	

サンプル対象	男子	女子	計
1年生	32名	31名	63名
2年生	31名	31名	62名
3年生	31名	31名	62名
計	94名	93名	187名

第3章

社会観とまじめ意識

1. どんな生き方を求めるのか？

リストラ、倒産、ニューヨーク・テロに示されるように、社会的にも経済的にも混乱と先行き不透明感がおおいつくす今日、高校生にとってその将来像を描くあるいは展望を持つということは、きわめて困難な状況である。まして人生などという曖昧模糊かつ遠大なものを見方への問いは、いまだ社会のスタートラインにも立っていない高校生には、回答へのおぼつかなさも当然であろう。しかし毎日の生活の中で、改めてそうした問いへの態度を求められたとき、おぼろげながらにせよ生活、人生に対しどのような側面に強いこだわりを持っているのかを垣間見ることでもできよう。そうした意味で、こだわりの中核がどのようなところにあるのかをまず考えてみたい。

まず、「あなたは人生について、どのように考えていますか」と尋ねた7項目についての回答結果を表3-1にまとめた。回答は「そう思う」

「どちらともいえない」「そうは思わない」の3択である。「そう思う」の割合に注目すると、「生きている実感のある今の一瞬が一番大切だ」55.1%と「自分の夢の実現のためにがんばるのが人生だ」54.0%の2項目がほぼ同等の割合で最も強く支持された。次いで、「今していることの価値は将来になってわかるものだ」50.6%が半数を超えた割合を示した。逆に他の項目とかけはなれた低い割合を示したのが、「どうなるかわからない先のことを考えても仕方がない」22.1%であった。この結果は一見、相矛盾するような人生へのこだわりを印象づけられる。すなわち、一方で今現在の「一瞬」の刹那的なものへの強いこだわりをみせるかと思えば、他方で自分の抱く夢にかける、「将来的」なものへのこだわりもみられるからである。

こうした価値意識の傾向をさぐるためには、価値意識の分布特性をもう少し検討しておく必要がある。つまりどのような生徒にこうした意識は強く支持されるあるいは弱いのか、また「まじめ」の

表3-1 大事に思う生き方

	（％）		
	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない
生きている実感のある今の一瞬が一番大切だ	55.1	4.9	39.6
自分の夢の実現のためにがんばるのが人生だ	54.0	7.3	38.2
今していることの価値は将来になってわかるものだ	50.6	9.4	39.2
今がたらくても将来のためならがまんするべきだ	45.9	12.4	41.0
就職難の世の中、まじめに勉強しておかないと大変だ	45.5	15.4	38.5
今が大切にできないで将来を大切にできるはずがない	45.2	17.9	36.3
どうなるかわからない先のことを考えても仕方がない	22.1	37.7	39.5

意味は実体的にはどのように共有されているのか、という点にかかわってである。表3 - 2は男女、学年属性でみた結果である。女子よりも男子の方が、こうした価値傾向が強く示されている。また3年生へと学年が上がるにつれても、こうした傾向の強さがうかがえる。

ところで表3 - 1の7項目の質問内容には、いろいろな価値意識がおりこまれていとみることもできる。そこで、回答に対し潜在的に共通したどんな要因が作用しているのかを探るために、因子分析を行ってみた。ここでは因子分析的方法的な解説は省かせてもらい、さしあたりの解析の結論として、析出された共通因子についてのみふれさせてもらおう。主因子法により2個の因子抽出がなされ、1つは「今がたらくても将来のためならがまんするべきだ」(バリマックス回転後の因子

負荷量：0.788)に代表される因子、もう1つは「生きている実感のある今の一瞬が一番大切だ」(同負荷量：0.606)に代表される因子であった(表3 - 3を参照)。そこで前者の因子は、現在よりも将来・未来に価値をおき、現在の欲望を延期する心理機制が働いた価値意識であると考えることができる。一方、後者の因子は、現在の刹那的な感覚に価値を置き、現在の欲望を即充足させようとする価値意識であるといえる。そこで、ここでは簡単に、前者を「将来」志向、後者を「現在」志向と表現しておく。改めて表3 - 3の各項目に注目すれば、「将来」志向と「現在」志向の因子の差異がみてとれよう。そして「大事に思う生き方」に、総体的には「将来」志向が強く現れている傾向がうかがえよう。

表3 - 2 大事に思う生き方 × 性・学年

	(%)					
	全体	男子	女子	1年	2年	3年
生きている実感のある今の一瞬が一番大切だ	55.1	56.6	54.4	57.1	51.8	56.5
自分の夢の実現のためにがんばるのが人生だ	54.0	57.5	> 51.6	51.2	< 55.8	< 59.7
今していることの価値は将来になってわかるものだ	50.6	51.8	50.3	51.1	49.2	53.3
今がたらくても将来のためならがまんするべきだ	45.9	48.9	> 44.0	44.3	< 46.2	< 51.1
就職難の世の中、まじめに勉強しておかないと大変だ	45.5	47.6	> 44.3	47.3	46.0	> 41.9
今が大切にできないで将来を大切にできるはずがない	45.2	49.0	> 42.5	43.5	< 47.0	48.0
どうなるかわからない先のことを考えても仕方がない	22.1	27.1	> 18.2	25.3	> 17.6	21.6

「そう思う」割合

表3 - 3 「大事に思う生き方」項目の因子負荷量

	(将来重視) 因子1	(現在重視) 因子2	共通性 (初期)
今がたらくても将来のためならがまんするべきだ	0.788	0.104	0.227
就職難の世の中、まじめに勉強しておかないと大変だ	0.391	0.113	0.120
自分の夢の実現のためにがんばるのが人生だ	0.356	0.355	0.167
今していることの価値は将来になってわかるものだ	0.282	0.202	0.086
どうなるかわからない先のことを考えても仕方がない	- 0.154	- 0.024	0.022
生きている実感のある今の一瞬が一番大切だ	0.001	0.606	0.079
今が大切にできないで将来を大切にできるはずがない	0.252	0.324	0.105
初期の固有値	1.97	1.06	3.03
分散の%	28.09	15.14	43.23
回転後の負荷量平方和	1.067	0.663	1.73
分散の%	15.24	9.47	24.71

注) 因子抽出法：主因子法 バリマックス回転

各項目の選択肢の得点は、それぞれ次のようにつけた。そう思う = 1 どちらともいえない = 2 そうは思わない = 3

2. 自己中心へのこだわり

とはいえ、明るい希望を見いだすにはなかなか厳しい時代である。

そうであればこそ、具体的な将来生活の設計では、何を重視しているのであろうか。表3 - 4は「あなたの将来にとってどのくらい重要か」という5項目の質問に対する回答結果を示した。これからの社会生活を考えたとき、自らが価値的に優先させたいものが何であるかを物語っている。結果はきわめて明快で、若者意識の顕著な傾向は「自分の好きな職業につくこと」(「重要」82.2%)と「幸せな家庭を築くこと」(「重要」73.1%)の2つの願望に収斂している。すなわち、やりたいことをやって、家庭もハッピーに毎日を過ごせれば、日々人生これほどいいことはない幸せかもしれない。

もう少し若者の意識の特性をみていきたい。表3 - 5は「将来にとって重要」(「重要」「やや重要」と答えた合計の割合)と思うことの強さを、

男女別に示したものである。「自分の好きな職業につくこと」「幸せな家庭を築くこと」が最重視される点では男女で特に差異はない。違いがみられたのは、「社会的評価の高い職業につくこと」(男子43.6% > 女子35.5%)と「偏差値の高い大学に進学すること」(男子51.3% > 女子36.4%)という社会的な評価を意識した項目であり、いずれも男子の方がかなり上回っていた。

それでは高校卒業後の将来の進路希望との関係ではどうであろうか。表3 - 6の卒業後の進路とのクロスを見ると、難関大学を目指しているタイプと一般大学志望のタイプで特徴的な違いが読み取れるようである。すなわち、難関大学志望の者は、「高い収入を得る」目標はとりあえず脇に置いて、「自分の好きな」「社会的な評価の高い」職業につけることを考え、「偏差値の高い大学」を目指すことを重視している。一方、一般大学志望者は、難関大学志望者のように自分の思い通りの職業選択や大学選択をすることはかなり難しいことが予想されているようであり、社会的な評価という点では低めに妥協せざるを得ない現実を感じ

表3 - 4 将来的に重要なこと

	(%)			
	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない
自分の好きな職業につくこと	82.2	> 14.8	2.0	0.2
幸せな家庭を築くこと	73.1	> 18.9	4.6	2.6
高い収入を得ること	31.9	47.0	15.8	4.5
社会的評価の高い職業につくこと	10.3	28.6	42.3	18.1
偏差値の高い大学に進学すること	9.8	33.1	36.2	20.1

表3 - 5 将来的に重要なこと × 性

	(%)	
	男子	女子
自分の好きな職業につくこと	97.1	98.3
幸せな家庭を築くこと	91.2	93.9
高い収入を得ること	80.3	78.9
社会的評価の高い職業につくこと	43.6	35.5
偏差値の高い大学に進学すること	51.3	36.4

「重要」+「やや重要」の割合

表3 - 6 将来的に重要なこと × 卒業後の進路

	(%)					
	難関大学	一般大学	専修・専門学校	就職	未定・その他	
自分の好きな職業につくこと	98.6	> 77.9	97.9	91.8	97.1	
幸せな家庭を築くこと	94.0	93.5	92.2	93.4	85.4	
高い収入を得ること	77.4	80.7	79.5	77.0	81.0	
社会的評価の高い職業につくこと	47.1	> 38.6	31.7	31.2	32.1	
偏差値の高い大学に進学すること	65.3	> 43.1	> 16.9	> 9.8	25.5	

「重要」+「やや重要」の割合

ている。

では社会的に認められ評価されるようなもの、たとえば社会的な権威や社会性への志向は、こうした若者一般の感覚とどのように関係づけられるのであろうか。ここでは社会的な権威をかれらの一番身近なところでシンボライズしている父親・母親との比較を試みた。表3-7は、自己意識や社会性などについて、男子は父親と、女子は母親と比較して、親子においてどちらの方がすぐれているかを評価したものである。さらに表3-8は、男子、女子での差異をみたものである。まず親に比べて自分の方がすぐれていると思われたのは、「好きなことに打ち込む力」(自分47.3% > 親14.7%)と「友だちとのつきあいを大切にすること」(自分43.1% > 親10.4%)という点であり、これは女子より男子の方がとりわけ高い評価をしている。興味深いのは人とのつきあいといっても、友だちという親密度の濃い相手とのつきあいはきわめて大切に思っているにもかかわらず、それ以外の普通の人との人間関係はそれほどではないということである。一方、社会性の基本的な要素と

でもいえるような「責任感」「親孝行」「正義感」「愛国心」などは、おしなべて親の優位さの前に圧倒されている感じである。男女の比較では、全般に女子より男子の方に自己意識の優位さがみられるが、男子のたくましさの表れなのか、それとも父子関係において父親の存在の軽さの反映なのか、この解釈は一義的ではなさそうである。

3. 社会観と生徒像

次に高校生が今の社会をどのように評価するか、その特徴傾向を分析したい。一般に指摘される社会評価の代表を6項目にしぼって、「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」まで肯定・否定の4段階のスケールで評価してもらった。その結果が表3-9である。8割以上に共通した見方は、「物質的に豊か」で「お金持ちや地位の高い人が得をする」社会である。また、「自分のことしか考えず」「おとなは若者をわかろうとしない」ような社会でもある。つまりモノ、カネ、権威が幅を利かし、エゴと世代間の不信が横たわ

表3-7 親と比較した自己意識(すぐれている) (%)

	自分の方が すぐれている	>	親の方が すぐれている	同じくらい
好きなことに打ち込む力	47.3	>	14.7	37.3
友だちとのつきあいを 大切にすること	43.1	>	10.4	45.6
誰とでも上手につきあうこと	29.7		28.3	41.0
何事にもがんばる力	23.7	<	32.6	42.7
環境や地球へのやさしさ	22.9	<	26.5	49.7
責任感(責任を果たす気持ち)	18.2	<	43.2	37.8
親を大切に する気持ち	17.2	<	32.2	49.7
正義感(不正を憎む気持ち)	16.7	<	36.8	45.7
愛国心(国のことを 思う気持ち)	6.2	<	32.8	59.3

(注)男子は父親、女子は母親との比較

表3-8 親と比較した自己意識×性
(「自分の方が」すぐれている) (%)

	男子 女子	
好きなことに打ち込む力	49.1	46.4
友だちとのつきあいを 大切にすること	46.4	41.0
誰とでも上手につきあうこと	32.6	27.7
何事にもがんばる力	24.5	23.4
環境や地球へのやさしさ	27.1	19.8
責任感(責任を果たす気持ち)	19.7	17.1
親を大切に する気持ち	21.3	14.0
正義感(不正を憎む気持ち)	19.0	15.0
愛国心(国のことを 思う気持ち)	8.7	4.3

表3-9 日本社会の評価 (%)

	とても そう思う	まあ そう思う	小計	あまりそう 思わない	まったく 思わない	小計
物質的に豊かな社会だ	45.9	39.9	85.8	10.9	3.0	13.9
お金持ちや地位の高い人が得をする社会だ	43.4	37.0	80.4	15.4	3.8	19.2
自分のことしか考えない人が多い	36.9	46.3	83.2	15.4	1.2	16.6
おとなは若者の考えや気持ちをあまり理解していない	35.0	47.2	82.2	15.9	1.5	17.4
まじめに努力をすれば報われる社会だ	10.0	28.3	38.3	48.6	12.9	61.5
新聞やテレビからの報道は信用できる	4.0	30.7	34.7	50.6	14.4	65.0

っている社会像が描ける。しばしば言われることであるが、青少年の道徳意識や社会性の低さは、おとな社会の反映であり、ある意味で映し鏡でもあるということである。そして、その事実を悲しいかな受け入れざるを得ないような、事件や社会問題が頻発しているのも現実である。

それでは社会とのかかわり方についてはどうであろうか。表3 - 10の自分と社会とのかかわり方の全体集計をみると、「自分なりの生き方を大事にしたい」96.2%（とても＋わりとそう思う）、「どちらかという社会のことより自分のことの方が大切だ」86.5%の2項目が断然大きな割合で肯定されていることがわかる。そしてこの傾向は、これまでの考察でふれてきた「自己中心」主義的な価値態度にほぼ重なっていることが、改めて確認される。そしておそらく、その対極に位置づくと思われる「自分たちの力で社会を変えていけると思う」という価値態度は37.7%と当然ながら低い割合であった。60年代、70年代前半に台頭したスチューデントパワーやモーレツ社員の若者意識

には、日本の社会制度や経済構造を自らの力で変革し支えていくといった気概や行動意識が旺盛に感じられた。そうしたダイレクトな社会とのかかわり方は、どちらかといえば忌避されている。しかし、「将来の目標がわからない」(52.6%)としながらも、「日本の将来についていろいろ考える」(51.2%)者も半数の割合でいる。どのようなタイプの生徒像なのであろうか。

表3 - 11、表3 - 12で、性別・学年別、卒業後の進路による違いをみた。「日本の将来についていろいろ考える」のは女子よりも男子の方が高い割合である（男子53.7% > 女子49.7%）。そして学年が上級になるほど、難関大学を目指す高い目標を持っている者ほど、その傾向が高いことも明らかである。「自分たちの力で社会を変えていけると思う」のも、学年差を除けばほぼ同様の傾向である（男子42.9% > 女子33.6%、難関大学43.8% > 一般大学36.6%）。つまり自分なりの生き方を大事にし、まずは社会のことよりも自分の方が大切であるという、「自分本位」の考えは当然

表3 - 10 自分と社会とのかかわり方

	とても そう思う	わりと そう思う	小計	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない	小計
自分なりの生き方を大事にしたい	58.5	37.7	96.2	3.2	0.3	3.5
どちらかという社会のことより自分のことの方が大切だ	31.7	54.8	86.5	12.2	1.0	13.2
日本の将来についていろいろ考える	21.8	29.4	51.2	39.2	9.0	48.2
将来の目標がわからない	21.5	31.1	52.6	28.6	18.3	46.9
おとなはもっと、人生を楽しんでほしい	19.9	42.2	62.1	31.6	5.6	37.2
自分たちの力で社会を変えていけると思う	12.3	25.4	37.7	49.4	12.5	61.9

表3 - 11 自分と社会とのかかわり方 × 性・学年

	男子	女子	1年	2年	3年
自分なりの生き方を大事にしたい	96.1	96.9	96.6	96.3	96.7
どちらかという社会のことより自分のことの方が大切だ	86.5	87.1	86.2	85.2	< 90.7
日本の将来についていろいろ考える	53.7	> 49.7	48.8	< 53.7	< 55.1
将来の目標がわからない	52.7	53.1	52.5	58.2	> 46.2
おとなはもっと、人生を楽しんでほしい	63.2	62.0	65.0	> 58.8	62.0
自分たちの力で社会を変えていけると思う	42.9	> 33.6	41.6	> 35.2	> 32.6

「とても」＋「わりと」そう思う割合

表3 - 12 自分と社会とのかかわり方 × 卒業後の進路

	難関大学	一般大学	専修・専門学校	就職	未定・その他
自分なりの生き方を大事にしたい	96.3	96.1	97.9	98.3	97.1
どちらかという社会のことより自分のことの方が大切だ	84.9	87.6	86.6	88.3	87.7
日本の将来についていろいろ考える	59.6	> 47.6	51.4	56.7	45.7
将来の目標がわからない	44.9	57.0	46.6	53.3	71.7
おとなはもっと、人生を楽しんでほしい	60.6	63.3	66.2	65.0	59.1
自分たちの力で社会を変えていけると思う	43.8	> 36.6	35.2	31.6	33.3

「とても」＋「わりと」そう思う割合

としながらも、だからといってまったく社会や国家の大きな問題に対して身を引いてしまうわけでもないのである。特に強調しておきたいことは、こうした傾向が学校生活のありようにもかかわっているのではとみられる点である。表3 - 13は学校生活における授業、友だち関係、全体として、といったそれぞれの側面からの満足度との相関を表している。授業への満足度が高くなるほど、「日本の将来について考える」「自分たちの力で社会を変えていける」という意識が高まっている。友だち関係への満足度との相関にも、同様の傾向が読み取れる。このことは学校教育の中においても、社会性の意識を高め、身につけられる可能性と重要性を十分に示唆してくれる。

ややもすれば「自分本位」は利己主義の一辺倒にとられかねない。しかし、社会や国家といった大きな相手にダイレクトなかかわり方はとらないが、自分なりに考えていこうという姿勢は持っているようである。若者意識の中に、少なからぬ割合でそれなりの社会意識が潜在しているのではな

かるうか。おそらくはそのあたりが、これまでの伝統的な「まじめさ」の固形からは判別のしがたい、新しい価値意識の枠組みを示しているのかも示れない。

4. 相対的な「まじめ」意識

日本の高度経済成長期やバブル期までの若者意識について述べておけば、刹那的な今をエンジョイするか、社会や国家の大状況にコミットした構えをとるかの両極で大きく振れていた。双方に共通していたのは、ひたむきに1つのことに集中したり、真摯にこだわりをみせる自明の「まじめさ」が誰にも理解可能であったことである。そうした点では、ここにみえてきた価値志向は必ずしも自明の「まじめさ」の範疇には入りえない。自分の興味や嗜好を大切に、親密度の濃い人間関係の先に「幸せ家族」を期待する、ことのほか「自己」にこだわりをみせているからである。バブル崩壊以後の今日に至る日本社会の混迷ぶりに、一義的

表3 - 13 自分と社会とのかかわり方 × 学校生活の満足度

(%)

	授 業			友だち関係			全体として		
	とても満足している	かなり満足している	やや満足している	とても満足している	かなり満足している	やや満足している	とても満足している	かなり満足している	やや満足している
自分なりの生き方を大事にしたい	98.9	97.4	96.5	98.2	97.1	96.6	98.9	97.5	97.8
どちらかという社会のことより自分のことの方が大切だ	86.0	88.1	86.7	84.5	89.4	86.8	89.3	86.7	86.5
日本の将来についていろいろ考える	90.9	> 56.5	> 47.2	54.9	56.2	50.7	56.2	> 49.8	51.9
将来の目標がわからない	47.8	48.5	53.3	45.7	45.5	< 54.8	45.5	< 50.7	52.6
おとなはもっと、人生を楽しんでほしい	65.9	> 60.9	61.3	65.7	64.8	60.6	68.9	> 61.6	61.8
自分たちの力で社会を変えていけると思う	65.2	> 36.8	36.7	45.3	> 39.1	> 31.8	54.0	> 40.3	> 35.3

「とても」+「わりと」そう思う割合

な「まじめさ」、絶対的な「まじめ」意識のなんとはなしのうさんくさを、敏感に感じ取っているのかもしれない。

しかし、「自己中心」にこだわりながらも、社会とのかかわりを意識させる要素もうかがえる。表3-14は日本社会に対する評価の差異を、「日本の将来についていろいろ考える」と答えた者と「どちらかという社会のことより自分のことの方が大切だ」と答えた者の間で比較したものである。言い換えれば、「社会」志向と「自分」志向の差異とみることもできよう。両者で社会認識がほぼ共通していたのは、「物質的な豊かさ」「おとなと若者の断絶」「メディアへの信用の低さ」などであった。これは若者一般に共有されている認識と理解してよいであろう。差異に注目すると、「社会」志向は「自分のことしか考えない人が多い」と「まじめに努力をすれば報われる」が優位

であり、他方「自分」志向は「お金持ちや地位の高い人が得をする」という認識が「社会」志向よりまさっていた。「自分」志向には自己の利害感情に率直な姿勢が現れ、「社会」志向には正義心や忍耐や努力などの価値を積極的に評価しようとする。

このようにとらえてくると、これまでの社会規範やモラル、行動の準則からは推し量れない、新たな要素が若者の意識と行動の基底に生み出されているのかもしれない。例えば、茶髪、鼻ピアス、ズリパンの若者が公共の乗り物の中で、お年寄りに席を譲ることがごく自然に行われたとしても、そうした若者が決して「奇特で稀有の若者」と括られることはないであろう。つまり、彼は自分の興味関心につとめて「まじめ」に対応しているにすぎない、ごく日常の振る舞いの範疇にあるのだから。

表3-14 日本社会の評価 × 自分と社会とのかかわり方

	(%)	
	社会より自分の ことが大切	日本の将来に ついて考える
物質的に豊かな社会だ	86.3	86.1
お金持ちや地位の高い人が得をする社会だ	86.7	79.1
自分のことしか考えない人が多い	84.9	87.2
おとなは若者の考えや気持ちをあまり理解していない	83.7	83.8
まじめに努力をすれば報われる社会だ	38.2	44.3
新聞やテレビからの報道は信用できる	35.8	34.5

「とても」+「まあ」そう思う割合

第4章

「まじめ」イメージと 日常の行動・意識

1. 「まじめ」の感じられ方

1) 「まじめ」という言葉で思うこと

「まじめ」という言葉には様々な意味が付加されている。本章では、この「まじめ」という言葉にこだわった分析を行いたい。高校生自身による「まじめ」の受けとめ方から、現在の「まじめ」の姿を明らかにすることができないだろうか。筆者は「まじめである」ことの判断を、高校生のイメージに基づいた上で行うことにする。

高校生の「まじめ」イメージを通じて、彼らが日頃どのような意識を持ち、行動しているのかをみていくことにしたい。「まじめ」イメージ(まじめ観)の差異によって、他の意識はどのように異なるのだろうか。高校生の意識分化を中心に分析をする。最後に、これらの分析を通じて、高校生の「まじめ」イメージが、社会的にどのような意味を持っているのかを考えてみたい。

表4-1は「まじめ」という言葉のイメージについて、あてはまるものを「はい」と「いいえ」

の回答で尋ねたものである。

「まじめ」という言葉は、「努力、一生懸命にする」(「はい」86.4%)「素朴さ、正直さ、誠実さを感じる」(「はい」67.1%)ものと受けとめられている反面、「好きな言葉」(「いいえ」90.3%)「今の若者にはあまりうけない」(「はい」65.7%)とも考えられている。一方、「正義感に満ちている」「人間にとって大切なことである」の回答が「はい」「いいえ」とも半々の割合で、偏りが少なくなっている。

2) 「まじめ」のイメージ

「まじめ」のイメージは、このようにいくつもある。しかし、「まじめ」を捉える「筋」のようなものは潜在的にあるのかもしれない。その「筋」を分析する有効な方法として、数量化 類というものがある。この手法で、高校生が「まじめ」という言葉をどのように把握しているのか、その把握している軸をいくつか析出することができる。表4-1の項目を使用して、数量化 類を行って見たところ、第 軸が析出された(固有値は

表4-1 「まじめ」という言葉に関するイメージ (%)

	はい	いいえ
努力、一生懸命にする	86.4	13.4
素朴さ、正直さ、誠実さを感じる	67.1	32.5
今の若者にはあまりうけない	65.7	33.7
融通がきかなくて、堅苦しい	58.5	41.1
日本人から失われつつある	54.3	44.9
正義感に満ちている	53.0	46.4
人間にとって大切なことである	46.3	52.8
どこかうそっぽいイメージがある	40.4	58.8
好きな言葉	9.1	90.3

0.195で、相関係数0.441)。各項目について、第軸のカテゴリー・スコアの低い順に並べ替えたものが表4-2である。

第軸について、マイナスの値が高い項目は、「好きな言葉(はい)」「人間にとって大切なことである(はい)」「融通がきかなくて、堅苦しい(いいえ)」となっている。一方、プラスの値が高い項目は、「努力、一生懸命にする(いいえ)」「素朴さ、正直さ、誠実さを感じる(いいえ)」「人間にとって大切なことである(いいえ)」となっている。

この第軸にあらわれた「まじめ」を捉える「筋」について解釈すると、<肯定的-否定的>

表4-2 数量化類第軸「まじめ」イメージカテゴリー・スコア

質問項目	軸
(-) 好きな言葉・はい	- 2.979
人間にとって大切なことである・はい	- 1.334
肯 融通がきかなくて、堅苦しい・いいえ	- 1.175
素朴さ、正直さ、誠実さを感じる・はい	- 1.033
定 正義感に満ちている・はい	- 0.904
どこかうそっぽいイメージがある・いいえ	- 0.737
的 今の若者にはあまりうけない・いいえ	- 0.686
努力、一生懸命にする・はい	- 0.433
日本人から失われつつある・はい	- 0.384
好きな言葉・いいえ	0.309
今の若者にはあまりうけない・はい	0.357
否 日本人から失われつつある・いいえ	0.449
融通がきかなくて、堅苦しい・はい	0.825
定 正義感に満ちている・いいえ	1.040
どこかうそっぽいイメージがある・はい	1.063
的 人間にとって大切なことである・いいえ	1.166
素朴さ、正直さ、誠実さを感じる・いいえ	2.131
(+) 努力、一生懸命にする・いいえ	2.792

とすることができる。「まじめ」を受けとめる際に強くあらわれる「筋」とは、「肯定的」に評価しているか、「否定的」に評価しているかである。

2. 「まじめ」イメージとその特性

1) 属性別にみた「まじめ」の感じ方

高校生が「まじめ」という言葉を、<肯定的-否定的>に受けとめている。それでは、どのタイプの高校生が「まじめ」を「肯定的」(または「否定的」)に評価するのかみていくことにしよう。

数量化類では、各質問にカテゴリー・スコアが与えられているだけではなく、回答者一人ひと

表4-3 属性別サンプル・スコア平均値

	スコア×100	軸
高校	A校	- 1.2
	B校	2.1
	C校	- 3.0
	D校	- 7.2
学年	1年	- 1.4
	2年	1.4
	3年	1.4
性別	男子	- 4.8
	女子	4.1
学年性別	1年男子	- 8.1
	1年女子	5.0
	2年男子	- 5.1
	2年女子	6.3
	3年男子	4.7
部活動	3年女子	- 1.0
	運動部・熱心	- 4.0
	運動部・非熱心	9.7
	文化部・熱心	- 0.9
	文化部・非熱心	1.7
クラスの成績	以前参加・今やめる	2.2
	未加入	5.1
	上の方	4.1
	中の上くらい	- 3.8
	中くらい	- 3.3
卒業後の希望進路	中の下くらい	4.3
	下の方	2.2
	入るのが難しい4年制大学	- 7.6
	普通程度の4年制大学・短大	1.0
	専修・専門学校	8.1
高校の雰囲気	就職	5.3
	フリーター・まだ決めていない・その他	5.4
	満足(とても+かなり+やや)	- 1.7
	不満(かなり+とても)	7.2
	授業	- 4.1
友だち関係	満足(とても+かなり+やや)	- 4.1
	不満(かなり+とても)	10.4
	満足(とても+かなり+やや)	- 0.2
	不満(かなり+とても)	3.5
	部活動	- 1.7
全体として	満足(とても+かなり+やや)	4.7
	不満(かなり+とても)	- 1.6
	満足(とても+かなり+やや)	- 1.6
	不満(かなり+とても)	9.1

りにサンプル・スコアとして、第 軸の得点が付加されている。表 4 - 3 が、いくつかのタイプ別にみた「まじめ」イメージのサンプル・スコアの平均値である。この表の数字について触れておこう。マイナスの値が高ければ高いほど、「肯定的」評価が高いことを示す。同様に、プラスの値が高ければ高いほど、「否定的」評価が高いことを示している。

「肯定的」な評価を示した高校生は、D校・C校・A校、1年生、1年男子・2年男子・3年女子、部活動（運動部・文化部）に熱心、クラスの成績が中の上・中くらい、希望進路が難関4年制大学志望、高校生活に満足度の高い生徒たちである。

「否定的」な評価を示した高校生は、B校、2年生・3年生、1年女子・2年女子・3年男子、部活動（運動部・文化部）に熱心でないかつ、現在加入していない生徒、クラスの成績が上の方・中の下くらい・下の方、希望進路が専修・専門学校・就職・フリーターや未だに決まっていない、高校生活に不満の高い生徒たちである。

このように、高校生の属性によって「まじめ」イメージが異なる。

図 4 - 1 「まじめ」イメージの2タイプ

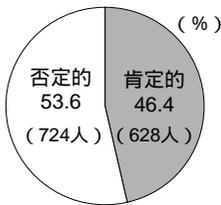


図 4 - 2 「あなたはまじめだね」と言われるとうれしい × 「まじめ」イメージのタイプ

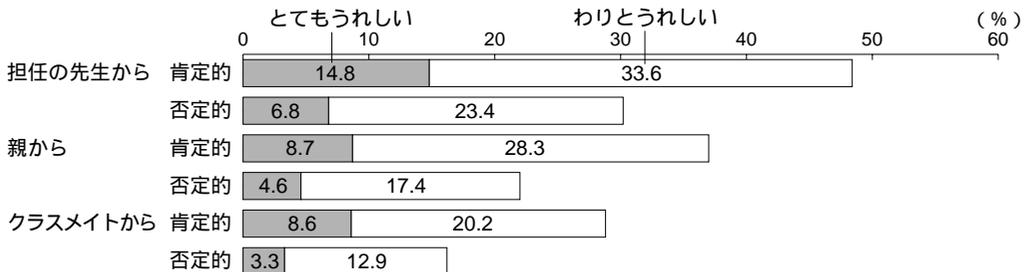
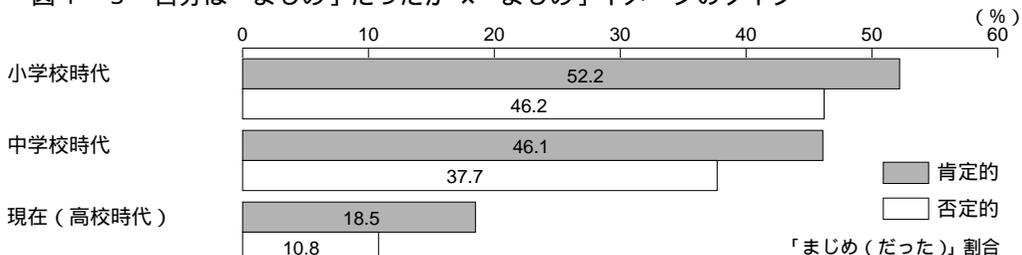


図 4 - 3 自分は「まじめ」だったか × 「まじめ」イメージのタイプ



2) <肯定的 - 否定的>な高校生

「まじめ」イメージで、回答者に与えられたサンプル・スコアについて、最小値（マイナス）～0までの人を「肯定的」とし、0～最大値（プラス）までの人を「否定的」とした。「まじめ」イメージとして、2つのタイプに区分けした。それが図 4 - 1 である。同様に図内には各タイプの人数を挿入した。全体的に「否定的」(53.6%)が「肯定的」(46.4%)よりも、やや多くなっている。

3) 「まじめ」への反応

人から「まじめ」と言われることで、どのように思うのであろうか。タイプ別に「うれしい」と思うかどうかをみたものが図 4 - 2 である。「肯定的」な生徒は、「まじめ」と言われると「うれしい」と感じ、その一方、「否定的」な生徒は「まじめ」と言われても「うれしい」とは思わない。「まじめ」に対する価値観がはっきりと分かれている。

同じく自分自身について、小学校時代～中学校時代～高校時代（現在）まで、「まじめ」だったかどうか、その自覚の程度をみたものが図 4 - 3 である。全体的には、現在に近づくにつれて「まじめ」を自覚する割合は低下する。「肯定的」な生徒の方が「否定的」な生徒よりも、「まじめ」を自覚している。

次に「まじめ」に関する意見について、2つのタイプで、どう受けとめられているのかみたものが表4-4である。先生に対してまじめぶる生徒が多い、まじめそうに見せておとなをだますことが簡単と感じるのは「否定的」な生徒に多い。「肯定的」な生徒は、まじめさは外見や行動でわかることが多い。そして、人の目が気になりふまじめに振る舞ってしまうこともある。

このように「まじめ」イメージによって、別の「まじめ」項目についても評価が大きく異なっていることがわかる。

3. 「まじめ」イメージと学校生活

1) 校長先生の話

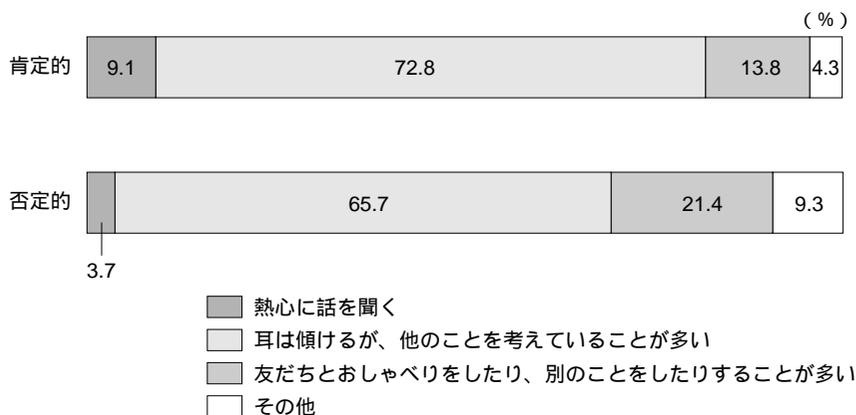
「まじめ」イメージから、学校生活をみていこう。図4-4は、始業式での校長先生の話の聞き方を比較したものである。「肯定的」な生徒は「熱心に話を聞く」が、「否定的」な生徒は「友だちとおしゃべりをしたり、別のことをしたりすることが多い」。「否定的」な生徒は、話を聞いていない。

表4-4 「まじめ」についてのいろいろな意見で思うこと × 「まじめ」イメージのタイプ

	(%)		(point)	
	肯定的	否定的	差の開き	
先生からまじめと思われている生徒の中には、まじめぶっている人が多い	51.8	64.6	12.8	10point以上
一見まじめそうに見せて、おとなをだますのは簡単だ	48.8	58.2	9.4	
高校生のまじめさは学校での外見や行動でわかる	37.0	28.3	8.7	5 point以上
まじめにしたいくても、友だちの目を気にして、ふまじめに振る舞うことがある	51.1	44.9	6.2	
まじめだからといって、人がいいとは限らない	91.8	95.1	3.3	
学校でまじめそうな人でも、学校外では結構遊んでいる人がいる	74.5	76.4	1.9	
目立つ格好をしていても、まじめに生き方を考えている人は結構いる	93.6	94.1	0.5	

「そう思う」割合

図4-4 始業式での校長先生の話の聞き方 × 「まじめ」イメージのタイプ



2) 授業態度について

授業態度についてみよう。表4-5が勉強すること・熱心に取り組む授業に関する項目をみたものである。

まず勉強に対する構えについてみると、「今、学校で勉強していることは将来、役に立つと思う(Q8の質問項目)」と回答するのは「肯定的」な生徒に圧倒的に多い。「否定的」な生徒の回答割合と比較しても、16.9ポイントの差が開いている。「肯定的」な生徒が勉強することの意味を重視している。

授業については、「肯定的」な生徒が、どの授業でも「熱心に取り組む」と回答する。「自分の興味のある教科の授業」では差異は小さいものの、「やさしい先生の授業」などでは、差がみられる。

授業中の行動についてみたものが表4-6である。「まじめ」イメージの差の開きは大きくない。全体的には、授業中、授業とは関係ないことをしているのは「否定的」な生徒である。「先生に質問する」「わからないことを後から先生に聞きに行く」ことをするのは「肯定的」な生徒の方がやや多い。

表4-5 勉強すること・熱心に取り組む授業 × 「まじめ」イメージのタイプ

	(%)		(point)	
	肯定的	否定的	差の開き	
今、学校で勉強していることは将来、役に立つと思う ¹⁾	54.0	37.1	16.9	10point以上
やさしい先生の授業 ²⁾	73.4	63.6	9.8	
体育や音楽など実技授業 ²⁾	86.0	77.4	8.6	
熱心な先生の授業 ²⁾	86.3	78.4	7.9	
こわい先生の授業 ²⁾	85.5	78.5	7.0	
受験にかかわる教科の授業 ²⁾	86.2	80.5	5.7	
クラス担任の授業 ²⁾	76.1	70.6	5.5	5 point以上
自分の興味のある教科の授業 ²⁾	98.3	96.8	1.5	

1)「そう思う」(大いに+かなり)割合 2)熱心に取り組む(「はい」)割合

表4-6 授業中すること × 「まじめ」イメージのタイプ

	(%)		(point)	
	肯定的	否定的	差の開き	
携帯電話・PHSで話したり、メール交換をしたりする	36.7	43.5	6.8	5 point以上
先生に質問する	35.0	29.9	5.1	
いねむりをする	69.9	74.8	4.9	
マンガや雑誌、小説を読んだりする	16.9	21.7	4.8	
友だちとおしゃべりをする	67.6	71.9	4.3	
わからないことを後から先生に聞きに行く	38.3	34.1	4.2	
宿題や別の教科や受験の勉強をする	52.5	54.9	2.4	
教室を立ち歩く	3.6	5.3	1.7	
友だちに渡すメモや手紙を書く	20.7	22.1	1.4	
テープ、CD、MDなどで音楽を聴く	4.8	6.2	1.4	
授業中、ノートをきちんと取る	92.0	93.3	1.3	

「よく」+「ときどき」ある割合

4. 「まじめ」イメージと日常の意識

1) 自分をとる行動

「次のような場面であなただったらとる行動」について尋ねた結果をみたものが表4-7である。二者択一の回答形式だったので、全体集計で、回答割合の多かった選択肢を表に使用した。「否定的」な生徒は、「電車やバスに乗ったとき・ゆったりと間隔をあけて座る」回答が「肯定的」な生徒に比べて、13.6ポイント高い。「否定的」な生徒は、「肯定的」な生徒に比べて、自己中心的な行動をとっているとの印象を受ける。

2) 「大事」に思うこと

日常生活の中で「大事」に思われていることとは何であろうか。表4-8は「まじめ」イメージ別に、大事に思われている項目を、＜肯定的・否定的＞回答の差の開き（ポイント）が大きい順に並び替えて示したものである。

「否定的」な生徒よりも「肯定的」な生徒に、「校則を守ること」（差の開き19.1ポイント）、「親の信頼を裏切らないこと」（同15.2ポイント）、「社会のためにつくすこと」（同14.6ポイント）、「勉強をすること」（同13.5ポイント）が、「大事」であると思われる。学校生活・部活動については、「肯定的」な生徒が「大事」と思う傾向が

表4-7 ある場面での行動 × 「まじめ」イメージのタイプ

とる行動	(%)		(point)	
	肯定的	否定的	差の開き	
電車やバスに乗ったとき・ゆったりと間隔をあけて座る	45.7	59.3	13.6	10point以上
ちょっと疲れているのに座る場所がないとき・できるだけ立っている	82.2	75.0	7.2	
町内の行事（祭りなど）で、手伝いを頼まれたら・できる限り手伝う	69.6	63.2	6.4	
恵まれない人の話を聞くと・自分は幸せだと思う	49.4	55.8	6.4	5 point以上
車内で騒いでいる子どもを見たら・注意しない	91.7	93.8	2.1	
宿題を忘れていたことに気がついたとき・友だちの答えを写すなどして、提出する	68.4	69.8	1.4	

表4-8 大事に思っていること × 「まじめ」イメージのタイプ

	(%)		(point)	
	肯定的	否定的	差の開き	
校則を守ること	58.6	39.5	19.1	10point以上
親の信頼を裏切らないこと(親の言うことをよく聞くこと)	56.4	41.2	15.2	
社会のためにつくすこと	46.2	31.6	14.6	
勉強をすること	82.3	68.8	13.5	
部活動を一生懸命すること	80.6	70.7	9.9	
学校に遅刻しないこと	82.3	72.4	9.9	
髪型やファッションに気をつかうこと	62.6	71.8	9.2	
まじめに授業を聞くこと	84.6	76.1	8.5	
ボランティア活動、奉仕活動に参加すること	54.6	46.3	8.3	
掃除当番をきちんとすること	63.1	55.1	8.0	
学校に毎日行くこと	88.5	80.7	7.8	5 point以上
読書をすること	63.5	56.6	6.9	
他人に迷惑をかけないようにすること	92.9	87.3	5.6	
アルバイトを一生懸命すること	30.0	35.1	5.1	
流行に遅れないようにすること	37.6	40.4	2.8	
塾、予備校に通うこと	12.1	9.6	2.5	
異性とつきあうこと	61.9	62.9	1.0	
友だち関係を大事にすること	96.1	95.4	0.7	

「とても」+「まあ」大事の割合

ある。「まじめ」イメージと差異の少ない項目としては、「友だち関係を大事にすること」「異性につきあうこと」「塾、予備校に通うこと」「流行に遅れないようにすること」である。このような項目の「大事さ」は、「まじめ」イメージとあまり関係がない。

3)「大切」に思うこと

日常生活の中で「大切」に思われていることとは何であろうか。表4-9は「まじめ」イメージ別に、自分自身にとって大切に思われている項目を<肯定的-否定的>回答の差の開き(ポイント)が大きい順に並び替えて示したものである。

「否定的」な生徒よりも「肯定的」な生徒に、「正義感を持つ」(差の開き14.0ポイント)、「将来、社会に役立つような人間になる」(同13.7ポイント)、「信仰心を持つ」(同12.9ポイント)、「社会の問題に興味を持つ」(同11.5ポイント)、「道徳心を持つ」(同8.7ポイント)が、「大切」であると思われる。社会に関する意識項目について、「肯定的」な生徒ほど「大切」と思う傾向がある。「まじめ」イメージと差異の少ない項目としては、

「自分の好きなことをする」「自分が興味関心あるものをしっかり持っている」「自分の夢に向かって突き進む」「自分で決めたことに対して努力する」「自分の将来について考える」である。これらは「自分」に関する項目である。このような自己意識とかかわる項目の「大切さ」は、「まじめ」イメージとあまり関係がない。

5.「まじめ」イメージと人生観

1) 人生観

これまで「まじめ」イメージのタイプ別に、日常の意識や行動の差異について分析してみた。「肯定的」な生徒は、「否定的」な生徒に比べ、勉強に意味を見だし、授業や部活動に対し熱心で、周囲のことをよく考えていることが明らかとなった。一方、友だちを大事にすること、自分のことを大切にすることは、「まじめ」イメージとかわりがないことも明らかになっている。

本節では、人生について考えていることをみていく。「まじめ」イメージによって、人生観がどのように異なっているのであろうか。

表4-9 自分自身にとって大切なこと×「まじめ」イメージのタイプ

	(%)		(point)	
	肯定的	否定的	差の開き	
正義感を持つ	87.0	73.0	14.0	
将来、社会に役立つような人間になる	76.8	63.1	13.7	
信仰心を持つ	51.3	38.4	12.9	
社会の問題に興味を持つ	78.3	66.8	11.5	
道徳心を持つ	88.1	79.4	8.7	10point以上
自分をごまかさない(自分に誠実に生きる)	94.6	90.4	4.2	5 point以上
自分の将来について考える	96.4	93.6	2.8	
自分で決めたことに対して努力する	99.3	97.1	2.2	
自分の夢に向かって突き進む	95.4	93.8	1.6	
自分が興味関心あるものをしっかり持っている	97.5	96.3	1.2	
自分の好きなことをする	99.4	98.7	0.7	

「とても」+「やや」大切の割合

図4 - 5がその結果である。将来に対処する項目で、「肯定的」な生徒と「否定的」な生徒との差の開きが大きい。「今がつかなくても将来のためならがまんすべきだ」(差の開き16.6ポイント)、「自分の夢の実現のためにがんばるのが人生だ」(同13.5ポイント)、「就職難の世の中、まじめに勉強しておかないと大変だ」(同11.7ポイント)となっている。「肯定的」な生徒は、「将来」を重視しながら「今」の生き方を考えている。「否定的」な生徒は、「今」の生き方を考えているものの、それが「将来」を重視してのこととはいえない。「まじめ」を「肯定的」に受けとめている生徒は、「将来」を見据えた人生を考えている。

2)「まじめ」に「将来の人生」を考える
ことの是非

「まじめ」を「肯定的」に受けとめている生徒は、「否定的」に受けとめている生徒に比べて、現在の規範に同調的であることがわかる。彼らには、授業や部活動は熱心に取り組み、社会や集団に目を配った意識がみられる。そして、自分の人生について、将来に備えながら、「今」という時間を過ごしている。

しかし、「まじめ」について「肯定的」になることが、「否定的」になるよりも、社会的にみて、望ましいことといえるのであろうか。もちろん、筆者も、自分のことばかりを考えたり、現在を享乐的に過ごしたりすることが望ましいと主張する気はない。同じく、規範に同調することをやめると言いたいのもない。ただ、現在のような社会状況で、おとなたちが要求する規範に同調してい

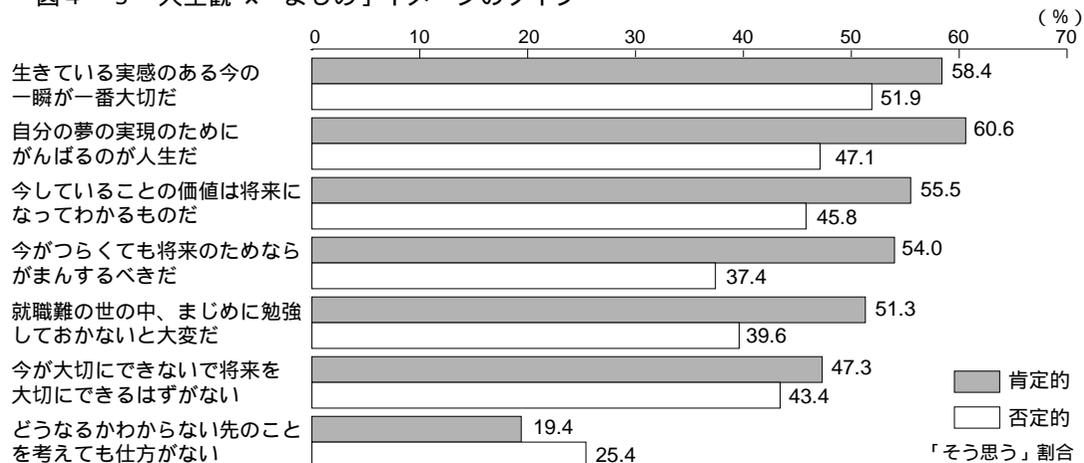
くことに問題を感じている。「肯定的」な生徒の「まじめに勉強しないと大変」「夢の実現のためにがんばる人生」「将来のためにがまん」という生き方が、果たしてどれだけ報われる社会なのだろうか。彼らは本当に、まじめに勉強すれば就職難から開放されるのだろうか？ 個人ががんばっただけで夢は実現するのだろうか(社会的な影響の方が強くはないだろうか)？ どの期間「がまん」すればつらくない生活が手に入るのであろうか？

経済的・政治的な状況をいろいろ考えてみても、日本の将来は明るいと言えないのが現在である。「肯定的」な生徒に将来を約束させることができるほど、今は先の見える世の中ではない。不透明感の漂う社会である。仮に、この状況が続いたとしたら、将来の約束を信じようとする「肯定的」な生徒たちは、「否定的」な生徒よりも落胆してしまうのではないだろうか。

このように考えると、筆者は「肯定的」な生徒の価値観を受容できなくなる。しかし、彼らには責任はない。むしろ明るい将来を用意するには、今のおとなの方こそが責任を果たさなければならない。それがおとなたちが、「まじめ」を「肯定的」に受けとめる高校生に応える義務である。

最後になるが、「まじめ」を「肯定的」に、「否定的」に感じるのは生徒の自由である。「まじめ」の評価は、高校生自身に委ねており、この価値それ自体については本稿では論じていない。今回、「まじめ」の受けとめ方によって、日常生活や意識がいろいろと異なっているのは本章を通じて明らかにできた。「まじめ」を論じるよい材料になれば幸いである。

図4 - 5 人生観 × 「まじめ」イメージのタイプ



第5章

高校生の「まじめ」と「自分らしさ」

「まじめな私」と「ふまじめな私」

1. はじめに

学校で一生懸命に勉強し、校則にそった服装や髪型をしている まじめ な高校生がいたとする。彼/彼女は、学校以外の場所でも まじめ なのだろうか。家で親のいうことをよく聞き、街で他人のことを思いやり、社会的な問題に関心を持つような まじめ な高校生でもあるのだろうか。

本章では まじめ と ふまじめ の同居という視点から、現在の高校生の「まじめ」について考えてみたい。いわゆるバブル崩壊後、まじめの「復活」が指摘される一方で、「いい子」がキレるとか、「普通の子」が危ないという指摘を目にすることも多い。私たちおとなは、ある場面では まじめ な子が、他の場面では ふまじめ であることに狼狽する。極端な例ではあるが、援助交際をする優等生やサリンを撒くまじめな若者などがそれにあたる。茶髪の震災ボランティアのように逆の場合もある。私たちおとなが感じる若者の行動の「ちぐはぐさ」や「一貫性のなさ」は、どのように考えることができるのだろうか。

なお本節で、「まじめ」という言葉を で括弧している場合、それは高校生本人が「まじめ」と答えたり、考えたりしているのではなく、一般に私たちおとなからみた場合、まじめ とみなされるということを意味している（「ふまじめ」や「まじめさ」についても同様）。

「まじめ」という言葉を辞書で引くと、「真剣な態度・顔つき。本気。」や「まごころがこもっていること。誠実なこと。」となっている。しかし、まじめ論の代表的論者である千石保の議論などをみると、「真剣な態度」や「誠実なこと」の裏に、ある種の価値観が存在してはじめて、まじめ と呼ばれている。ある種の価値とは、勤勉さであったり、伝統的な規範を守る意識であったりする。本来であれば、このような点に関して十

分に整理して議論する必要がある。しかし、本章では質問項目などの関係から、「従来の まじめ 的な価値観」といった場合、道徳や社会のルールにしたがったり、社会に貢献したりする価値観と大まかに定義しておくことにする。

したがって、「おとなからみて」という意味は、従来の まじめ 的な価値観からみてということである。無論、私たちおとなといったとき、「おとな」というような一枚岩の存在を考えることが難しいことも承知している。しかし、私たちおとなの まじめ と高校生の「まじめ」が同一ではないという可能性を排除せず、現在の「まじめ」の検討を行う1つの試みと考えていただきたい。

2. まじめは外見でわかるのか？

まず、まじめ と ふまじめ の同居ということを高校生自身の評価から考えてみたい。高校生がまじめと外見との関係をどのようにとらえているのか、そして学校での態度からその他の場面でのまじめさがわかると思っているのかについてみてみることにしよう。

1) まじめと外見

本調査では、図5-1のようなまじめと外見との関係などに関する7つの質問をしている。「そう思う」という肯定の率が高い項目は、「目立つ格好をしていても、まじめに生き方を考えている人は結構いる」93.4%、「まじめだからといって、人がいいとは限らない」92.9%で、9割を超えている。また、「学校でまじめそうな人でも、学校外では結構遊んでいる人がいる」も74.7%と、4分の3が「そう思う」としている。逆に、肯定の率が低い項目は、「高校生のまじめさは学校での外見や行動でわかる」32.8%、「まじめにしたいくても、友だちの目を気にして、ふまじめに振る舞うことがある」47.9%で、5割を下回っている。

これらの回答から、大きく2つの傾向を指摘で

きるだろう。第1に、多くの高校生は外見からまじめさを判断できるとは思っていない、ということ。第2に、学校でのまじめさは、学校外でのまじめさを必ずしも保証するものではないと思っている、ということである。これは、すべての生活領域を貫くような「まじめ - ふまじめ」という軸があるとは高校生が思っていないということを示している。言い換えると、私たちおとなが「まじめ - ふまじめ」という軸から、高校生の「まじめ」

をみることの問題性を示唆しているといえるだろう。

また表5 - 1は、性別・学年別にこれらの項目をみたものである。ただしこの表は、回答者の性別や学年のバランスがとれている青森と東京の2校に限定している。これをみると、性別・学年別にそれぞれ差のみられる項目はあるが、一定の傾向を見いだすことは難しいといえよう。

図5 - 1 まじめと外見

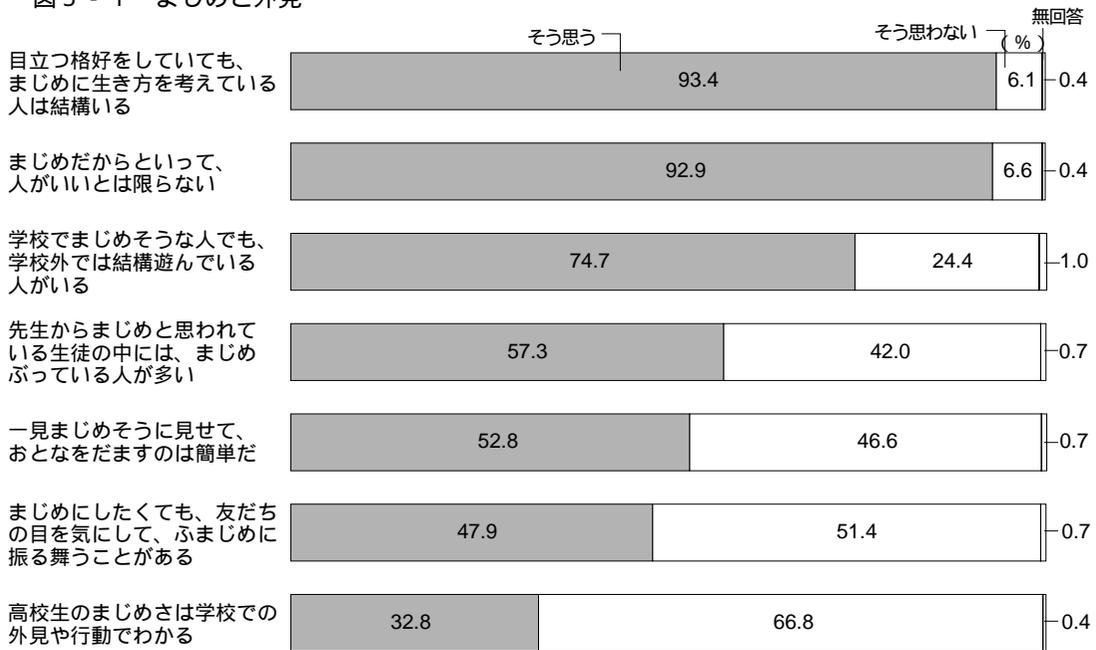


表5 - 1 まじめと外見 × 性・学年 (B校とC校のみ)

	B・C校 合計	(%)				
		男子	女子	1年	2年	3年
目立つ格好をしていても、まじめに生き方を考えている人は結構いる	94.0	90.9	96.6	94.7	91.9	96.1
まじめだからといって、人がいいとは限らない	93.0	90.9	94.8	93.3	92.2	93.9
学校でまじめそうな人でも、学校外では結構遊んでいる人がいる	74.1	79.4	69.7	79.6	71.6	70.2
先生からまじめと思われる生徒の中には、まじめぶっている人が多い	56.9	60.8	53.7	62.6	53.0	54.7
一見まじめそうに見せて、おとなをだますのは簡単だ	53.8	50.4	56.6	53.1	51.4	58.1
まじめにしたいくても、友だちの目を気にして、ふまじめに振る舞うことがある	47.3	47.5	47.2	52.7	47.4	40.3
高校生のまじめさは学校での外見や行動でわかる	34.0	36.9	31.7	39.8	33.2	27.6

「そう思う」の無回答を除いた割合

2) まじめ のタイプ分け

前項でみた、高校生自身が指摘する「外見とまじめさ」や「学校でのまじめさと学校外でのまじめさ」の不一致という事態は、おとなからみたときには まじめ と ふまじめ の同居として映るかもしれない。まじめ と ふまじめ の同居という事態は、どのように生じると考えることができるのだろうか。

まずは、第2章で指摘された「自分中心にまじめな高校生」という見方にもみられる、同心円的な まじめ 図式から考えてみることにしよう。同心円的な まじめ 図式とは、「自分や自分の身近なことは大事にするが、その他のこと、特に社会的なことには関心の薄い最近の高校生」という図式である。

確かに同心円的な まじめ 図式は、今回の調査の全体的な傾向をかなりの程度的確にいいあてているように思われる。そして、1人の若者に まじめ と ふまじめ が同居しているようにみえる場合の多くも、このような傾向によるのかもしれない。つまり、ある高校生が、自分や自分の身近なことについては まじめ であるが、それ以外のこと、特に社会的なことに関心を持つというような意味では まじめ とはいえない、というように。前項でみた「学校でのまじめさと学校外でのまじめさ」の不一致という事態も、この図式からある程度解釈可能である。

しかし、まじめ と ふまじめ の同居には、そうした事態とは異なったものもあることが、表5-2には示唆されている。表5-2は、「高校生が日常生活で大事にしていること」に関する18の項目から、異なる生活領域の3つの項目を抜き出してクロス集計したものである。

第2章の区分とは異なるが、「親の信頼を裏切らないこと」や「校則を守ること」は、「社会のためにつくすこと」に比べれば、高校生にとって身近なことといえるだろう。したがって、「自分や自分の身近なことは大事にするが、社会的なことには関心の薄い高校生」という図式からすれば、「社会のためにつくすこと」を大事だと考えている高校生は、身近なことも大事にしていることが予想される。しかし、「社会のためにつくすこと」を大事としつつも、「校則を守ること」や「親の信頼を裏切らないこと」を「大事でない」や「どちらともいえない」と回答する高校生がみられる。割合としては全体の1割強であり、必ずしも多いとはいえないが、無視できるほど少ないわけではない。

そこで、これらの3つの項目に対する回答の組み合わせによってグループ化を試みた。各質問を5段階尺度で聞いているため、論理的には5×5×5で125通りの組み合わせが考えられる。実際にも117通りという多くの組み合わせがみられたため、クラスター分析という手法を用いて類似した組み合わせをまとめてグループ化を行い¹⁾、6つのグループを作成した(図5-2)。

まず、各グループの特徴がわるように、名前をつけておくことにしよう。なお、これらの3つの項目を大事にすることは、おとなからみれば まじめ とみなされると考え、まじめ の類型と呼ぶことにする。またここでは、「親の信頼を裏切らないこと」「校則を守ること」「社会のためにつくすこと」を、それぞれ「親」「校則」「社会」と表記する。

第1グループは237名で、「親」「校則」「社会」のいずれも大事ではないとしているので、「ふま

表5-2 「自分の身近なこと」と「社会のためにつくすこと」

(人)

		親の信頼を裏切らないこと (親の言うことをよく聞くこと)			校則を守ること		
		大事	どちらとも いえない	大事で ない	大事	どちらとも いえない	大事で ない
社会のためにつくすこと	大事	361	124	47	359	118	54
	どちらともいえない	227	249	84	241	217	106
	大事でない	77	87	92	72	67	117

大事 は「とても大事」+「まあ大事」、大事でない は「それほど大事でない」+「ぜんぜん大事でない」

じめ 一貫派」と呼ぶことにする。

第2グループは323名で、「親」「校則」「社会」のいずれも大事にするわけでもなく、大事にしないわけでもないという高校生たちである。したがって、「ほどほど まじめ 一貫派」と名づけることにしよう。

第3グループは333名で最も多く、「親」「校則」「社会」のいずれも大事とするグループである。そこで、「まじめ 一貫派」と呼ぶことにする。

第4グループは198名で、「社会」よりも「校則」、「校則」よりも「親」を大事にしている高校生たちである。したがって、「非社会系 まじめ 派」と名づけることにしよう。

第5グループは100名で最も少なく、「親」や「社会」は大事であるが、「校則」は大事ではないとするグループである。そこで、「非学校系 まじめ 派」と呼ぶことにする。

第6グループは156名で、「親」よりも「校則」、「校則」よりも「社会」を大事としているので、「社会系 まじめ 派」と名づけることにする。

第1から第3グループは、各項目で大事の度合いが比較的一貫しているタイプであり、第4から第6グループは、大事の度合いが非一貫的なタイプである。大事の度合いが一貫している3つのグループの高校生が合計で7割であることから、前項の結果とは異なり、3つの領域を貫くようなまじめ - ふまじめ の軸を想定することが可能なようにもみえる。しかし、操作的に取り出したとはいえ、非一貫系の まじめ 類型が合わせて3割程度いることは興味深い。

「非社会系 まじめ 派」は、「自分や自分の身近なことは大事にするが、社会的なことには関心の薄い高校生」という同心円図式で解釈しうる非一貫した まじめ のタイプである。しかしそれだけでなく、「親の信頼を裏切らないこと」や「社会のためにつくすこと」を大事としながらも、「校則を守ること」を大事と考えていないタイプである「非学校系 まじめ 派」もいる。また、「社会のためにつくすこと」を大事としながらも、「親の信頼を裏切らないこと」や「校則を守ること」をそれほど大事と考えていない「社会系 まじめ 派」もいることがわかる。

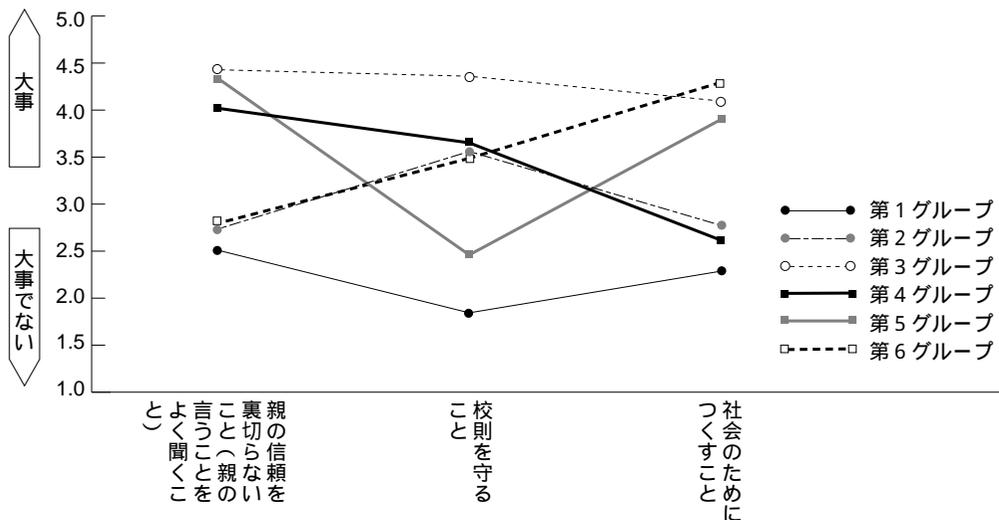
この結果は、すべての生活領域を貫くようなまじめ - ふまじめ という軸や、同心円的なまじめ の図式が、かなりの程度有効性を持つことを示しつつも、そうした観点だけでは高校生の「まじめ」を十分にはとらえきれない可能性を示唆しているといえよう。

3) まじめ 類型別にみた「まじめと外見」

次に、この まじめ 類型と先にみた「まじめと外見」の7つの質問との関係のみてみることにしよう。表5 - 3をみると、肯定の率が高い3項目では類型ごとに大きな差はないが、それ以外の4項目ではかなり差があることがわかる。

まず、一貫系の まじめ 類型では、まじめの度合いによって、肯定の割合に一定の傾向がみられる。「先生からまじめと思われる生徒の中には、まじめぶっている人が多い」と「一見まじめそうに見せて、おとなをだますのは簡単だ」

図5 - 2 <まじめ>の類型化



では、「ふまじめ 一貫派」>「ほどほど まじめ 一貫派」>「まじめ 一貫派」という順で肯定の割合が高くなっている。また、「まじめにしたいけど、友だちの目を気にして、ふまじめに振る舞うことがある」と「高校生のまじめさは学校での外見や行動でわかる」では、逆に「まじめ 一貫派」>「ほどほど まじめ 一貫派」>「ふまじめ 一貫派」という順で肯定の割合が高くなっている。まじめの度合いが高いグループの方が、「まじめにしたいけど、友だちの目を気にして、ふまじめに振る舞うことがある」としつつも、「まじめ」が一貫したものと考えているようである。

非一貫系のまじめ類型は、4つの項目とも「ほどほど まじめ 一貫派」に近い肯定率であり、全体として平均的といえる。この結果からすると、このまじめ類型が分析における有効性をあまり持っていないようにもみえるが、後にみるように、他の項目との関連では「ほどほど まじめ 一貫派」とは異なる傾向も示している。

次に、このまじめ類型が、高校生自身のま

じめさの評価とどのような関係があるのかをみてみよう。表5-4は、高校生自身が現在の自分をどの程度まじめと考えているかをまじめの類型別にみたものである。これをみると、類型におけるまじめさの程度と、高校生が自己評価する「まじめさ」との一致度は必ずしも高くはないことがわかる。確かに、「まじめ 一貫派」において「まじめ」の割合が高く、「ふまじめ 一貫派」において「まじめでない」の割合が高くなっている。しかし、いずれの類型でも「どちらともいえない」が多く、5割から6割となっている。

このことは、私たちおとなからすればまじめとみなされる「親の信頼を裏切らないこと」「校則を守ること」「社会のためにつくすこと」という3つの項目が、必ずしも高校生の「まじめ」の基準とは一致していないということを示唆している。私たちおとなのまじめの基準と、高校生たちの「まじめ」の基準とのこのような不一致は、どのように理解すればよいのだろうか。そのことの一部を次節で検討してみることにしよう。

表5-3 まじめと外見 × まじめ 類型

	まじめ 類型						合計
	一貫系			非一貫系			
	ふまじめ 一貫派	ほどほど まじめ 一貫派	まじめ 一貫派	非社会系 まじめ 派	非学校系 まじめ 派	社会系 まじめ 派	
目立つ格好をしていても、まじめに生き方を考えている人は結構いる	96.2	90.9	94.0	92.9	96.0	95.5	93.8
まじめだからといって、人がいいとは限らない	96.2	91.0	91.2	94.9	94.9	94.9	93.3
学校でまじめそうな人でも、学校外では結構遊んでいる人がいる	78.5	72.4	75.6	73.5	75.8	78.8	75.4
先生からまじめと思われている生徒の中には、まじめぶっている人が多い	69.4	55.1	51.8	57.4	62.6	56.1	57.8
一見まじめそうに見せて、おとなをだますのは簡単だ	66.4	52.3	42.1	56.1	57.6	50.0	52.9
まじめにしたいけど、友だちの目を気にして、ふまじめに振る舞うことがある	36.2	45.0	53.9	52.3	53.5	51.6	48.1
高校生のまじめさは学校での外見や行動でわかる	23.2	32.0	41.0	33.5	34.3	30.1	32.8

「そう思う」の無回答を除いた割合

表5-4 まじめさの自己評価 × まじめ 類型

		まじめ 類型						合計
		一貫系			非一貫系			
		ふまじめ 一貫派	ほどほど まじめ 一貫派	まじめ 一貫派	非社会系 まじめ 派	非学校系 まじめ 派	社会系 まじめ 派	
現在の自分が	まじめ	13.1	11.5	21.1	16.2	10.0	13.5	14.9
まじめかどうか	どちらともいえない	48.5	65.6	61.4	64.1	61.0	62.8	60.7
	まじめでない	38.4	22.9	17.5	19.7	29.0	23.7	24.4

無回答を除いた割合

3. まじめ と「自分らしさ」は両立するか？

前節では、多くの高校生が外見からまじめさを判断できるとは思っていないこと、そして学校でのまじめさが学校外でのまじめさを必ずしも保証するとは考えていないことをみた。つまり、すべての生活領域を貫くような まじめ - ふまじめという軸を想定することの困難さが示された。そして、「社会のためにつくすこと」を大事としながらも、「親の信頼を裏切らないこと」や「校則を守ること」を大事と考えていないようなタイプの まじめさ から、私たちおとなの同心円的なまじめさ の見方への疑問も示された。

本節では、高校生が抽象的な水準でどのようなことを大切に考えているかをみることで、私たちおとなからは まじめ にみえる高校生の態度や行動の背後にある意識について考えてみたい。それを踏まえ、私たちおとなの まじめ の基準と、高校生たちの「まじめ」の基準との不一致について若干の考察を行うことにしよう。

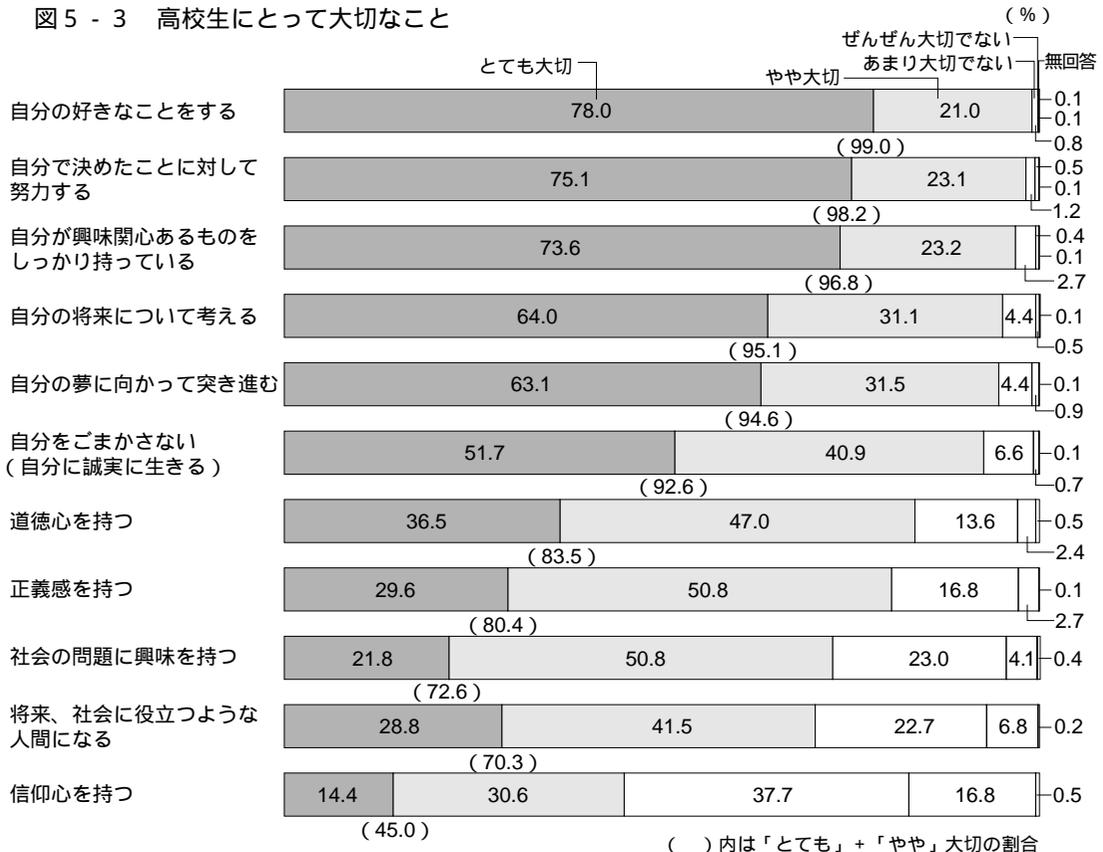
1) 高校生にとって大切なこと

図5-3のような11の点について、どの程度大切に思うかを尋ねると、「とても大切」と「やや大切」を合わせた肯定的回答が、「信仰心を持つ」以外のすべての項目で7割を超える結果となった。

「とても大切」と積極的に肯定する率に注目すると、「自分の好きなことをする」78.0%、「自分で決めたことに対して努力する」75.1%、「自分が興味関心あるものをしっかり持っている」73.6%で、3項目が7割を超えている。逆に積極的に肯定する率が低い項目は、「信仰心を持つ」14.4%、「社会の問題に興味を持つ」21.8%、「将来、社会に役立つような人間になる」28.8%、「正義感を持つ」29.6%で、3割に満たない。

全体の回答傾向をみると、従来 まじめ 的価値とされてきたような「道徳心を持つ」や、「正義感を持つ」「社会の問題に興味を持つ」「将来、社会に役立つような人間になる」も、消極的肯定も合わせると7割以上であり、予想以上に肯定率が高い。しかし、相対的にみれば肯定率は低く、高校生が自分の気持ちや考えを大切にしていると

図5-3 高校生にとって大切なこと



ということがわかる。単純化を恐れずにいえば、高校生は まじめ よりも、「自分らしさ」を大切に考えているといえよう。

2) まじめ と「自分らしさ」の共存

それでは、「自分らしさ」を大切にしている高校生は、「自分や自分の身近なことは大事にするが、社会的なことには関心の薄い高校生」といえるのだろうか。さらにいえば、自己中心的な高校生なのだろうか。

結論を先取りすれば、今回の調査結果は、必ずしもそうではない可能性を示唆している。表5-5は、まじめ 類型ごとに「大切に思っていること」をみたものである。「自分の好きなことをする」など、自分の気持ちや考えを大切にすることが、必ずしも身近な まじめ にだけ結びつくわけではないことがわかる。例えば、「社会系 まじめ 派」は、「自分の好きなことをする」や「自分で決めたことに対して努力する」を肯定する割合が「まじめ 一貫派」と同程度になっている。つまり、自分の気持ちや考えを大切に

いるということが、単純に自分の身近なことしか考えない「自己中心的なもの」に結びつくと考えられることはできないようである。

表5-6もこのことを支持している。「自分の好きなことをする」や「自分をごまかさない」を大切にしている方が、「道徳心を持つ」や「将来、社会に役立つような人間になる」を大切とする割合も高くなっているのである。「自分らしさ」を大切にしている高校生の方がむしろ、従来の まじめ 的価値をも大切にしているようである。

これらの結果を単純化すれば、「自分らしさ」を大切にすることは、「自分や自分の身近なことは大事にするが、社会的なことには関心の薄い」ということに必ずしも結びつかないということ。さらに、まじめ と「自分らしさ」は共存するのではないかと、ということになる。

ただし、次のような点に注意する必要がある。第4章で示されたように、多くの高校生にとって「まじめ」とは、「一生懸命にする」ことである。しかし、ある高校生が一生懸命にみえるとき、その背後に従来の まじめ 的な価値が常に存在す

表5-5 大切なこと × まじめ 類型

	まじめ 類型							合計
	一貫系			非一貫系				
	ふまじめ 一貫派	ほどほど まじめ	まじめ 一貫派	非社会系 まじめ	非学校系 まじめ	社会系 まじめ	派	
自分の好きなことをする	99.6	98.5	99.4	98.5	99.0	100.0	99.1	
自分で決めたことに対して努力する	96.2	97.8	99.4	99.0	98.0	99.4	98.3	
自分が興味関心あるものをしっかり持っている	95.8	96.9	99.1	94.9	97.0	96.2	96.9	
自分の将来について考える	91.1	91.3	98.8	94.9	100.0	98.1	95.1	
自分の夢に向かって突き進む	89.9	92.9	97.9	93.9	97.0	98.1	94.7	
自分をごまかさない(自分に誠実に生きる)	86.5	93.2	98.5	86.4	89.0	98.7	92.7	
道徳心を持つ	68.8	79.5	95.8	83.2	84.8	90.9	83.9	
正義感を持つ	62.9	74.0	95.8	75.3	83.8	91.7	80.4	
社会の問題に興味を持つ	52.3	65.9	91.6	61.9	79.8	89.0	73.0	
将来、社会に役立つような人間になる	39.4	61.6	92.2	62.6	87.0	87.8	70.4	
信仰心を持つ	30.4	36.8	64.5	38.8	52.5	46.5	45.1	

「とても大切」+「やや大切」の無回答を除いた割合

表5-6 まじめ と「自分らしさ」は両立するか

	自分の好きなことをする			自分をごまかさない (自分に誠実に生きる)			
	とても大切	やや大切	大切でない	とても大切	やや大切	大切でない	
道徳心を持つ	とても大切	40.3	24.5	8.3	51.1	22.1	16.2
	やや大切	44.1	59.2	41.7	38.1	59.1	46.5
	大切でない	15.6	16.3	50.0	10.8	18.8	37.4
将来、社会に役立つ ような人間になる	とても大切	31.6	19.0	16.7	39.4	18.6	12.1
	やや大切	39.6	50.4	16.7	36.4	49.8	32.3
	大切でない	28.8	30.6	66.7	24.2	31.6	55.6

<大切でない>は「あまり大切でない」+「ぜんぜん大切でない」。無回答を除いた割合

ると考えることはできないということだ。本節の分析全体から示唆されることは、その高校生がその行為を行っているのは「好きなこと」だからだと、まずは理解してみるべきだということである。

第2章で示されていたように、「あなたがまじめにやろうと思うのは、どのようなときですか」という質問に対しても、「自分の好きなことをするとき」という記述が最も多くなっていた。つまり、高校生にとっての「まじめ」とは、「好きなことを」「一生懸命にすること」と考えた方がよいように思われる。

例えば、ある高校生が一生懸命ボランティアに取り組んでいる場面を考えてみよう。私たちおとなはそれをみて、社会に貢献するまじめな高校生だと考えてしまいがちである。しかし本人は、体を動かして気持ちがいいのでボランティアが「好き」なのかもしれない。もちろん、同時に社会に役立ちたいという気持ちもあるかもしれない。

このように考えると、まじめとふまじめの同居という事態は、ある行動を一生懸命に行っている高校生たちの「自分らしさ」を大切にす意識と、その行動を従来のまじめ的価値から解釈する私たちおとなの意識とのズレとして理解することができるかもしれない。

4. 「まじめな私」と「ふまじめな私」

前節では、高校生が「道徳心を持つ」というような従来のまじめ的価値よりも、「自分の好きなことをする」というような「自分らしさ」を非常に大切にしているということが示された。そしてそのような結果から、まじめとふまじめの同居という事態を生じさせている要因の1つが、高校生たちの真剣な態度や行動の背後にある「自分らしさ」を大切にす意識と、その態度や行動を従来のまじめ的価値から解釈する私たちおとなの意識との間のズレにあるのではないかという点を指摘した。

しかし、事態はもう少し複雑なようである。本節では、さらに私たちおとなを混乱させるようなまじめとふまじめの同居の可能性をみてみることにしよう。その手がかりは、高校生の「自分らしさ」にある。

1) 高校生の「自分らしさ」

本調査では、「自分」や「自分らしさ」について12の質問を行っている。ただし、本節では上述

した問題意識から、「自分」や「自分らしさ」の一貫性にかかわる7つの項目のみについてみてみることにする。

図5-4をみると、「そう」と「まあそう」を合わせた肯定の率が高い項目は、「状況によって出てくる自分というものは違うと思う」85.4%、「本当の自分を見つけることが大切だと思う」74.2%、「自分には自分らしさというものがあると思う」71.6%で、7割を超えている。逆に、肯定の率が低い項目は、「本当の自分は1つしかないと思う」43.7%、「自分にはどんな状況でも変わらない自分らしさがあると思う」46.7%で、5割に満たない。

これらの結果をみると、多くの高校生は、自分らしさを持っていると思っているが、必ずしもその自分らしさが一貫したものと感じているわけではないようである。そこで、「自分には自分らしさというものがあると思う」と「自分にはどんな状況でも変わらない自分らしさがあると思う」をクロス集計し、「自分らしさ」の一貫性の程度をみてみた。

表5-7をみると、「自分には自分らしさというものがあると思う」と「自分にはどんな状況でも変わらない自分らしさがあると思う」を両方とも肯定する者が、4割で最も多くなっている。これは、一貫した「自分らしさ」を持っている高校生である。次に割合として多いのは、「自分には自分らしさというものがあると思う」を肯定し、「自分にはどんな状況でも変わらない自分らしさがあると思う」を否定する約3割の高校生である。これは、「自分らしさ」はあるが、その「自分らしさ」が必ずしも一貫しているわけではないというような非一貫した「自分らしさ」の存在を意味している。また、「自分には自分らしさというものがあると思う」と「自分にはどんな状況でも変わらない自分らしさがあると思う」をともに否定する高校生は、約2割となっている。なお、「自分には自分らしさというものがあると思う」を否定し、「自分にはどんな状況でも変わらない自分らしさがあると思う」を肯定する高校生が、非常に少ないものの6%程度いる。これは、論理的に矛盾しており解釈が非常に難しい。ただ、4段階の回答のままクロス集計してみると、中間的な回答が多くなっており、判断の微妙なゆらぎと解釈することができるだろう。

これらの結果からすると、「自分らしさ」というものが、常に確固とした一貫性を持つものとはいえないことがわかる。前節では、「自分」の気

持ちや考えを大切にしているということが即自己中心的な行動や態度に結びつくわけではないということを見た。そこからは、「自分」の気持ちや考えが指針となって一貫した態度や行動がとられ

るようなイメージが浮かびやすいかもしれないが、必ずしもそうではないのかもしれない。そこで、このような「自分らしさ」の意識が、まじめとふまじめの同居とどのような関係にあ

図5 - 4 「自分」や「自分らしさ」

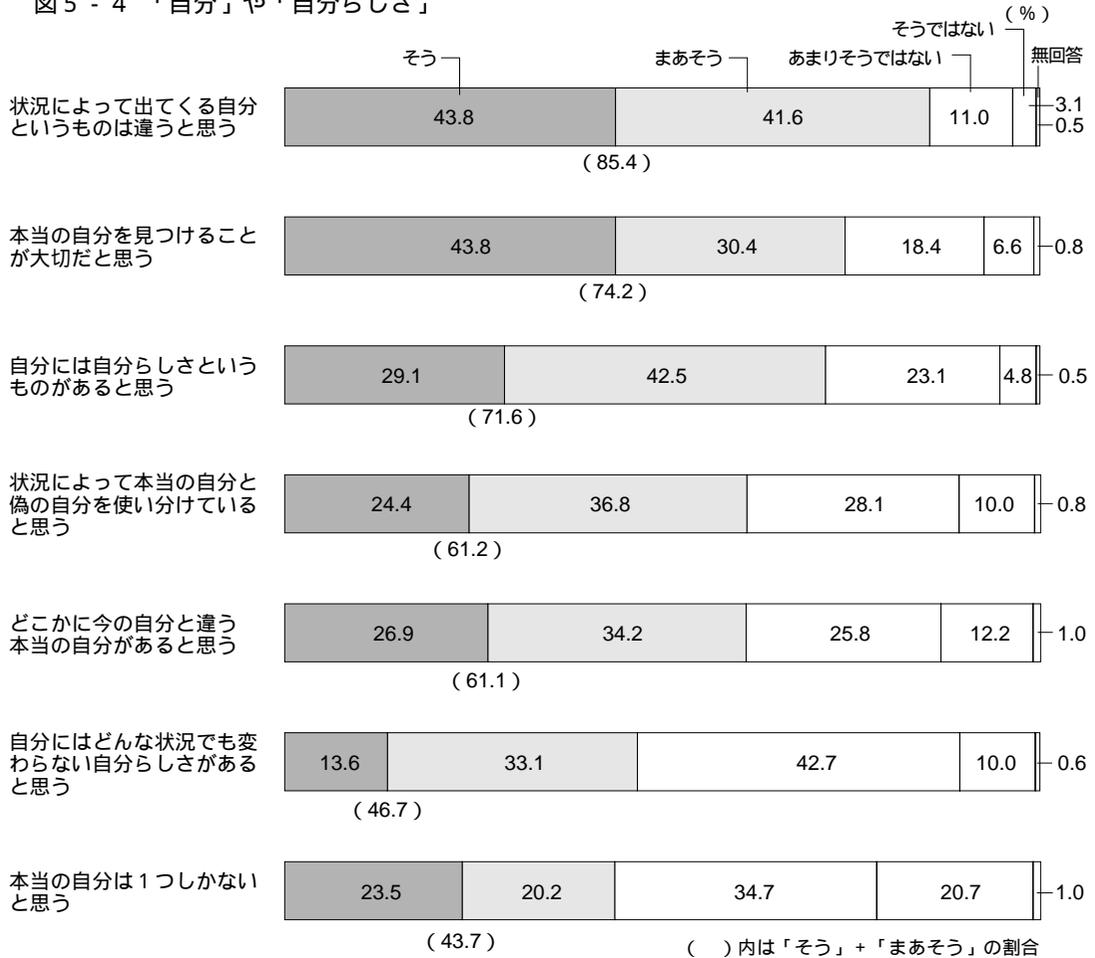


表5 - 7 「自分らしさ」の一貫性の程度

		(全体%)	
		自分には自分らしさというものがあると思う	
		肯定	否定
自分にはどんな状況でも変わらない	肯定	41.1	5.9
自分らしさがあると思う	否定	31.0	22.0

肯定 は「そう」+「まあそう」、否定 は「あまりそうではない」+「そうではない」
無回答を除いた割合

るのか、次項で検討することにしよう。

2) まじめ 類型と「自分らしさ」

まじめ と ふまじめ の同居と「自分らしさ」の関係を探るために、「まじめ 類型」と「自分」や「自分らしさ」についての5つの項目との関係をみてみた。

表5-8をみると、それほど明瞭ではないが、一貫系 まじめ に比べ非一貫系 まじめ は、「状況によって出てくる自分というものは違うと思う」を肯定する割合が若干高く、「自分にはどんな状況でも変わらない自分らしさがあると思う」を肯定する割合がやや低くなっている。特に「社会系 まじめ 派」では、この傾向が顕著であり、「本当の自分は1つしかないと思う」を肯定する割合も低い。

もう少しわかりやすくするため、表5-7のクロス表から「自分らしさ」の一貫性の程度で3つのグループを作り、「まじめ 類型」とクロス集計したものが表5-9である。これをみると、非一貫系 まじめ 全体の傾向を指摘するのは難しいが、「社会系 まじめ 派」で、一貫した「自分らしさ」が少なく、非一貫した「自分らしさ」

が多くなっていることがわかる。

これらの結果から、非一貫した まじめ の一部が、「自分らしさ」の非一貫性と関連していることがわかる。つまり、まじめ と ふまじめ の同居という事態の一部は、同心円的な まじめ や、おとなと若者の意識のズレだけでなく、「自分らしさ」の非一貫性によって、高校生自身に「まじめな私」と「ふまじめな私」が同居していることによると考えられるのである。

5. 新しいまじめは可能か？

最後に、これらの調査結果を踏まえ、私たちおとなが若者の まじめ について考える際に注目すべき点を2つ指摘して、まとめに代えたい。

第1に、ある場面での まじめさ は、他の場面での まじめさ を必ずしも保証しないということである。この点は、今後さらにその可能性が高まるのではないかと、と思われる。今回の分析では、それほど顕著な傾向はみいだされなかったが、「自分らしさ」の非一貫性と まじめ と ふまじめ の同居との関係は、高校生の まじめ を考える際に重要な点になるとと思われる。それは、

表5-8 「自分」や「自分らしさ」× <まじめ> 類型

	まじめ 類型						合計
	一貫系			非一貫系			
	ふまじめ 一貫派	ほどほど まじめ 一貫派	まじめ 一貫派	非社会系 まじめ 派	非学校系 まじめ 派	社会系 まじめ 派	
状況によって出てくる自分というものは違うと思う	81.4	86.3	84.0	87.9	88.8	90.4	85.8
自分には自分らしさというものがあると思う	72.5	67.3	79.5	74.2	62.2	69.9	72.2
状況によって本当の自分と偽の自分を使い分けられていると思う	62.0	60.3	58.4	61.6	71.1	63.5	61.5
自分にはどんな状況でも変わらない自分らしさがあると思う	46.6	45.3	56.6	44.4	43.9	36.5	47.1
本当の自分は1つしかないと思う	40.6	41.4	50.5	43.4	55.7	35.3	44.1

「そう」+「まあそう」の無回答を除いた割合

表5-9 「自分らしさ」の一貫性 × まじめ 類型

	まじめ 類型	一貫性						合計
		一貫系			非一貫系			
		ふまじめ 一貫派	ほどほど まじめ 一貫派	まじめ 一貫派	非社会系 まじめ 派	非学校系 まじめ 派	社会系 まじめ 派	
「自分らしさ」の一貫性の程度	「自分らしさ」一貫	42.5	41.9	53.7	41.5	40.2	34.0	43.8
	「自分らしさ」非一貫	35.6	29.9	31.2	36.7	26.1	38.7	33.0
	「自分らしさ」なし	21.9	28.2	15.1	21.8	33.7	27.3	23.2

「自分らしさ」の一貫性の程度 は 「自分には自分らしさというものがあると思う」と 「自分にはどんな状況でも変わらない自分らしさがあると思う」への回答を組み合わせたもの。「自分らしさ」一貫 は、 と をともに肯定。「自分らしさ」非一貫 は、 を肯定し を否定。「自分らしさ」なし は、 と をともに否定。無回答を除いた割合

社会的に考えると、「自分らしさ」の非一貫性が今後高まっていくことが予想されるからである。

本章で「自分らしさ」の非一貫性と呼んだものは、社会学では自己の多元化と通常呼ばれている。自己の多元化がもたらされる要因には様々な点があるが、最も大きな要因は多元的な所属が進行しつつある点に求められる²⁾。社会的にみると、自己とは他者との関係において成立する。その他者との関係性のあり方が、変容していると考えられるのである。日本では、産業化による農村から都市への大規模な人々の移動などで伝統的な共同体が崩壊した後も、学校や会社など包括的なコミットメントを強いるある種の集団が共同体として機能してきた。しかし現在、ある集団へのコミットメントは包括性を失い、選択的なものへと変わりつつある。メディアを介したものも含め、集団への多元的な所属が進展してきているのである。また、理論的にだけでなく、若者を対象とした調査においても、自己の多元化傾向が指摘されている³⁾。つまり、「まじめな私」と「ふまじめな私」が1人の高校生に自然に同居するような事態が、今後さらにありふれたことになってくるかもしれないのである。

このような点を踏まえると、ある高校生の態度や行動の一部だけを見て、彼/彼女の全体を理解するということが、ますます困難になっていくことが予想される。多くの高校では、服装や髪型指導は以前ほど厳しいものではなくなってきている。しかし他方で、「服装の乱れは心の乱れ」的な考えも根強く、学校内にとどまらず私たちおとなは、このような考えを強く持っているように思われる。例えば、昨年起こった「兵庫県明石市の花火大会事故」で、自らの責任を逃れようとして、「茶髪」の若者たちが暴れたという虚偽の報告をした警備会社の対応には、そうした意識があらわれている。そして、「茶髪」の若者たちが暴れたことが原因だとする報道に、おそらく一旦はなんとなく納得してしまった私たちおとなも同様である。ある面のまじめさをみて過度に安心をしたり、ある面のふまじめさから過度に決めつけを行ったりするような私たちおとなの思考を見直す必要があるのではないだろうか。

第2に、「自分の好きなことをすること」と「まじめであること」とは共存しうるのではないかと、という点である。このことは、今後の社会を考えていく上で重要な点になると思われる。第3節で、「自分の好きなこと」を大切にすることを

「社会に貢献すること」にも結びつきうるものであり、その可能性も決して低くないことが示唆された。そうであるとすれば、その結びつきがうまくいくとき、公共性をもった新しい「まじめ」が生まれるのかもしれない。まじめ論の代表的論者である千石保も、いくつかの著書の中で、そのような主旨のことを述べている（例えば、千石[1997][2001]）。

ただし千石の場合、「自分の好きなこと」を大切にすることが「わがまま」にならないように絶対的な規範や倫理が必要とされている、というような議論へと結びつけていく。しかし、千石が自明視するような絶対的な規範や倫理を確立することは、ますます困難になると考えられる。千石が批判する宮台真司も指摘するように、一神教の伝統のない我が国において、そうした強力な倫理の基盤は、そもそもないと考えられる（宮台[1994]）。私たちの従ってきた社会のルールは、「世間の目」という言葉に象徴されるような、ある特定の共同体に基盤を持つ道徳である。そして、伝統的共同体を代替してきた会社や学校という共同体も崩壊し、無数の小さな集団へと分解しつつある日本社会の現状では、道徳すらその存立の基盤を失っていると考えられるのである。

わがままに結びつくことを問題にするのであればむしろ、絶対的な規範や倫理を声高に持ち出すよりも、宮台的な戦略の方が社会的には有効なように思われる（例えば、宮台[2000] 宮台・速水[2000]）。例えば、「自分の好きなこと」を大切にすることを生かしつつ、自らが「自分の好きなこと」をするためには、他者の協力が必要であり、他者の「自分らしさ」を尊重しなければならない、というような形でルールを導き出していくということである。

また、「自分の好きなこと」を利用することは、勤勉さという意味におけるまじめの基盤を補完あるいは代替するという意味においても有効だと思われる。第3章で、将来にとって重要なこととして高校生が選択していたのは、「偏差値の高い大学に進学すること」や「社会的に評価の高い職業につくこと」ではなく、「自分の好きな職業につくこと」や「幸せな家庭を築くこと」であった。現在は深刻な不況の中にあるとはいえ、「豊かな社会」の中で育った世代にとって、輝かしい未来だけを信じて、現在の気持ちをすべてがまんして努力することが、魅力的だとは考えにくい。「がまん」や「努力」をお説教のように推奨するよりも、「自分の好きなこと」に夢中になるとい

う側面を生かしていく方が有効だと思われる。

ただし、「自分の好きなこと」を利用し、新しい「まじめ」を創造することは、大きな困難も抱えている。前述したように、一貫した自分というものを持つことが、基本的に困難な状況にあるという点に注意する必要がある。残念ながら詳述する余裕はないが、『モノグラフ・高校生』Vol.60

で指摘したように、そうした点を十分に配慮しなければ、「自分の好きなこと」の強調は大きな問題を生じさせる可能性がある(岩田[2000])。

もはや「まじめ」が復活することはあり得ない。しかし、新しい「まじめ」を創造することは可能かもしれない。

【注】

- 1) 質問紙とは逆に「そうだ」から「そうではない」の順に5点から1点の点数を与え、クラスター分析を行った。クラスター分析は、平方ユークリッド距離を用い、ウォード法を適用した。
- 2) 自己の多元化についての非常にわかりやすい解説としては、浅野[2002]がある。
- 3) 浅野[1995][1999]や岩田[1999][2000][2001]を参照。

【主要参考文献】

- 浅野智彦 1995 「友人関係における男性と女性」高橋勇悦監修『都市青年の意識と行動 - 若者たちの東京・神戸90's・分析編 - 』恒星社厚生閣
- 1999 「親密性の新しい形へ」富田英典・藤村正之編『みんなぼっちの世界 - 若者たちの東京・神戸90's・展開編 - 』恒星社厚生閣
- 2002 「社会学でわかる個人」浅野智彦編著『図解 社会学のことが面白いほどわかる本』中経出版
- 岩田 考 1999 「友人関係の現在 - 友人関係・自己意識・不安 - 」深谷昌志監修『高校生の他者感覚 - ゆるやかな人間関係の持ち方 - 』(モノグラフ・高校生99 Vol.56)ベネッセ教育研究所
- 2000 「高校生の自分探し - 「自分探し」という神話 - 」深谷昌志監修『高校生の自我像 - 「自分探し」をする高校生 - 』(モノグラフ・高校生 Vol.60)ベネッセ教育研究所
- 2001 「大学生における自己意識の現在 - 自己の複数性と選択的關係性 - 」青少年研究会『今日の大学生のコミュニケーションと意識』
- 宮台真司 1994 『制服少女たちの選択』講談社
- 2000 『自由な新世紀・不自由なあなた』メディアファクトリー
- 宮台真司・速水由紀子 2000 『サイファ覚醒せよ! - 世界の新解読バイブル - 』筑摩書房
- 千石 保 1997 『「モラル」の復権 - 情報消費社会の若者たち - 』サイマル出版会
- 2001 『新エゴイズムの若者たち - 自己決定主義という価値観 - 』(PHP新書183)PHP研究所

●まどめに代えて

まじめさの再生は可能か

見かけとまじめさを分けてほしい

今回の調査を通して、高校生がまじめさをどう考えているのかをつかめたような印象を受ける。「まじめ」について、生徒たちはまじめを大事な態度とは思っていないが、かといって、まじめを馬鹿にしているわけでもない。おとなの人はまじめな態度を尊重しているようだが、それほどの値打ちはない。ふまじめを誇示する必要はないが、かといって、まじめぶることも愚かなことだという評価である。

ただ、生徒たちは「まじめさと外見とを分けてほしい」、そして「授業中のまじめさを過信しないでほしい」と願っている。奇抜な格好をしていても、本当はまじめな生徒が少なくないし、それとは逆に授業中は神秘的な態度をとっていながら、先生の知らないところで、結構、悪さをしている生徒もいる。だから、見かけだけでまじめかどうかを判断しないでほしいという。

幸か不幸か、筆者はこのところ、こうした高校生の言い分に理解できるものを感じる。金髪に近い茶髪で厚底のサンダルをはき、超ミニで学内に登場する。どう見てもオミズ系で、こんな格好をしなくてもよいのにと思う。ところが、そうした女子学生が授業態度がしっかりしているだけでなく、考え方も堅実であったりすることが少なくない。だったら、もう少し抑えてとは思うが、本人は自分に自信があるから、かえって突飛な格好をするのかもしれない。外見はファッションで、中味とは別。本人としては、外見と中味とのギャップが楽しいのかもしれない。

こうした考えからすると、中味はだらしのないの見かけだけをつくらっている仲間は偽善者だし、それを見抜けない先生も許しがたいのかもしれない。高校生に接するときも、見かけに惑わされずに、中味をみる態度が大事なように思った。

生き方を育てよう

今回の調査によれば、学校の勉強が役立つと思える生徒は真剣に授業を聞いていた。それとは逆に、勉強が意味を持つと思えない生徒は授業を怠けがちだった。したがって授業中のまじめさは、勉強を意味があると思えるかどうかにかかっており、意味が感じられなければ、授業は苦痛の連続になり、時には眠り、時にはサボることになる。それをまじめさに欠けるといわれても困るのが生徒の言い分である。

どうやら、何か目標があり、目標を目指してがんばると、結果としてまじめな態度に連なる。まじめさにはそうした性質があるように思える。そして、これまでのまじめには2つの類型があったように思う。

社会的な達成を目指し、そのために難関大学への進学を考え、遊び時間を削いで勉強する。これが古典的なまじめさの1つのタイプであろう。そしてもう1つは、高校時代に国レベルの大会に出たいと、サッカーやバレーに打ち込む。これが伝統的なまじめさのもう1つの類型であろう。

しかし冒頭でふれたように、社会的な達成や高学歴という目標は意味を失い始めている。さらに、スポーツのプロを目指すにしても、求道的な部活動に属する必要はない。マイペースでも十分やれると思う。マイペースを生かせる種目を選ぶという形で、第2の類型の意味も揺らいでいる。

高い大きな望みでなくともよい。自分なりのゴールを設定させる。そして、ゴールへ至る道筋を考えさせる。そうすれば、自ずと生徒はゴールを目指すのではないかと。生徒たちにまじめさが欠けるように思えるのは、生徒たちが生きる目標を設定できないでいるからではないか。変動が激しく、未来が不透明な時代だけに、過去や現在にとらわれることなく、それぞれの生徒が思い切って自分の人生を設計してほしいと思った。

アンケートのお願い

このアンケートは、高校生のまじめさについての考えを知るためにつくったものです。

あなたの大切な時間をいただいて申しわけありませんが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

(お名前はいりませんので、ありのままをお答えください)

高校教育研究会

東京成徳短期大学教授 深谷 昌志

上智大学教授 武内 清

明治学院大学教授 望月 重信

1 あなたの学校、学年、性別についてお聞きします。

1) 学校名…… () 高等学校

2) 学 年…… () 年生

3) 性 別…… (1. 男子 2. 女子) (○をつけてください)

2 あなたは友だちと、次のようなことをよく話しますか。

	よく話す	ときどき話す	あまり話さない	ぜんぜん話さない
1. テレビ番組のこと……………	1	2	3	4
2. 音楽のこと……………	1	2	3	4
3. 家族のこと……………	1	2	3	4
4. 友だちのこと……………	1	2	3	4
5. 異性のこと……………	1	2	3	4
6. タレントやスポーツ選手のこと……………	1	2	3	4
7. 趣味のこと……………	1	2	3	4
8. 授業のこと……………	1	2	3	4
9. 部活動のこと……………	1	2	3	4
10. 進路や将来のこと……………	1	2	3	4
11. 社会や政治のこと……………	1	2	3	4

3 次のようなクラスメイトをどのように思いますか。

	とてもいい	かなりいい	どちらともいえない	あまりよくない	ぜんぜんよくない
1. 学校に無遅刻・無欠席で通っている人……………	1	2	3	4	5
2. どの授業でも内職しない人……………	1	2	3	4	5
3. 授業中に友だちとよく話す人……………	1	2	3	4	5
4. 成績のよい人……………	1	2	3	4	5
5. 運動部で活躍している人……………	1	2	3	4	5
6. クラスの仕事を進んでする人……………	1	2	3	4	5
7. 信号が青になるまでは絶対に横断歩道を渡らない人……………	1	2	3	4	5

《回答のしかた》特にことわりのない場合は、あてはまる数字に1つだけ○をつけてください。

- | | | | | | |
|--|-----------|-----------|---------------|-------------|--------------|
| | とても
いい | かなり
いい | どちらとも
いえない | あまり
よくない | ぜんぜん
よくない |
|--|-----------|-----------|---------------|-------------|--------------|
8. 家の門限を気にせず、遅くまで遊ぶ人…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 9. 友だちとの約束を必ず守る人…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 10. アルバイトを一生懸命する人…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 11. パソコンに詳しい人…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 12. お酒を飲んだり、タバコを吸ったりする人… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 13. 政治や社会の出来事に興味を持っている人… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
 14. 熱心にボランティア活動をしている人…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5

4 1)～6)のような場合、あなたなら1.と2.のどちらの行動をとりますか。

- 1) 宿題を忘れていたことに気がついたとき
1. 宿題を提出しない 2. 友だちの答えを写すなどして、提出する
- 2) 電車やバスに乗ったとき
1. 後からの人が座れるようにつめて座る 2. ゆったりと間隔をあけて座る
- 3) ちょっと疲れているのに座る場所がないとき
1. 地べたに座る 2. できるだけ立っている
- 4) 車内で騒いでいる子どもを見たら
1. 注意する 2. 注意しない
- 5) 恵まれない人の話を聞くと
1. 自分は幸せだと思う 2. 何か手をさしのべたいと思う
- 6) 町内の行事(祭りなど)で、手伝いを頼まれたら
1. できる限り手伝う 2. 手伝わない

5 始業式で校長先生が生徒に話をしているとき、あなたはどのように聞くことが多いですか。1つだけ選んで○をつけてください。

1. 熱心に話を聞く
2. 耳は傾けるが、他のことを考えていることが多い
3. 友だちとおしゃべりをしたり、別のことをしたりすることが多い
4. その他(具体的に)

6 授業中、次のようなことをすることがよくありますか。

- | | | | | |
|--|----------|------------|-----------|------------|
| | よく
ある | ときどき
ある | あまり
ない | ぜんぜん
ない |
|--|----------|------------|-----------|------------|
1. 先生に質問する…………… 1 — 2 — 3 — 4
 2. わからないことを後から先生に聞きに行く…………… 1 — 2 — 3 — 4
 3. 授業中、ノートをきちんと取る…………… 1 — 2 — 3 — 4
 4. 友だちとおしゃべりをする…………… 1 — 2 — 3 — 4
 5. 友だちに渡すメモや手紙を書く…………… 1 — 2 — 3 — 4
 6. 携帯電話・PHSで話したり、メール交換を
したりする…………… 1 — 2 — 3 — 4
 7. 宿題や別の教科や受験の勉強をする…………… 1 — 2 — 3 — 4
 8. テープ、CD、MDなどで音楽を聴く…………… 1 — 2 — 3 — 4
 9. マンガや雑誌、小説を読んだりする…………… 1 — 2 — 3 — 4
 10. いねわりをする…………… 1 — 2 — 3 — 4
 11. 教室を立ち歩く…………… 1 — 2 — 3 — 4

7 次のような授業のとき、あなたは熱心に授業に取り組みますか。

- | | | |
|--|----|-----|
| | はい | いいえ |
|--|----|-----|
1. こわい先生の授業…………… 1 ————— 2
 2. やさしい先生の授業…………… 1 ————— 2
 3. クラス担任の授業…………… 1 ————— 2
 4. 熱心な先生の授業…………… 1 ————— 2
 5. 自分の興味のある教科の授業…………… 1 ————— 2
 6. 受験にかかわる教科の授業…………… 1 ————— 2
 7. 体育や音楽など実技授業…………… 1 ————— 2

8 今、学校で勉強していることは、あなたにとって将来、どの程度役に立つと思いますか。

- | | | | |
|----------------|----------------|------------------|-------------------|
| 大いに役に
立つと思う | かなり役に
立つと思う | あまり役に
立たないと思う | ぜんぜん役に
立たないと思う |
| 1 | 2 | 3 | 4 |

9 あなたは次のようなとき、どのくらい充実感を感じますか。

- | | とても
充実
している | やや充実
している | あまり充実
していない | ぜんぜん
充実
していない |
|-------------------------------------------|-------------------|--------------|----------------|------------------------|
| 1. テレビやマンガを見ているとき…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 音楽を聴いているとき…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 家族と一緒にいるとき…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 友だちと一緒にいるとき…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 学校で勉強をしているとき…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 家で勉強をしているとき…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 予備校、塾で勉強をしているとき…………… | 1 | 2 | 3 | 4……………(5)
して
いない |
| 8. 部活動をしているとき…………… | 1 | 2 | 3 | 4……………(5) |
| 9. クラスの活動に参加しているとき
(文化祭や体育祭の準備など)…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 奉仕活動やボランティア活動
しているとき…………… | 1 | 2 | 3 | 4……………(5) |

10 あなたは今、次のことをどのくらい大事に思っていますか。

- | | とても
大事 | まあ
大事 | どちらとも
いえない | それほど
大事でない | ぜんぜん
大事でない |
|----------------------------|-----------|----------|---------------|---------------|---------------|
| 1. 学校に毎日行くこと…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 学校に遅刻しないこと…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. まじめに授業を聞くこと…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 校則を守ること…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 勉強をすること…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6. 部活動を一生懸命すること…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7. 掃除当番をきちんとすること…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8. 塾、予備校に通うこと…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9. アルバイトを一生懸命すること…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10. 友だち関係を大事にすること…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11. 異性とつきあうこと…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12. 髪型やファッションに気をつかうこと…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13. 流行に遅れないようにすること…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

とても
大事

まあ
大事

どちらとも
いえない

それほど
大事でない

ぜんぜん
大事でない

14. 読書をする…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
15. 親の信頼を裏切らないこと（親の言う
ことをよく聞くこと）…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
16. 他人に迷惑をかけないようにすること…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
17. ボランティア活動、奉仕活動に参加する
こと…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5
18. 社会のためにつくすこと…………… 1 — 2 — 3 — 4 — 5

11 次のようなことは、あなた自身にとって大切なことだと思いますか。

- | | とても
大切 | やや
大切 | あまり
大切でない | ぜんぜん
大切でない |
|-------------------------------|-----------|----------|--------------|---------------|
| 1. 自分の好きなことをする…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 自分をごまかさない（自分に誠実に生きる）…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 自分が興味関心あるものをしっかり持っている…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 自分で決めたことに対して努力する…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 自分の将来について考える…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 自分の夢に向かって突き進む…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 信仰心を持つ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 道徳心を持つ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 正義感を持つ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 社会の問題に興味を持つ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 将来、社会に役立つような人間になる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

とても
大切

やや
大切

あまり
大切でない

ぜんぜん
大切でない

12 あなたは、次の人から「あなたはまじめだね」と言われたらどう思いますか。

- | | とても
うれしい | わりと
うれしい | どちらとも
いえない | あまり
うれしくない | まったく
うれしくない |
|------------------|-------------|-------------|---------------|---------------|----------------|
| 1. 親から…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 担任の先生から…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. クラスメイトから…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

とても
うれしい

わりと
うれしい

どちらとも
いえない

あまり
うれしくない

まったく
うれしくない

- 13 あなたは、過去をふりかえて、自分は「まじめ」だったと思いますか。それぞれの時期について答えてください。

	まじめ (だった)	どちらとも いえない	まじめでない (でなかった)
1. 小学校時代	1	2	3
2. 中学校時代	1	2	3
3. 現在 (高校時代)	1	2	3

- 14 「まじめ」という言葉のイメージについて、次のことはあてはまりますか。

	はい	いいえ
1. 人間にとって大切なことである	1	2
2. 努力、一生懸命にする	1	2
3. 融通がきかなくて、堅苦しい	1	2
4. 素朴さ、正直さ、誠実さを感じる	1	2
5. 今の若者にはあまりうけない	1	2
6. 日本人から失われつつある	1	2
7. 正義感に満ちている	1	2
8. どこかうそっぽいイメージがある	1	2
9. 好きな言葉	1	2

- 15 「まじめ」についてのいろいろな意見がありますが、あなたはそれについて、どう思いますか。

	そう 思う	そう 思わない
1. 高校生のまじめさは学校での外見や行動でわかる	1	2
2. 先生からまじめと思われている生徒の中には、まじめぶっている人が多い	1	2
3. 学校でまじめそうな人でも、学校外では結構遊んでいる人がいる	1	2
4. まじめだからといって、人がいいとは限らない	1	2
5. まじめにしたいくても、友だちの目を気にして、ふまじめに振る舞うことがある	1	2
6. 一見まじめそうに見せて、おとなをだますのは簡単だ	1	2
7. 目立つ格好をしていても、まじめに生き方を考えている人は結構いる	1	2

- 16 あなたがまじめにやろうと思うのは、どのようなときですか。自由に書いてください。

- 17 あなたは「自分」について、次のようなことがあてはまりますか。

	そう	まあ そう	あまりそう ではない	そう ではない
1. 今の自分が好きだ	1	2	3	4
2. 自分には自分らしさというものがあると思う	1	2	3	4
3. 状況によって出てくる自分というものは違うと思う	1	2	3	4
4. 自分にはどんな状況でも変わらない自分らしさがあると思う	1	2	3	4
5. 状況によって本当の自分と偽 (にせ) の自分を使い分けられていると思う	1	2	3	4
6. 本当の自分は1つしかないと思う	1	2	3	4
7. どこかに今の自分と違う本当の自分があると思う	1	2	3	4
8. 本当の自分を見つけることが大切だと思う	1	2	3	4
9. まわりからうけようと思う気持ちはかなりある	1	2	3	4
10. 人の持っていないものを身につけたい	1	2	3	4
11. どんな相手にも自分の心は打ち明けられない	1	2	3	4
12. 困難にぶつかっても自分のためになると思いがんばる	1	2	3	4

18 あなたは人生について、どのように考えていますか。

- | | そう思う | どちらとも
いえない | そうは
思わない |
|--------------------------------|------|---------------|-------------|
| 1. 生きている実感のある今の一瞬が一番大切だ…………… | 1 | 2 | 3 |
| 2. 自分の夢の実現のためにがんばるのが人生だ…………… | 1 | 2 | 3 |
| 3. 今が大切にできないで将来を大切にできるはずがない… | 1 | 2 | 3 |
| 4. 今がつかなくても将来のためならがまんするべきだ………… | 1 | 2 | 3 |
| 5. 就職難の世の中、まじめに勉強しておかないと大変だ… | 1 | 2 | 3 |
| 6. どうなるかわからない先のことを考えても仕方がない… | 1 | 2 | 3 |
| 7. 今していることの価値は将来になってわかるものだ………… | 1 | 2 | 3 |

19 次にあげることがらは、あなたの将来にとってどのくらい重要ですか。

- | | 重要 | やや
重要 | あまり
重要でない | 重要で
ない |
|-------------------------|----|----------|--------------|-----------|
| 1. 偏差値の高い大学に進学すること…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 自分の好きな職業につくこと…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 社会的評価の高い職業につくこと…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 高い収入を得ること…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 幸せな家庭を築くこと…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

20 次のことに関して、あなたは親と比べて、すぐれていると思いますか。

(男子は父親、女子は母親、あるいはそれに代わる人と比べてください)

- | | 自分の方が
すぐれている | 同じくらい | 親の方が
すぐれている |
|---------------------------|-----------------|-------|----------------|
| 1. 好きなことに打ち込む力…………… | 1 | 2 | 3 |
| 2. 何事にもがんばる力…………… | 1 | 2 | 3 |
| 3. 友だちとのつきあいを大切にすること…………… | 1 | 2 | 3 |
| 4. 誰とでも上手につきあうこと…………… | 1 | 2 | 3 |
| 5. 親を大切にする気持ち…………… | 1 | 2 | 3 |
| 6. 責任感 (責任を果たす気持ち) …………… | 1 | 2 | 3 |
| 7. 正義感 (不正を憎む気持ち) …………… | 1 | 2 | 3 |
| 8. 愛国心 (国のことを思う気持ち) …………… | 1 | 2 | 3 |
| 9. 環境や地球へのやさしさ…………… | 1 | 2 | 3 |

21 あなたは、今の日本の社会や人々について、次のように感じるがありますか。

- | | とても
そう思う | まあ
そう思う | あまり
そう思わない | まったく
そう思わない |
|--------------------------------------|-------------|------------|---------------|----------------|
| 1. 物質的に豊かな社会だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 自分のことしか考えない人が多い…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. まじめに努力をすればむくわれる社会だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. お金持ちや地位の高い人が得をする社会だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 新聞やテレビからの報道は信用できる…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. おとなは若者の考えや気持ちをあまり
理解していない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

22 あなたは、現在の自分や社会についてどう思いますか。

- | | とても
そう思う | わりと
そう思う | あまり
そう思わない | ぜんぜん
そう思わない |
|----------------------------------------|-------------|-------------|---------------|----------------|
| 1. どちらかという和社会のことより
自分のことの方が大切だ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 自分なりの生き方を大事にしたい…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 日本の将来についていろいろ考える…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 将来の目標がわからない…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. おとなはもっと、人生を楽しんでほしい…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 自分たちの力で社会を変えていけると思う…………… | 1 | 2 | 3 | 4 |

最後に、高校生活についてお聞きします。

23 あなたは、高校の部活動に入っていますか。

1つだけ選んで○をつけてください。

- 運動部に入り、熱心に活動している
- 運動部に入っているが、熱心ではない
- 文化部に入り、熱心に活動している
- 文化部に入っているが、熱心ではない
- 以前は入っていたが、今はやめた
- 入ったことがない

24 現在、あなたの成績はクラスでどのくらいですか。

上の方 中の上 中下 中の下 下の方
 くらい くらい くらい
 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

25 今のところ、あなたは高校卒業後の進路をどう考えていますか。

1. 入るのが難しい4年制大学
2. ふつう程度の4年制大学
3. 短大
4. 専修学校・専門学校
5. 就職
6. フリーター、アルバイト
7. まだ決めていない
8. その他 (具体的に _____)

26 あなたは、現在の高校に満足していますか。

- | | とても満足
している | かなり満足
している | やや満足
している | かなり不満
である | とても不満
である |
|----------------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 1. 高校の雰囲気…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 授業…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 友だち関係…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 部活動…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 全体として…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

～以上で終わります。長い間ありがとうございました。～

資料2 基礎集計表

全体は「無回答」を含み、性別は「無回答」を除いた割合。単位はサンプル数以外はパーセント。

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
サンプル数		1,355	621	734		
1	学年	1. 1年	675	328	347	
		2. 2年	400	173	227	
		3. 3年	280	120	160	
	性	1. 男子	621			
2. 女子		734				
2	友だちと、次のようなことをよく話すか	テレビ番組のこと	1. よく話す	29.7	27.3	31.9
			2. ときどき話す	52.6	53.9	51.6
			3. あまり話さない	14.8	15.6	14.0
			4. ぜんぜん話さない	2.8	3.2	2.5
		音楽のこと	1. よく話す	36.3	36.8	36.0
			2. ときどき話す	46.9	44.0	49.3
			3. あまり話さない	14.1	15.0	13.4
			4. ぜんぜん話さない	2.7	4.2	1.4
		家族のこと	1. よく話す	9.4	4.0	14.1
			2. ときどき話す	35.9	19.3	50.0
			3. あまり話さない	41.0	52.5	31.4
			4. ぜんぜん話さない	13.5	24.2	4.5
		こと友だちの	1. よく話す	49.7	39.0	58.9
			2. ときどき話す	42.4	50.8	35.6
			3. あまり話さない	6.9	8.9	5.2
			4. ぜんぜん話さない	0.7	1.3	0.3
		異性のこと	1. よく話す	31.7	27.9	34.9
			2. ときどき話す	42.2	43.1	41.6
			3. あまり話さない	20.9	23.1	19.1
			4. ぜんぜん話さない	5.2	6.0	4.5
		手ス タレ ポー ツ 選 や	1. よく話す	27.1	28.1	26.3
			2. ときどき話す	45.3	48.7	42.6
			3. あまり話さない	22.4	18.4	25.9
			4. ぜんぜん話さない	5.0	4.8	5.2
		趣味のこと	1. よく話す	23.3	30.8	17.0
			2. ときどき話す	40.5	41.1	40.1
			3. あまり話さない	31.4	24.2	37.5
			4. ぜんぜん話さない	4.8	4.0	5.4
		授業のこと	1. よく話す	20.6	17.6	23.2
			2. ときどき話す	44.6	44.0	45.2
			3. あまり話さない	27.2	28.9	25.7
			4. ぜんぜん話さない	7.5	9.5	5.9
		こと部活動の	1. よく話す	34.7	37.9	32.0
			2. ときどき話す	30.5	30.0	30.9
			3. あまり話さない	19.1	18.1	20.0
			4. ぜんぜん話さない	15.6	14.0	17.0
		の進路や将来	1. よく話す	16.8	11.9	21.0
			2. ときどき話す	41.0	36.4	45.1
			3. あまり話さない	32.8	38.5	28.0
			4. ぜんぜん話さない	9.2	13.2	5.9
の社会や政治	1. よく話す	2.8	3.5	2.2		
	2. ときどき話す	18.1	16.9	19.1		
	3. あまり話さない	40.6	39.3	41.7		
	4. ぜんぜん話さない	38.5	40.3	37.1		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
3	次のようなクラスメイトをどのように思うか	学校に無遅刻・無欠席で通っている人	1. とてもいい	55.6	50.9	59.8
			2. かなりいい	24.1	25.8	22.8
			3. どちらともいえない	15.9	18.7	13.6
			4. あまりよくない	2.4	3.2	1.6
			5. ぜんぜんよくない	1.8	1.4	2.2
		内職しない人も	1. とてもいい	36.2	27.4	44.0
			2. かなりいい	25.5	24.8	26.2
			3. どちらともいえない	32.6	41.2	25.5
			4. あまりよくない	4.1	4.8	3.6
			5. ぜんぜんよくない	1.2	1.8	0.7
		授業中に友達とよく話す人	1. とてもいい	4.1	4.8	3.6
			2. かなりいい	6.1	8.9	3.8
3. どちらともいえない	45.6		45.1	46.4		
4. あまりよくない	34.9		30.9	38.6		
5. ぜんぜんよくない	8.9		10.3	7.7		
成績のよい人	1. とてもいい	38.3	34.1	42.1		
	2. かなりいい	29.4	29.9	29.3		
	3. どちらともいえない	30.3	34.1	27.2		
	4. あまりよくない	0.8	1.1	0.5		
	5. ぜんぜんよくない	0.8	0.8	0.8		
運動部で活躍している人	1. とてもいい	56.8	50.0	62.6		
	2. かなりいい	28.0	29.7	26.6		
	3. どちらともいえない	14.3	19.2	10.2		
	4. あまりよくない	0.3	0.2	0.4		
	5. ぜんぜんよくない	0.5	1.0	0.1		
クラスの仕事を進んでする人	1. とてもいい	49.1	43.4	54.3		
	2. かなりいい	35.6	39.0	32.9		
	3. どちらともいえない	13.6	15.6	11.9		
	4. あまりよくない	1.0	1.5	0.5		
	5. ぜんぜんよくない	0.4	0.5	0.3		
信号が青になるまでは絶対歩道を渡らない人	1. とてもいい	24.4	22.9	25.7		
	2. かなりいい	20.2	15.6	24.1		
	3. どちらともいえない	45.2	47.3	43.5		
	4. あまりよくない	6.1	8.2	4.4		
	5. ぜんぜんよくない	4.0	6.0	2.3		
家の門限を気にせず、遅くまで遊ぶ人	1. とてもいい	4.8	6.1	3.7		
	2. かなりいい	6.3	8.4	4.5		
	3. どちらともいえない	46.3	52.7	40.9		
	4. あまりよくない	33.4	24.6	40.7		
	5. ぜんぜんよくない	9.3	8.2	10.2		
友達たちの約束を必ず守る人	1. とてもいい	74.8	74.1	75.5		
	2. かなりいい	21.5	20.9	22.1		
	3. どちらともいえない	3.4	4.7	2.3		
	4. あまりよくない	0.1	0.3	0.0		
	5. ぜんぜんよくない	0.1	0.0	0.1		
アルバイトを一生懸命する人	1. とてもいい	30.9	26.1	35.1		
	2. かなりいい	27.1	27.9	26.5		
	3. どちらともいえない	38.8	41.9	36.3		
	4. あまりよくない	2.2	3.1	1.5		
	5. ぜんぜんよくない	0.8	1.1	0.5		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
3	次のようなクラスメイトをどのように思うか	くわしい人に	1. とてもいい	18.7	17.7	19.5
			2. かなりいい	30.4	27.9	32.7
			3. どちらともいえない	46.0	49.0	43.6
			4. あまりよくない	3.2	3.1	3.3
			5. ぜんぜんよくない	1.6	2.4	1.0
		人吸ったりする	1. とてもいい	1.8	2.6	1.1
			2. かなりいい	1.8	2.4	1.4
			3. どちらともいえない	1.8	38.4	27.7
			4. あまりよくない	32.5	26.0	31.1
			5. ぜんぜんよくない	28.7	30.6	38.7
		人を出たりする	1. とてもいい	14.3	14.1	14.6
			2. かなりいい	29.5	24.6	33.9
			3. どちらともいえない	49.2	54.7	45.0
			4. あまりよくない	4.4	4.9	4.0
			5. ぜんぜんよくない	2.1	1.8	2.5
	して熱心	1. とてもいい	40.4	35.0	45.0	
		2. かなりいい	33.6	31.9	35.0	
		3. どちらともいえない	22.7	29.0	17.4	
		4. あまりよくない	2.1	2.7	1.6	
		5. ぜんぜんよくない	1.1	1.3	1.0	
4	どちらの行動をとるか	宿題を忘れていたときに気がついたとき	1. 宿題を提出しない	30.8	32.5	29.7
		2. 友だちの答えを写すなどして、提出する	68.7	67.5	70.3	
		電車やバスに乗ったとき	1. 後からの人が座れるようにつめて座る	47.8	44.7	50.6
		2. ゆったりと間隔をあけて座る	52.0	55.3	49.4	
		ちょっと疲れているのに座る場所がないとき	1. 地べたに座る	21.0	27.9	15.3
		2. できるだけ立っている	78.7	72.1	84.7	
		車内で騒いでいる子どもを見たら	1. 注意する	7.3	11.0	4.2
		2. 注意しない	92.3	89.0	95.8	
		恵まれない人の話を聞くと	1. 自分は幸せだと思う	52.1	56.5	49.0
		2. 何か手をさしのべたいと思う	47.3	43.5	51.0	
町内の行事で手伝いを頼まれたら	1. できる限り手伝う	66.3	65.5	67.6		
	2. 手伝わない	33.2	34.5	32.4		
5	いか	1. 熱心に話を聞く	6.6	7.3	6.0	
		2. 耳は傾けるが、他のことを考えていることが多い	69.4	67.2	71.5	
		3. 友だちとおしゃべりをしたり、別のことをしたりすることが多い	17.3	17.1	17.4	
		4. その他	6.6	8.4	5.0	
6	授業中、次のようなことをすることがよくあるか	先生に質問する	1. よくある	5.1	7.3	3.3
			2. ときどきある	27.5	30.5	24.9
			3. あまりない	39.0	40.2	38.0
			4. ぜんぜんない	28.4	22.1	33.8
		先生に話しかける	1. よくある	6.9	6.6	7.1
			2. ときどきある	29.4	30.5	28.5
			3. あまりない	39.5	38.4	40.5
			4. ぜんぜんない	24.1	24.4	23.9
	ノートを取る	1. よくある	72.1	62.9	80.0	
		2. ときどきある	20.4	25.5	16.2	
		3. あまりない	5.7	8.4	3.4	
		4. ぜんぜんない	1.7	3.2	0.4	
	おしゃべりする	1. よくある	17.0	18.3	15.9	
		2. ときどきある	52.5	50.6	54.2	
		3. あまりない	21.1	22.1	20.3	
		4. ぜんぜんない	9.3	9.0	9.5	

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
6	授業中、次のようなことをすることがよくあるか	紙をす友だちに渡すメモや手紙を書く	1.よくある	4.0	1.6	6.0
			2.ときどきある	17.3	4.2	28.4
			3.あまりない	28.9	22.6	34.4
			4.ぜんぜんない	49.4	71.6	31.1
		携帯電話・PHSで話ししたり、メール交換をする	1.よくある	11.2	11.8	10.8
			2.ときどきある	28.6	26.6	30.3
			3.あまりない	25.4	26.1	24.8
			4.ぜんぜんない	34.7	35.5	34.1
		宿題や別の教科や受験の勉強をする	1.よくある	10.3	11.6	9.3
			2.ときどきある	43.2	40.2	45.9
			3.あまりない	29.3	30.9	28.1
			4.ぜんぜんない	16.9	17.3	16.7
		MP3、CD、オーディオなどで音楽を聴く	1.よくある	2.5	3.1	2.0
			2.ときどきある	3.0	5.2	1.2
			3.あまりない	7.9	12.6	4.0
			4.ぜんぜんない	86.5	79.2	92.8
		マンガや雑誌、小説を読んだりする	1.よくある	4.7	5.8	3.8
			2.ときどきある	14.4	16.9	12.3
			3.あまりない	22.0	24.4	20.1
			4.ぜんぜんない	58.7	52.9	63.8
		いぬむりをする	1.よくある	25.1	30.4	20.8
			2.ときどきある	46.9	44.8	48.9
			3.あまりない	17.4	15.4	19.3
			4.ぜんぜんない	10.3	9.4	11.1
		教室を立ち歩く	1.よくある	1.2	1.6	0.8
			2.ときどきある	3.2	4.4	2.2
			3.あまりない	15.4	18.7	12.7
			4.ぜんぜんない	80.1	75.3	84.3
7	次のような授業のとき、熱心に授業に取り組むか	こわい先生の授業	1.はい	81.0	75.4	88.1
			2.いいえ	17.5	24.6	11.9
		やさしい先生の授業	1.はい	67.4	68.5	69.1
			2.いいえ	30.5	31.5	30.9
		クラス担任の授業	1.はい	71.4	72.3	74.5
			2.いいえ	25.8	27.7	25.5
		熱心な先生の授業	1.はい	81.1	82.0	83.3
			2.いいえ	17.0	18.0	16.7
		自分の興味のある教科の授業	1.はい	97.2	96.8	98.4
			2.いいえ	2.4	3.2	1.6
		受験にかかわる教科の授業	1.はい	83.6	82.2	84.7
			2.いいえ	16.4	17.8	15.3
		体育や音楽など実技授業	1.はい	80.8	82.5	81.5
			2.いいえ	17.8	17.5	18.5
8	つとめ役として思うか	1.大いに役に立つと思う	8.0	8.3	7.9	
		2.かなり役に立つと思う	37.9	38.0	38.3	
		3.あまり役に立たないと思う	47.6	45.6	50.0	
		4.ぜんぜん役に立たないと思う	5.8	8.1	3.9	
9	と見マテときンレガビるをや	1.とても充実している	33.4	28.4	37.7	
		2.やや充実している	47.8	51.3	45.0	
		3.あまり充実していない	16.3	17.1	15.7	
		4.ぜんぜん充実していない	2.4	3.2	1.6	

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別					
			男子	女子				
9	次のようなとき、どのくらい充実感を感じるか	音楽を聴いているとき	1. とても充実している 50.7	2. やや充実している 40.0	3. あまり充実していない 8.7	4. ぜんぜん充実していない 0.4	46.0	54.8
		家族と一緒にいるとき	1. とても充実している	21.6	15.0	27.3		
			2. やや充実している	49.4	52.1	47.3		
			3. あまり充実していない	22.8	27.1	19.2		
			4. ぜんぜん充実していない	6.0	5.8	6.1		
		友達と一緒にいるとき	1. とても充実している	61.2	54.4	67.0		
			2. やや充実している	34.5	39.8	30.0		
			3. あまり充実していない	3.5	4.4	2.7		
			4. ぜんぜん充実していない	0.8	1.5	0.3		
		学校で勉強をしているとき	1. とても充実している	8.7	8.9	8.6		
			2. やや充実している	38.3	34.7	41.5		
			3. あまり充実していない	39.4	40.6	38.5		
4. ぜんぜん充実していない	13.4		15.8	11.3				
家で勉強をしているとき	1. とても充実している	14.0	15.2	13.1				
	2. やや充実している	32.6	29.1	35.8				
	3. あまり充実していない	34.6	33.8	35.5				
	4. ぜんぜん充実していない	18.5	22.0	15.6				
予備校、塾で勉強をしているとき	1. とても充実している	6.4	5.8	7.0				
	2. やや充実している	10.0	10.0	10.0				
	3. あまり充実していない	9.2	12.3	6.6				
	4. ぜんぜん充実していない	3.2	4.5	2.0				
	5. していない	71.0	67.4	74.5				
部活動をしているとき	1. とても充実している	40.2	46.9	34.9				
	2. やや充実している	23.4	21.2	25.4				
	3. あまり充実していない	8.5	7.6	9.3				
	4. ぜんぜん充実していない	2.1	2.8	1.6				
	5. していない	25.3	21.5	28.7				
クラスの活動に参加しているとき	1. とても充実している	42.7	36.1	48.5				
	2. やや充実している	37.0	38.7	35.8				
	3. あまり充実していない	15.1	19.0	11.9				
	4. ぜんぜん充実していない	4.9	6.2	3.8				
奉仕活動やボランティア活動をしているとき	1. とても充実している	17.7	13.8	21.2				
	2. やや充実している	29.5	28.0	31.1				
	3. あまり充実していない	15.1	18.9	11.9				
	4. ぜんぜん充実していない	2.4	3.9	1.1				
	5. していない	34.9	35.4	34.7				
10	今、次のことをどのくらい大事に思っているか	学校に毎日行くこと	1. とても大事	46.0	49.0	43.5		
			2. まあ大事	38.7	37.4	40.0		
			3. どちらともいえない	7.8	6.1	9.3		
			4. それほど大事でない	5.1	5.0	5.2		
			5. ぜんぜん大事でない	2.2	2.4	2.0		
	学校に遅刻しないこと	1. とても大事	33.7	30.2	36.7			
		2. まあ大事	43.9	43.5	44.3			
		3. どちらともいえない	12.3	13.5	11.3			
		4. それほど大事でない	7.7	10.0	5.7			
		5. ぜんぜん大事でない	2.3	2.7	1.9			

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
10	今、次のことをどのくらい大事に思っているか	をまじめに授業を聞くこと	1. とても大事	33.6	34.2	33.1
			2. まあ大事	47.1	44.8	49.0
			3. どちらともいえない	13.8	13.9	13.8
			4. それほど大事でない	3.8	5.5	2.5
			5. ぜんぜん大事でない	1.6	1.6	1.6
		こと 校則を守る	1. とても大事	13.3	16.5	10.6
			2. まあ大事	36.5	36.1	36.8
			3. どちらともいえない	29.7	27.7	31.5
			4. それほど大事でない	15.7	15.5	15.9
			5. ぜんぜん大事でない	4.7	4.2	5.2
こと 勉強をする	1. とても大事	31.5	33.8	29.8		
	2. まあ大事	44.2	43.5	45.1		
	3. どちらともいえない	17.0	14.9	18.9		
	4. それほど大事でない	5.2	6.1	4.5		
	5. ぜんぜん大事でない	1.7	1.8	1.6		
懸命すること 部活動を一生懸命すること	1. とても大事	47.1	52.7	42.4		
	2. まあ大事	28.9	22.6	34.2		
	3. どちらともいえない	15.4	14.7	16.1		
	4. それほど大事でない	3.8	4.7	3.0		
	5. ぜんぜん大事でない	4.8	5.3	4.4		
こと 掃除当番をきちんとする	1. とても大事	19.6	19.8	19.3		
	2. まあ大事	39.9	35.8	43.3		
	3. どちらともいえない	25.3	27.3	23.7		
	4. それほど大事でない	11.5	11.6	11.4		
	5. ぜんぜん大事でない	3.7	5.5	2.2		
通うこと 塾、予備校に通うこと	1. とても大事	3.6	3.7	3.6		
	2. まあ大事	7.4	6.9	7.8		
	3. どちらともいえない	30.4	28.3	32.4		
	4. それほど大事でない	26.9	24.7	29.0		
	5. ぜんぜん大事でない	31.4	36.3	27.3		
こと アルバイトを一生懸命すること	1. とても大事	13.6	11.5	15.5		
	2. まあ大事	18.7	16.5	20.8		
	3. どちらともいえない	40.4	39.6	41.5		
	4. それほど大事でない	14.2	15.3	13.3		
	5. ぜんぜん大事でない	12.7	17.1	9.0		
こと 友だち関係を大事にする	1. とても大事	79.2	74.0	83.8		
	2. まあ大事	16.5	20.2	13.4		
	3. どちらともいえない	3.2	4.0	2.5		
	4. それほど大事でない	0.8	1.3	0.4		
	5. ぜんぜん大事でない	0.2	0.5	0.0		
こと 異性につきあうこと	1. とても大事	29.6	35.2	25.0		
	2. まあ大事	32.5	32.7	32.6		
	3. どちらともいえない	28.9	25.3	32.1		
	4. それほど大事でない	5.9	5.0	6.7		
	5. ぜんぜん大事でない	2.7	1.8	3.6		
こと ショーンに気をつけること	1. とても大事	25.6	20.3	30.2		
	2. まあ大事	41.1	38.5	43.4		
	3. どちらともいえない	24.6	31.0	19.3		
	4. それほど大事でない	6.2	7.3	5.3		
	5. ぜんぜん大事でない	2.3	2.9	1.8		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
10	今、次のことをどのくらい大事に思っているか	流行に遅れないようにすること	1. とても大事	11.4	11.3	11.6
			2. まあ大事	27.5	26.8	28.1
			3. どちらともいえない	36.3	37.1	35.7
			4. それほど大事でない	14.5	14.2	14.9
			5. ぜんぜん大事でない	10.1	10.6	9.7
		読書をする	1. とても大事	21.1	18.7	23.2
			2. まあ大事	39.2	35.9	42.1
			3. どちらともいえない	25.2	28.5	22.4
			4. それほど大事でない	10.6	12.6	8.9
			5. ぜんぜん大事でない	3.8	4.3	3.4
		親の信頼を裏切らないこと	1. とても大事	15.1	16.1	14.3
			2. まあ大事	34.0	34.5	33.9
			3. どちらともいえない	33.9	32.9	35.2
			4. それほど大事でない	11.6	11.3	12.0
			5. ぜんぜん大事でない	4.9	5.2	4.7
		他人に迷惑をかけること	1. とても大事	54.4	52.4	56.9
			2. まあ大事	35.2	35.4	35.5
			3. どちらともいえない	7.8	9.9	6.2
			4. それほど大事でない	1.5	1.8	1.2
			5. ぜんぜん大事でない	0.3	0.5	0.1
		ボランティア活動、奉仕活動に参加すること	1. とても大事	14.8	12.3	16.9
			2. まあ大事	35.9	31.8	39.5
			3. どちらともいえない	34.5	36.5	32.9
			4. それほど大事でない	9.6	11.5	8.1
			5. ぜんぜん大事でない	5.1	8.1	2.6
社会のためにつくすこと	1. とても大事	11.4	11.1	11.6		
	2. まあ大事	27.9	24.8	30.6		
	3. どちらともいえない	41.6	40.6	42.7		
	4. それほど大事でない	12.3	13.4	11.5		
	5. ぜんぜん大事でない	6.6	10.1	3.6		
11	次のようなことはあなた自身にとって大切なことだと思うか	自分の好きなことをする	1. とても大切	78.0	76.2	79.7
			2. やや大切	21.0	22.2	20.1
			3. あまり大切でない	0.8	1.4	0.3
			4. ぜんぜん大切でない	0.1	0.2	0.0
		自分をこまかさない	1. とても大切	51.7	49.8	53.4
			2. やや大切	40.9	41.4	40.6
			3. あまり大切でない	6.6	7.9	5.6
			4. ぜんぜん大切でない	0.7	1.0	0.4
		自分が興味あるものを持っているか	1. とても大切	73.6	73.9	73.5
			2. やや大切	23.2	22.9	23.5
			3. あまり大切でない	2.7	2.6	2.9
			4. ぜんぜん大切でない	0.4	0.6	0.1
		自分で決めたことに努力する	1. とても大切	75.1	72.9	77.0
			2. やや大切	23.1	24.6	21.9
			3. あまり大切でない	1.2	1.6	0.8
			4. ぜんぜん大切でない	0.5	0.8	0.3
		自分の将来について考える	1. とても大切	64.0	58.1	69.0
			2. やや大切	31.1	35.4	27.4
			3. あまり大切でない	4.4	5.5	3.4
			4. ぜんぜん大切でない	0.5	1.0	0.1

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
11	次のようなことは、あなた自身にとって大切なことだと思っか	自分の夢に向かって突き進む	1. とても大切	63.1	59.9	65.9
			2. やや大切	31.5	34.1	29.3
			3. あまり大切でない	4.4	4.5	4.4
			4. ぜんぜん大切でない	0.9	1.4	0.4
		信仰心を持つ	1. とても大切	14.4	15.0	14.0
			2. やや大切	30.6	29.7	31.7
			3. あまり大切でない	37.7	35.0	40.4
			4. ぜんぜん大切でない	16.8	20.3	13.9
		道徳心を持つ	1. とても大切	36.5	34.6	38.5
			2. やや大切	47.0	47.5	47.0
			3. あまり大切でない	13.6	14.5	12.9
			4. ぜんぜん大切でない	2.4	3.4	1.5
		正義感を持つ	1. とても大切	29.6	31.7	27.9
			2. やや大切	50.8	48.0	53.3
			3. あまり大切でない	16.8	16.4	17.1
			4. ぜんぜん大切でない	2.7	3.9	1.8
		社会の問題に興味を持つ	1. とても大切	21.8	21.3	22.3
			2. やや大切	50.8	48.4	53.3
			3. あまり大切でない	23.0	25.3	21.1
			4. ぜんぜん大切でない	4.1	5.0	3.3
		将来、社会に役立つようになる人間に	1. とても大切	28.8	27.4	30.1
			2. やや大切	41.5	40.2	42.9
			3. あまり大切でない	22.7	23.7	21.9
			4. ぜんぜん大切でない	6.8	8.7	5.2
12	「あなたはまじめだね」と言われたらどう思っか	親から	1. とてもうれしい	6.8	6.4	7.1
			2. わりとうれしい	23.2	22.7	23.6
			3. どちらともいえない	40.0	38.5	41.3
			4. あまりうれしくない	16.6	17.4	16.0
			5. まったくうれしくない	13.4	15.0	12.0
		担任の先生から	1. とてもうれしい	11.1	10.5	11.6
			2. わりとうれしい	28.8	30.0	27.8
			3. どちらともいえない	36.0	35.1	36.8
			4. あまりうれしくない	13.7	13.4	13.9
			5. まったくうれしくない	10.4	11.1	9.8
		クラスメイトから	1. とてもうれしい	6.1	8.5	4.1
			2. わりとうれしい	16.8	20.3	13.8
			3. どちらともいえない	35.1	36.7	33.7
			4. あまりうれしくない	24.3	18.7	29.1
			5. まったくうれしくない	17.7	15.8	19.4
13	自分はまじめだったと思っか	時代小学校	1. まじめ(だった)	49.3	48.3	50.2
			2. どちらともいえない	33.4	31.4	35.1
			3. まじめでない(でなかった)	17.3	20.3	14.7
		時代中学校	1. まじめ(だった)	42.1	36.4	47.0
			2. どちらともいえない	41.8	43.5	40.4
			3. まじめでない(でなかった)	16.0	20.1	12.6
		代(高校)現在	1. まじめ	14.9	15.0	14.9
			2. どちらともいえない	60.7	57.8	63.4
			3. まじめでない	24.2	27.2	21.7
14	人間にとって大切なことである努力、一生懸命にする	1. はい	46.3	48.0	45.6	
			52.8	52.0	54.4	
		2. いいえ	86.4	83.4	89.3	
			13.4	16.6	10.7	

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
14	「まじめ」という言葉のイメージ	融通がきかなくて、堅苦しい	1. はい 2. いいえ	58.5 41.1	50.7 49.3	65.5 34.5
		素朴さ、正直さ、誠実さを感じる	1. はい 2. いいえ	67.1 32.5	72.2 27.8	63.2 36.8
		今の若者にはあまりうけない	1. はい 2. いいえ	65.7 33.7	64.1 35.9	67.9 32.1
		日本人から失われつつある	1. はい 2. いいえ	54.3 44.9	59.5 40.5	50.6 49.4
		正義感に満ちている	1. はい 2. いいえ	53.0 46.4	52.0 48.0	54.4 45.6
		どこかうそっぽいイメージがある	1. はい 2. いいえ	40.4 58.8	37.9 62.1	43.2 56.8
		好きな言葉	1. はい 2. いいえ	9.1 90.3	12.4 87.6	6.3 93.7
		15	「まじめ」についての意見をどう思うか	高校生のまじめさは学校での外見や行動でわかる	1. そう思う 2. そう思わない	32.8 66.8
まじめと思われている生徒にはまじめぶっている人が多い	1. そう思う 2. そう思わない			57.3 42.0	61.7 38.3	54.4 45.6
学校外では結構遊んでいる人がいる	1. そう思う 2. そう思わない			74.7 24.4	81.1 18.9	70.6 29.4
まじめだからといって、人がいいとは限らない	1. そう思う 2. そう思わない			92.9 6.6	91.8 8.2	94.6 5.4
友だちの目を気にしてまじめに振舞うことがある	1. そう思う 2. そう思わない			47.9 51.4	49.4 50.6	47.2 52.8
一見まじめそうに見せて、おとなをだますのは簡単だ	1. そう思う 2. そう思わない			52.8 46.6	48.6 51.4	56.9 43.1
目立つ格好でも、まじめに生き方を考えている人は結構いる	1. そう思う 2. そう思わない			93.4 6.1	90.5 9.5	96.7 3.3
17	「自分」について、次のようなことがあてはまるか	好きだ今の自分が	1. そう 2. まあそう 3. あまりそうではない 4. そうではない	8.9 40.1 37.6 12.7	10.4 45.7 34.3 9.6	7.8 36.0 40.8 15.5
		自分には自	1. そう 2. まあそう 3. あまりそうではない 4. そうではない	29.1 42.5 23.1 4.8	33.7 41.7 20.9 3.7	25.4 43.6 25.2 5.7
		状況によつ	1. そう 2. まあそう 3. あまりそうではない 4. そうではない	43.8 41.6 11.0 3.1	43.9 40.7 12.2 3.2	44.0 42.8 10.1 3.0
		自分にはど	1. そう 2. まあそう 3. あまりそうではない 4. そうではない	13.6 33.1 42.7 10.0	14.0 33.1 40.9 12.0	13.4 33.5 44.6 8.5
		状況によつ	1. そう 2. まあそう 3. あまりそうではない 4. そうではない	24.4 36.8 28.1 10.0	23.8 33.4 31.3 11.6	25.2 40.1 25.9 8.8
		本当の自分	1. そう 2. まあそう 3. あまりそうではない 4. そうではない	23.5 20.2 34.7 20.7	29.1 20.3 31.5 19.2	19.1 20.5 38.0 22.3

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別				
			男子	女子			
17	「自分」について、次のようなことがあてはまるか	どこのか今	1. そう	26.9	26.5	27.8	
		の自分と違	2. まあそう	34.2	34.1	34.8	
		う本当の自	3. あまりそうではない	25.8	23.6	28.1	
		分があると	4. そうではない	12.2	15.8	9.4	
		思う	1. そう	43.8	42.8	45.3	
		だと思っ	2. まあそう	30.4	31.4	30.0	
		ことが大切	3. あまりそうではない	18.4	17.7	19.2	
		うけよう	4. そうではない	6.6	8.1	5.5	
		まわりから	1. そう	18.6	20.4	17.4	
		うけよう	2. まあそう	38.8	41.9	36.9	
		と	3. あまりそうではない	33.6	29.3	37.7	
		4. そうではない	8.1	8.5	8.0		
18	人生について、どのように考えているか	人の持つて	1. そう	50.2	54.1	47.5	
		いないもの	2. まあそう	30.2	26.8	33.4	
		つけ	3. あまりそうではない	14.5	14.1	14.9	
		4. そうではない	4.4	4.9	4.1		
		どんな相手	1. そう	11.4	12.3	10.8	
		にも自分	2. まあそう	23.0	28.2	18.9	
		打ち明	3. あまりそうではない	39.9	36.6	43.2	
		4. そうではない	25.0	22.9	27.1		
		困難にぶつ	1. そう	25.3	26.5	24.8	
		かつても自	2. まあそう	46.8	48.5	46.1	
		分のため	3. あまりそうではない	23.6	21.9	25.5	
		か	4. そうではない	3.3	3.1	3.6	
18	人生について、どのように考えているか	生きてい	1. そう思う	55.1	56.6	54.4	
		る実感の	2. どちらともいえない	39.6	37.8	41.4	
		の	3. そうは思わない	4.9	5.7	4.2	
		自分の夢	1. そう思う	54.0	57.5	51.6	
		の実現の	2. どちらともいえない	38.2	34.0	42.0	
		の	3. そうは思わない	7.3	8.4	6.4	
		今が大切	1. そう思う	45.2	49.0	42.5	
		で	2. どちらともいえない	36.3	34.4	38.4	
		き	3. そうは思わない	17.9	16.6	19.2	
		今が	1. そう思う	45.9	48.9	44.0	
		く	2. どちらともいえない	41.0	39.4	42.8	
		が	3. そうは思わない	12.4	11.7	13.1	
19	人生について、どのように考えているか	就職難の	1. そう思う	45.5	47.6	44.3	
		世の中	2. どちらともいえない	38.5	35.4	41.5	
		の	3. そうは思わない	15.4	16.9	14.2	
		どつ	1. そう思う	22.1	27.1	18.2	
		な	2. どちらともいえない	39.5	38.2	41.1	
		わ	3. そうは思わない	37.7	34.7	40.7	
		今	1. そう思う	50.6	51.8	50.3	
		して	2. どちらともいえない	39.2	38.9	40.1	
		こと	3. そうは思わない	9.4	9.3	9.6	
		19	偏差値の	1. 重要	9.8	14.5	6.0
				2. やや重要	33.1	36.8	30.4
				3. あまり重要でない	36.2	31.9	40.4
4. 重要でない	20.1			16.8	23.3		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
19	次のことはあなたの将来にとってどのくらい重要か	自分の好きな職業に くこと	1. 重要	82.2	82.1	83.4
			2. やや重要	14.8	15.0	14.9
			3. あまり重要でない	2.0	2.6	1.5
			4. 重要でない	0.2	0.3	0.1
		社会的評価 の 高い職業 につくこと	1. 重要	10.3	13.5	7.7
			2. やや重要	28.6	30.1	27.8
			3. あまり重要でない	42.3	39.3	45.4
			4. 重要でない	18.1	17.1	19.2
		高い収入を 得ること	1. 重要	31.9	35.9	29.0
			2. やや重要	47.0	44.4	49.9
			3. あまり重要でない	15.8	15.8	16.0
			4. 重要でない	4.5	3.9	5.1
		幸せな家庭 を築くこと	1. 重要	73.1	71.8	75.2
			2. やや重要	18.9	19.4	18.7
			3. あまり重要でない	4.6	5.9	3.7
			4. 重要でない	2.6	2.9	2.3
20	次のことに関して、あなたは親と比べて、すぐれていると思うか	好きなこと に打ち込む力	1. 自分の方がすぐれている	47.3	49.1	46.4
			2. 同じくらい	37.3	35.3	39.5
			3. 親の方がすぐれている	14.7	15.6	14.1
		何事にも がんばる力	1. 自分の方がすぐれている	23.7	24.5	23.4
			2. 同じくらい	42.7	42.2	44.0
			3. 親の方がすぐれている	32.6	33.3	32.6
		友だちと のつきあ いを大切 にするこ と	1. 自分の方がすぐれている	43.1	46.4	41.0
			2. 同じくらい	45.6	43.3	48.3
			3. 親の方がすぐれている	10.4	10.3	10.7
		誰とでも 上手につ きあうこ と	1. 自分の方がすぐれている	29.7	32.6	27.7
			2. 同じくらい	41.0	39.3	43.2
			3. 親の方がすぐれている	28.3	28.1	29.1
		親を大切 にする気 持ち	1. 自分の方がすぐれている	17.2	21.3	14.0
			2. 同じくらい	49.7	46.8	53.0
			3. 親の方がすぐれている	32.2	31.9	33.0
		責任感 (責任を 果たす 気持ち)	1. 自分の方がすぐれている	18.2	19.7	17.1
	2. 同じくらい	37.8	37.7	38.4		
	3. 親の方がすぐれている	43.2	42.6	44.4		
正義感 (不正を 憎む気 持ち)	1. 自分の方がすぐれている	16.7	19.0	15.0		
	2. 同じくらい	45.7	42.4	49.1		
	3. 親の方がすぐれている	36.8	38.5	35.9		
愛国心 (国のこ とを思う 気持ち)	1. 自分の方がすぐれている	6.2	8.7	4.3		
	2. 同じくらい	59.3	54.7	65.0		
	3. 親の方がすぐれている	32.8	36.6	30.8		
環境や 地球への やさしさ	1. 自分の方がすぐれている	22.9	27.1	19.8		
	2. 同じくらい	49.7	47.8	52.1		
	3. 親の方がすぐれている	26.5	25.1	28.1		
21	今の日本の社会や人々に ついて感じること	物質的に豊 かな社会だ	1. とてもそう思う	45.9	48.1	44.3
			2. まあそう思う	39.9	38.5	41.2
			3. あまりそう思わない	10.9	10.7	11.2
			4. まったくそう思わない	3.0	2.8	3.3
		自分のこと しか考えな い人が多い	1. とてもそう思う	36.9	40.0	34.5
		2. まあそう思う	46.3	43.2	49.0	
		3. あまりそう思わない	15.4	15.4	15.5	
		4. まったくそう思わない	1.2	1.5	1.0	

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別				
			男子	女子			
21	今の日本の社会や人々について感じることを	会だ 報われ る社 会だ	1. とてもそう思う	10.0	15.0	5.7	
			2. まあそう思う	28.3	30.3	26.7	
			3. あまりそう思わない	48.6	40.6	55.5	
			4. まったくそう思わない	12.9	14.1	12.0	
		る社 会だ	お金持 ちや 地位の 高い 人が得 をす きる	1. とてもそう思う	43.4	48.5	39.5
				2. まあそう思う	37.0	33.1	40.6
				3. あまりそう思わない	15.4	14.7	16.1
				4. まったくそう思わない	3.8	3.7	3.8
		きる	新聞や テレビ からの 報道は 信用で きる	1. とてもそう思う	4.0	5.2	3.0
				2. まあそう思う	30.7	31.2	30.4
				3. あまりそう思わない	50.6	46.8	54.2
				4. まったくそう思わない	14.4	16.8	12.4
てまり ない 理解し 切	おとな は若 者の考 えや 気持ち をあ や	1. とてもそう思う	35.0	31.7	38.0		
		2. まあそう思う	47.2	46.8	48.0		
		3. あまりそう思わない	15.9	18.9	13.4		
		4. まったくそう思わない	1.5	2.6	0.7		
22	現在の自分や社会についてどう思うか	切 た	どち らか とい う社 会の こ の自 分の 大	1. とてもそう思う	31.7	35.0	29.2
				2. わりとそう思う	54.8	51.5	57.9
				3. あまりそう思わない	12.2	12.6	11.9
				4. ぜんぜんそう思わない	1.0	1.0	1.0
		事 に し た い	自 分 な り の 生 き 方 を 大	1. とてもそう思う	58.5	60.0	57.6
				2. わりとそう思う	37.7	36.1	39.3
				3. あまりそう思わない	3.2	3.6	2.9
				4. ぜんぜんそう思わない	0.3	0.3	0.3
		る こ ろ を 考 え て い 	日 本 の 将 来 に つ い て い 	1. とてもそう思う	21.8	22.4	21.6
				2. わりとそう思う	29.4	31.3	28.1
				3. あまりそう思わない	39.2	37.0	41.5
				4. ぜんぜんそう思わない	9.0	9.4	8.8
		い が わ か ら な い	将 来 の 目 標	1. とてもそう思う	21.5	21.3	22.0
				2. わりとそう思う	31.1	31.4	31.1
				3. あまりそう思わない	28.6	29.1	28.4
				4. ぜんぜんそう思わない	18.3	18.2	18.6
		ほ し い	お と な は も つ と、 人 生 を 楽 し ん で	1. とてもそう思う	19.9	22.9	17.6
				2. わりとそう思う	42.2	40.3	44.4
				3. あまりそう思わない	31.6	30.7	32.8
				4. ぜんぜんそう思わない	5.6	6.2	5.2
		と 思 う	自 分 た ち の 力 で 社 会 を 変 え て い け	1. とてもそう思う	12.3	16.0	9.3
				2. わりとそう思う	25.4	26.9	24.3
				3. あまりそう思わない	49.4	42.3	55.7
				4. ぜんぜんそう思わない	12.5	14.7	10.7
23	高校の部活動	1. 運動部に入り、熱心に活動している	45.5	57.9	35.5		
		2. 運動部に入っているが、熱心ではない	9.2	9.6	9.0		
		3. 文化部に入り、熱心に活動している	10.8	4.4	16.2		
		4. 文化部に入っているが、熱心ではない	5.0	1.5	8.0		
		5. 以前は入っていたが、今はやめた	16.9	17.0	16.9		
		6. 入ったことがない	12.2	9.7	14.3		
24	現在の成績	1. 上の方	9.6	9.2	10.0		
		2. 中の上くらい	21.7	19.0	24.2		
		3. 中くらい	26.3	25.6	27.2		
		4. 中の下くらい	20.5	19.1	21.9		
		5. 下の方	21.3	27.1	16.7		

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
[25]	今のところ、高校卒業後の進路をどう考えているか	1. 入るのが難しい4年制大学	27.5	33.5	22.6	
		2. 普通程度の4年制大学	43.5	47.2	40.5	
		3. 短大	3.6	1.0	5.9	
		4. 専修学校・専門学校	10.5	4.9	15.3	
		5. 就職	4.5	4.0	4.9	
		6. フリーター、アルバイト	0.4	0.3	0.5	
		7. まだ決めていない	8.1	7.4	8.7	
		8. その他	1.6	1.6	1.6	
[26]	現在の高校に満足しているか	高校の雰囲気	1. とても満足している	18.3	19.1	17.8
		2. かなり満足している	19.4	20.6	18.6	
		3. やや満足している	42.4	41.7	43.3	
		4. かなり不満である	11.7	10.7	12.7	
		5. とても不満である	7.7	7.9	7.7	
	授業	1. とても満足している	6.3	7.8	5.2	
	2. かなり満足している	14.2	14.0	14.6		
	3. やや満足している	50.6	50.2	51.3		
	4. かなり不満である	20.4	19.8	21.1		
	5. とても不満である	8.0	8.3	7.8		
	友だち関係	1. とても満足している	28.6	25.5	31.5	
	2. かなり満足している	32.7	36.4	30.0		
	3. やや満足している	30.4	30.5	30.7		
	4. かなり不満である	5.2	5.2	5.3		
	5. とても不満である	2.4	2.4	2.5		
	部活動	1. とても満足している	24.4	28.0	23.2	
	2. かなり満足している	20.1	21.0	20.9		
	3. やや満足している	29.8	26.3	35.4		
	4. かなり不満である	11.6	13.2	11.1		
	5. とても不満である	9.9	11.4	9.4		
全体として	1. とても満足している	13.1	13.0	13.4		
2. かなり満足している	26.6	27.6	26.0			
3. やや満足している	44.4	43.7	45.6			
4. かなり不満である	10.7	10.6	10.9			
5. とても不満である	4.6	5.2	4.1			